DENON

取扱説明書

DHT-1000DV

HOME THEATER SYSTEM

ホームシアターシステム

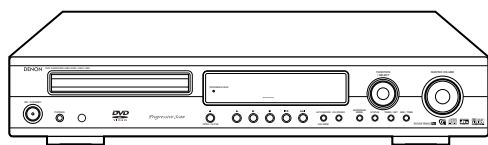
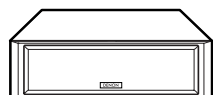
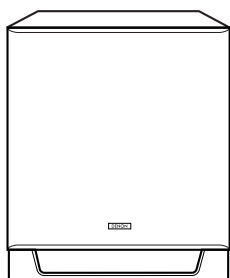
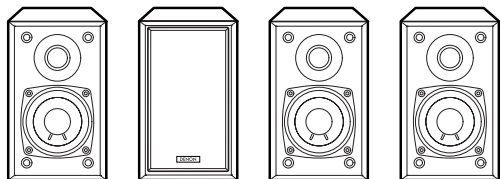
ADV-1000 / USYS-1000

ADV-1000

DVD SURROUND AMPLIFIER

DVDサラウンドアンプ

ADV-1000

ADV-1000　DVDサラウンドアンプユニット

USYS-1000　スピーカーユニットパック（DHT-1000DVのみ）

（USC-C1000）　（USW-1000）

（USC-A1000×4本）

安全にお使いいただくために－必ずお守りください。

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は、後日お役に立つこともありますので、必ず保存してください。

目　次

1 安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

絵表示について　この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

 警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

 注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

【絵表示の例】

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

警 告

■安全上お守りいただきたいこと

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

電源プラグをコンセントから抜け

煙が出ている、変なにおいがする、異常な音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理をご依頼ください。
お客様による修理は危険ですので絶対におやめください。

内部に異物を入れない

通風孔・ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

水が入ったり、濡らしたりしないように

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。火災・感電の原因となります。

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

キャビネット（裏ぶた）を外したり、改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、触ると感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。
この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

安全上のご注意（つづき）

警 告 つづき

■安全上お守りいただきたいこと

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

雷が鳴り出したら

電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

落としたり、キャビネットを破損した場合は

まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■取り扱いについて

風呂・シャワー室では使用しない

水場での
使用禁止

火災・感電の原因となります。

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器を置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

この機器の上に小さな金属物を置かない

万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

注 意

■安全上お守りいただきたいこと

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは

電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

ディスク挿入口に手を入れない

指を挟まれない
よう注意

特に幼いお子様にご注意ください。けがの原因となることがあります。万一手を挟まれた場合は、すぐに本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

⚠ 注意 つづき

■安全上お守りいただきたいこと

電池を交換する場合は

極性表示に注意し、表示通りに正しく入れてください。間違えますと電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。指定以外の電池は使用しないでください。また新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

レーザー光源をのぞき込まない

レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

長時間歪んだ状態で使わない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

■置き場所について

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

壁や他の機器から少し離して設置する

壁から少し離して据え付けてください。また放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

注 意 つづき

■取り扱いについて

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いて使用する

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

移動させる場合は

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

この機器の上にテレビなどを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

■使わないときは

長時間の外出・旅行の場合は

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

■お手入れについて

お手入れの際は

安全のため電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。感電の原因となることがあります。

5年に一度は内部の掃除を

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。

なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

2 取り扱い上のご注意

（1）DVDサラウンドアンプユニット

結露現象について

■ **結露とは**

冬期に暖房をした部屋の窓ガラスに水滴がつくような現象をいいます。

■ **結露が起こる条件は**

冬期などに本機を戸外から暖房中の室内に持ち込んだり部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、本機内部の動作部に露がつき正常に動作しなくなることがあります。
結露は夏にエアコンの風が直接当たるところでも起こることがあります。その場合には本機の設置場所を変えてください。

■ **結露後の処置は**

◎結露が起こった場合は、電源を入れてしばらく放置しておいてください。周囲の状況によって異なりますが、1～2時間で使用できるようになります。
◎ディスクに露がついている場合がありますので、きれいに拭き取ってください。

著作権について

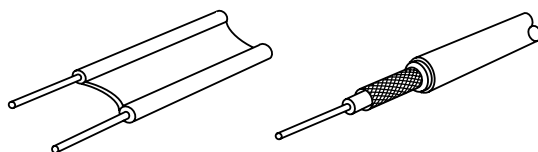
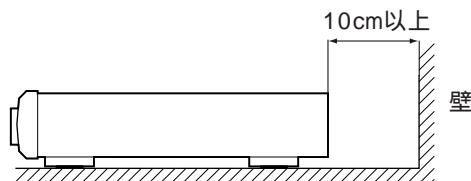
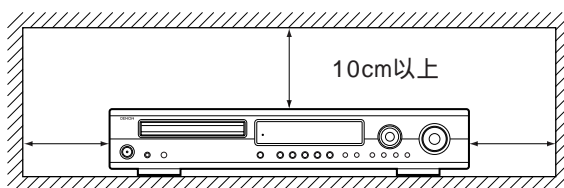
■ ディスクを無断で複製・放送・公開演奏・レンタルすることは法律により禁じられています。

FMやAM放送を受信している場合

■ FMやAM放送を受信しているときに本機の電源が入っているとFMやAM放送の受信音に雑音が入る場合があります。本機を使用しないときは電源を切って置いてください。

設置の際のご注意

■ 本機やマイクロコンピューターを搭載した電子機器をチューナーやテレビと同時に使用する場合、チューナー・テレビの音声や映像に雑音や画面の乱れが生じることがあります。このような場合には次の点に注意してください。

◎本機をチューナーやテレビからできるだけ離してください。
◎チューナーやテレビのアンテナ線を本機の電源コードおよび入出力などの接続コードから離して設置してください。
◎特に室内アンテナや300Ωフィーダー線をご使用の場合に起こりやすいので、屋外アンテナおよび75Ω同軸ケーブルのご使用をおすすめします。

■ 放熱のため、本機の天面、後面および両側面と壁や他のAV機器などとは10cm以上離して設置してください。（下図参照）

取り扱い上のご注意（つづき）

その他のご注意

■ 入力端子に機器を接続していない状態で入力の切り替えをおこなうと、クリックノイズが発生することがあります。このような場合は、主音量調節つまみを絞るか、入力端子に機器を接続してください。

■ 電源ボタンを押してスタンバイ状態にしても、一部の回路は通電していますので、外出やご旅行の場合は必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

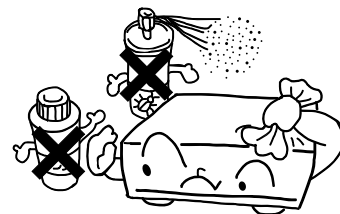
■ プリアウト端子およびスピーカー端子には、ミューティング回路が組み込まれています。このため、電源投入後数秒間は出力信号が大幅に減衰されます。この動作時に音量を調節しますと、ミューティング終了後非常に大きな出力となりますので、音量調節は必ずミューティング終了後におこなってください。

■ 取扱説明書を保存してください。
この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保存してください。また、裏表紙の記入欄に必要事項を記入しておくと便利です。

お手入れについて

■ キャビネットや操作パネル部分の汚れを拭き取るときは柔らかい布を使用して軽く拭き取ってください。

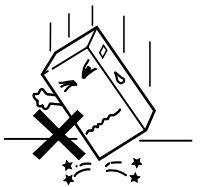
◎化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

■ ベンジン・シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質したり変色することがありますので使用しないでください。

使わないときは

■ ふだん使わないとき

◎必ずディスクを取り出し、電源を切ってください。
◎外出やご旅行の場合は、必ず電源プラグを電源コンセントから抜いてください。

■ 移動させるとき

◎床などを傷つける恐れがありますので、引きずらないでください。
◎衝撃を与えないでください。
◎必ずディスクを取り出し、接続コードを外したことを確認してからおこなってください。

ご注意

本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので、実物とは異なる場合があります。

ステレオ音のエチケット

◎楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。
◎隣り近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
◎ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で小さくも大きくもなります。
◎特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。
◎窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
◎お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

（2）スピーカーユニット【DHT-1000DVのみ】

設置の際は設置場所・設置方法の安全性を十分ご確認ください。

スタンド、ブラケットなどを使用する場合はそれらの説明書に従い、安全性を確認の上ご使用または設置してください。天井や壁への取り付けは、安全性確保のため、専門施行業者へ依頼してください。設置や取り付け不備による落下などによるいかなる損害、事故についても当社はその責を負いません。

設置の際のご注意

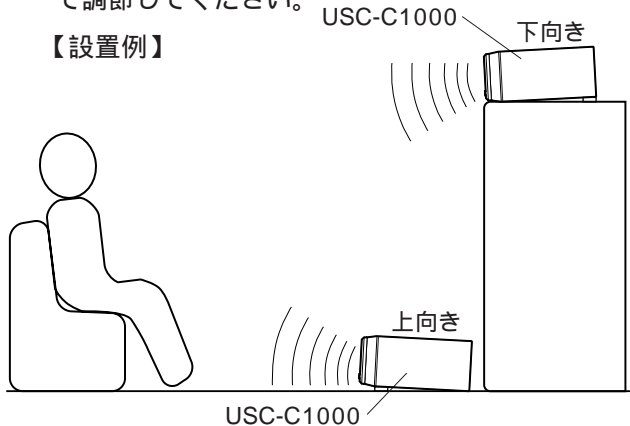
スピーカーシステムの音質は、部屋の大きさ・形態（洋室、和室）・設置のしかたによって変わりますので、次のことに留意して設置してください。

■ スピーカーシステムをレコードプレーヤーと同じ台や棚の上に設置するとハウリングを起こすことがありますので、ご注意ください。

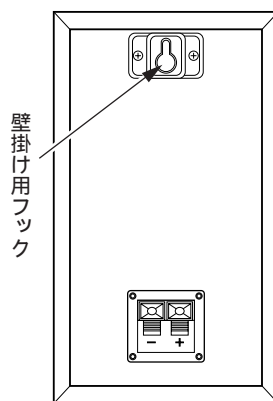
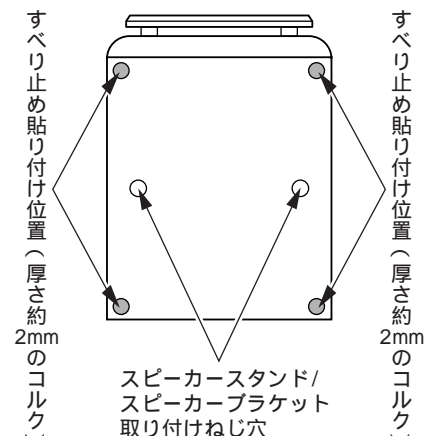
■ スピーカーシステムの背面や前面に壁やガラス戸などがある場合には、共振や反射を防止するために厚手のカーテンなどを掛けるようにしてください。

■ **USYS-1000**はテレビとの近接使用が可能な防磁形スピーカーシステムですが、テレビの種類によっては色むらを生じる場合があります。その場合には一度テレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁回路により、画面への影響が改善されます。その後も色むらが残るような場合には、スピーカーをさらに離してください。

■ **USC-C1000**は設置する場所によって、前面が上向きまたは下向きになるように設置してください。耳より高い位置に設置する場合は前面が下向きに、床に設置する場合は前面が上向きになるように設置することをおすすめします。付属のすべり止め（厚さ約2mmのコルク）を貼って調節してください。

【設置例】

■ **USC-A1000**を台などの上に設置する場合、付属のすべり止め（厚さ約2mmのコルク）を底面のコーナー4ケ所に貼ってください。（下図参照）床に直接置いて低音域が不自然に強調されたりする場合には、コンクリートブロックなどの固い台の上にのせるようにしてください。必要に応じて、別売りのASS-101、ASS-80（床置きスタンド）、ASG-10（壁掛け、天井吊りブラケット）、ASG-11（テレビサイドブラケット）のご使用をおすすめします。

※ スピーカーとスタンドとの取り付けは、スタンドに付属の取り付けねじを使用して、スピーカー底面の取り付け穴（ナット）にゆるみがなくなるまで完全に締め付けてください。

【USC-A1000背面図】

【USC-A1000底面図】

■ **USC-A1000**を壁に掛けて使用する場合
USC-A1000の背面にある壁掛け穴を利用して壁に掛けて使用できます。その場合、壁掛け用フックの穴にネジ頭などを差し込みます。（上図参照）スピーカーシステムの質量に耐えられるしっかりした壁に取り付けてください。
設置や取り付け不備による落下などによるいかなる損害・事故についても当社はその責を負いません。

ご注意

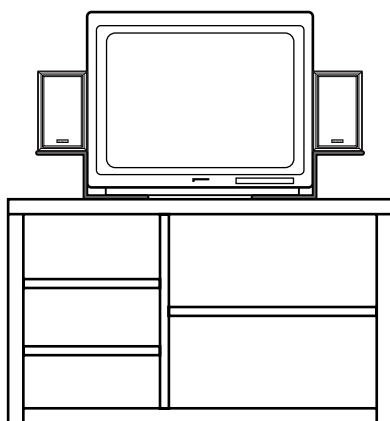
- 安全にお使いいただくため、本体の上に物をのせたり、寄り掛かったりしないでください。
- スピーカー側面に力が掛かった場合、スピーカーが落下する恐れがあります。
  けがなど重大事故の原因になりますので、十分注意してください。
- スピーカーコードを手や足に引っ掛けて本機を落下させることのないように、スピーカーコードは固定してください。

取り扱い上のご注意（つづき）

■ **USC-A1000**をスタンドまたはブラケットに取り付ける場合
USC-A1000の底面にはM5のナットが60mm間隔で埋め込まれています。別売りのASS-101、ASS-80（床置きスタンド）、ASG-10（壁掛け、天井吊りブラケット）、ASG-11（テレビサイドブラケット）に取り付けることができます。取り付けに際しましては、ブラケットやスタンドの説明書に従い、十分注意してしっかりと設置してください。

■ **USC-A1000**のDENONマークは、360°回転可能です。本機を設置する向きに合わせてください。

■ 当社スピーカーブラケットASG-11を利用して取り付け使用する場合

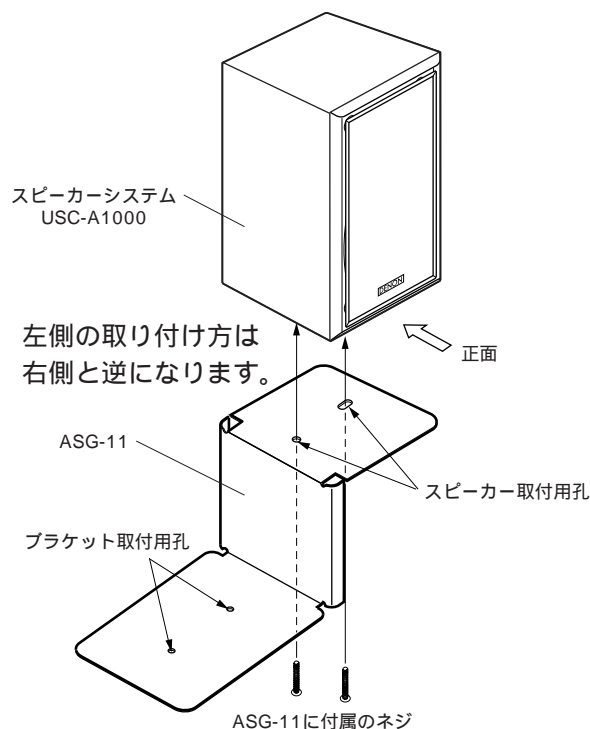
【例】

ASG-11とスピーカーシステム USC-A1000との組み合わせ

① スピーカーシステムの底面にネジ孔が2ヶ所ありますので、下図のようにブラケットのスピーカー取付用孔と位置を合わせ、ASG-11に付属のネジで取り付けます。

※ ネジは2本とも最後までしっかりと締めてください。

② スピーカーシステムを設置する場所に対応したネジで、ブラケット取付用孔を通してASG-11を固定します。（ASG-11にはネジは付属していません。）

※ 設置や取り付け不備による落下などによるいかなる損害、事故についても当社はその責を負いません。

【右側の取り付けかた】

■ 近くにマグネット（磁石）など磁気を発生するものが置かれている場合には、本機との相互作用により、テレビに色むらを発生する場合がありますのでご注意ください。

【例】
- ラック、置き台などの扉に装着されたマグネットがあるとき
- マグネットを用いた健康器具などが近くに置かれているとき
- その他、マグネットを使用した玩具などが近くに置かれているとき

■ **USW-1000**の上にレコードプレーヤー、DVDプレーヤーなどを置くと針とび、音とびを起こすことがあります。このような場合はレコードプレーヤー、DVDプレーヤーを別の場所に設置してください。

■ 長時間直射日光を受ける場所やストーブなどの暖房器具の近くに置くことは避けてください。

■ 湿気の多い場所やホコリの多い場所に置きますと、故障の原因となる場合があります。

お手入れについて

■ キャビネットは殺虫剤が付着したり、ベンジン・シンナーなどの溶剤で拭いたりしますと、変質したり変色することがありますのでご使用は避けてください。また、汚れを拭き取るときは柔らかい布を使用し、化学ぞうきんをご使用の際はその注意書に従ってください。

3 本機の構成について

★ DENONホームシアターシステム DHT-1000DVは、次のユニットで構成されています。

1．ADV-1000（DVDサラウンドアンプユニット）

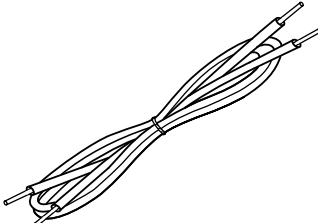
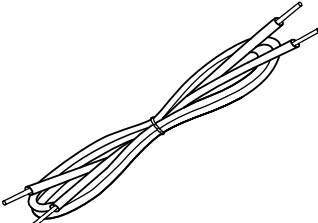
付属品： 取扱説明書 ……………………………1冊
ビデオコード …………………………1本
リモコン（RC-902）…………………1個
単3形乾電池 …………………………2本

2．USYS-1000（スピーカーユニットパック）

● USC-A1000（スピーカーシステム）…………4本
（フロント用×2、サラウンド用×2）
● USC-C1000（スピーカーシステム）…………1本
（センター用）
● USW-1000（スーパーウーハー） ……………1本

付属品： スピーカーコード（約10m） ………2本
（サラウンド用×2）
スピーカーコード（約 3m）……………4本
（センター用×1、フロント用×2、スーパーウーハー用×1）
すべり止め ………………………………24個

★ DENON DVDサラウンドアンプ ADV-1000単品販売には、スピーカーユニットパック（USYS-1000）はありません。

4 付属品について

■ ADV-1000（DVDサラウンドアンプユニット）

本体とは別に下記の付属品がついています。ご使用の前にご確認ください。

ビデオコード　1本	リモコン（RC-902）　1個	単3形乾電池　2本
取扱説明書（本書）　1冊 リモコンコード表　1枚	製品のご相談と 修理・サービス窓口一覧表　1枚	保証書 （梱包箱に貼り付けられています）

■ USYS-1000（スピーカーユニットパック）【DHT-1000DVのみ】

梱包箱の中には本体〈USC-A1000×4台（2ペア）、USC-C1000×1台、USW-1000×1台〉とは別に下記の付属品がついています。ご使用の前にご確認ください。

スピーカーコード A　2本	スピーカーコード B　4本	すべり止め　24個
（USC-A1000の接続に使用します。） 長さ：約10m	（USC-A1000、USC-C1000、USW-1000の接続に使用します。） 長さ：約3m	

5 本機の特長

★ ホームシアターシステムの核になるAVアンプとDVDプレーヤーをスリム＆スタイリッシュなボディーに一体化しました。スペースをとらず設置できるうえ、アルミフロントパネル、ディスプレイ部にハーフミラーを採用し、洗練されたデザインがインテリアにすっきりと調和します。

1．6chデジタルパワーアンプを搭載し、ドルビーデジタル・DTS・AAC5.1chサラウンド再生に対応

全チャンネル同一パワーの6chデジタルパワーアンプを搭載し、高性能DSPによりDVDのドルビーデジタル、DTSサラウンド再生をはじめ、BSデジタル放送の音声フォーマットMPEG2 AACのサラウンド再生が楽しめます。

2．音場再生を拡大するドルビープロロジックⅡデコーダー搭載

ドルビーサラウンドソースに対し、サラウンドチャンネルをステレオ化（ドルビープロロジックはモノラル）し、再生帯域を拡大（ドルビープロロジックは7kHzの帯域制限）したドルビープロロジックⅡに対応。音楽ステレオソースに対してもマルチチャンネル化して楽しめます。

3．DSPによる7通りの音場をシミュレート

DENON独自の5チャンネルステレオ、モノムービー、ロックアリーナ、ジャズクラブ、ビデオゲーム、マトリクス、バーチャルの7つのサラウンドモードで多彩なサラウンド再生が可能です。

4．高性能DVDドライブを内蔵し、プログレッシブ映像出力に対応

10bit/27MHzの高速・高性能ビデオDAC、ビデオエンコーダーにスーパー・サブエイリアス・フィルターを搭載し、広帯域化とともにノイズの低減を図り高品位なDVD再生を実現しています。

5．DVDの多彩な機能に対応

DVDソフトのマルチ音声機能（最大8ヶ国語）、マルチ字幕機能（最大32ヶ国語）、マルチアングル機能や視聴制限機能など多彩な機能に対応しています。

6．コンポーネントビデオD端子を装備

BSデジタルチューナーの映像信号に対応するD4入力端子を装備し、内蔵DVDのD2映像出力（プログレッシブ設定時）と切り替えてD端子モニター出力へ出力します。

7．クイックセットアップと日本語対応オンスクリーンディスプレイ機能に対応

複雑化する機能に対し、使用される部屋の大きさと視聴位置を選択するだけで標準的なパラメーターに自動的に設定するクイックセットアップ機能を装備し、極めて簡単に5.1chのセットアップを可能にしました。日本語に対応したオンスクリーンディスプレイ機能を使用してセットアップすることができます。

8．パーソナルメモリープラス機能を採用

各入力ファンクションに対し、設定したサラウンドモード、サラウンドパラメーターなどを自動的に記憶します。

9．プリセットメモリー機能付きリモコン

DENONのリモコン対応コンポーネントをはじめ、主要メーカーのテレビ、ビデオデッキのリモコン操作コードをあらかじめ記憶しているプリセットメモリー機能付きリモコンを採用しています。

10．スタイリッシュな5.1chサラウンドAVスピーカーシステムをパッケージ【DHT-1000DVのみ】

80kHzまでの広帯域再生を可能にしたスーパーツィーターユニットを搭載したサテライトスピーカーと、クリアで腰の強い低音を再生するパッシブスーパーウーハーをパッケージ。オプション（別売り）の各種スタンドにより、多彩なセッティングが可能です。

6 保証とサービスについて

1 この商品には保証書が添付されております。
保証書は所定事項をお買い上げの販売店で記入してお渡し致しますので、記載内容をご確認のうえ大切に保存してください。

2 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
万一故障した場合には、保証書の記載内容により、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口が修理を申し受けます。
但し、保証期間内でも保証書が添付されない場合は、有料修理となりますので、ご注意ください。
詳しくは、保証書をご覧ください。

※ 修理相談窓口については、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

3 保証期間後の修理については、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。

4 本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

5 保証および修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
※ 当社製品のお問い合わせについては、お客様相談窓口にご連絡ください。
詳しくは、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

7 著作権についてのご注意

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

■放送やCD、DVDその他の録音物（ミュージックテープ、カラオケテープなど）の音楽作品は、音楽の歌詞、楽曲などと同じく、著作権法により保護されています。

■従って、それらから録音したテープを売ったり、配ったり、譲ったり、貸したりする場合、および営利（店のBGMなど）のために使用する場合には、著作権法上、権利者の許諾が必要です。

■使用条件は、場合によって異なりますので、詳しい内容や申請、その他の手続きについては、『日本音楽著作権協会』（JASRAC）の本部または最寄りの支部にお尋ねください。

■ディスクを無断で複製、放送、上映、有線放送、公開演奏、レンタル（有償、無償を問わず）することは、法律により禁止されています。

■ビデオデッキなどを接続してディスクの内容を複製しても、コピー防止機能の働きにより、複製した画像は乱れます。

■本機は、合衆国特許権と知的所有権上保障された著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用はマクロビジョンコーポレーションの認可が必要であり、マクロビジョンコーポレーションの許可なしでは、一般家庭用または他の限られた視聴用だけに使用されるようになっています。改造または分解は禁止されています。

（社）日本音楽著作権協会（JASRAC）

本　　　部	TEL.03 (3481) 2121
北海道支部	TEL.011 (221) 5088
盛岡支部	TEL.019 (652) 3201
仙台支部	TEL.022 (264) 2266
長野支部	TEL.026 (225) 7111
大宮支部	TEL.048 (643) 5461
上野支部	TEL.03 (3832) 1033
東京支部	TEL.03 (3562) 4455
西東京支部	TEL.03 (3232) 8301
東京ｲﾍﾞﾝﾄ・ｺﾝｻｰﾄ支部	TEL.03 (5286) 1671
立川支部	TEL.042 (529) 1500
横浜支部	TEL.045 (662) 6551
静岡支部	TEL.054 (254) 2621
中部支部	TEL.052 (583) 7590
北陸支部	TEL.076 (221) 3602
京都支部	TEL.075 (251) 0134
大阪支部	TEL.06 (6244) 0351
神戸支部	TEL.078 (322) 0561
中国支部	TEL.082 (249) 6362
四国支部	TEL.087 (821) 9191
九州支部	TEL.092 (441) 2285
鹿児島支部	TEL.099 (224) 6211
那覇支部	TEL.098 (863) 1228

8 ディスクについて

★ 本機で再生できるディスクは下記の種類です。
　ディスクのマークはディスクのレーベル、またはジャケットについています。

再生できるディスク	マーク（ロゴ）	記録されているもの	ディスクの大きさ
DVDビデオ	DVD VIDEO	デジタル音声＋デジタル映像（MPEG2方式）	12cm
DVDオーディオ＜注1＞	DVD VIDEO		8cm
ビデオCD	COMPACT disc DIGITAL VIDEO	デジタル音声＋デジタル映像（MPEG1方式）	12cm
			8cm
CD	COMPACT disc DIGITAL AUDIO	デジタル音声 MP3	12cm
CD-R＜注2＞	COMPACT disc DIGITAL AUDIO Recordable		
CD-RW＜注2＞	COMPACT disc DIGITAL AUDIO ReWritable		8cm

■ **下記のディスクは再生できません。**

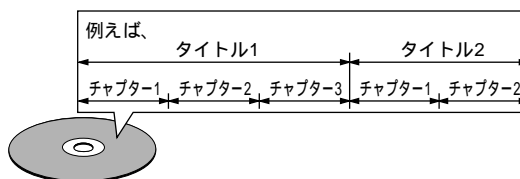
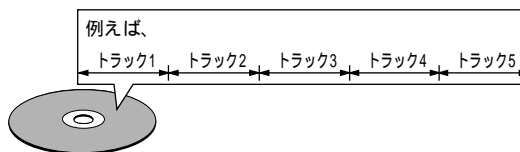
- リージョン番号が『2』または『ALL』以外のDVD
- DVDオーディオ　＜注1＞
- DVD-R/－RW/＋RW
- DVD-ROM/RAM
- CVD
- SVCD
- CD-ROM（MP3ファイルは再生可能）
- VSD
- CDV（**オーディオパートのみ再生できます。**）
- CD-G（**音声は出力されますが、画像は出力されません。**）
- フォトCD（**絶対に再生しないでください。**）

　など

※ フォトCDについては、書き込まれているデータが破損する恐れがあります。

＜注1＞ DVDオーディオディスクは、DVDビデオ規格のビデオパートのみ再生できます。
＜注2＞ CD-R/RWは、記録状態によっては再生できない場合があります。

■ ディスクに関する用語について

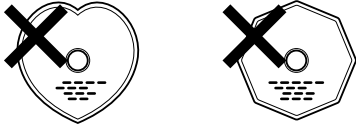
- **タイトル、チャプター**（DVDビデオ）
  DVDビデオは、いくつかの大きな区切り（タイトル）と小さな区切り（チャプター）に分けられています。
  それぞれの区切りには番号が割り当てられ、これらの番号をタイトル番号、チャプター番号と呼びます。

- **トラック**（ビデオCD/音楽CD）
  ビデオCDや音楽CDは、いくつかの区切り（トラック）に分けられています。
  この区切りには番号が割り当てられ、この番号をトラック番号と呼びます。

- **プレイバックコントロール**（ビデオCD）
  『プレイバックコントロール付き』などとディスクやジャケットに書かれているビデオCDは、テレビに表示されるメニュー画面を見ながら見たい場面や情報を対話形式で楽しむことができます。
  本書では、メニュー画面を用いて再生することをビデオCDの『**メニュー再生**』と呼びます。
  本機はプレイバックコントロール付きビデオCDに対応しています。

ご注意

- 本機は、国ごとに割り当てられた番号（リージョン番号）がDVDディスクに表示されている場合には、DVDディスクと本機のリージョン番号が一致しないと再生できません。
  本機のリージョン番号は2です。

9 ディスクの取り扱いとご注意

ディスクについて

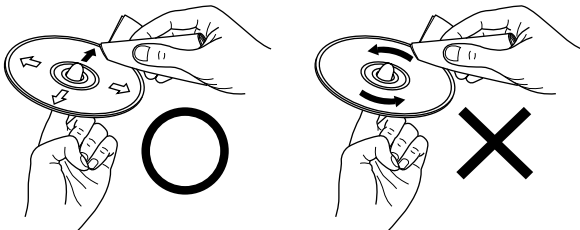
本機で再生できるディスクは、13ページにあるマークがついているものです。
但し、ハート形や八角形など特殊形状のディスクは再生できません。機器の故障の原因となりますのでご使用にならないでください。

ディスクの持ちかた

ディスクを装着したり取り出すときは、できるだけ表面を触らないようにしてください。

信号記録面（虹色に光っている面）には、指紋などをつけないようにしてください。

ディスクのお手入れのしかた

■ ディスクに指紋や汚れが付いた場合、音質や画質が低下したり、途切れることがありますので、拭きとってからご使用ください。

■ 拭き取りには、市販のディスククリーニングセットまたは柔らかい布などをご使用ください。

内周から外周方向へ軽く拭く。

円周に沿っては拭かない。

ご注意

レコードスプレー・帯電防止剤などは使用できません。ベンジン・シンナーなどの揮発性の薬品も使用しないでください。

取り扱いについてのご注意

- 指紋・油・ゴミなどをつけないでください。
- 表面に傷をつけないよう、特にケースからの出し入れにはご注意ください。
- 曲げたりしないでください。
- 熱を加えないでください。
- 中心の穴を大きくしないでください。
- レーベル面（印刷面）にボールペンや鉛筆などで文字を書かないでください。
- 屋外など寒いところから急に暖かいところへ移すと表面に水滴がつくことがありますが、ヘアードライヤーなどで乾かさないでください。

保存についてのご注意

- 再生後は必ずディスクを取り出してください。
- ほこり・傷・変形などを避けるため、必ずケースに入れてください。
- 次のような場所には置かないでください。
  1．直射日光が長時間当たるところ
  2．湿気・ほこりなどが多いところ
  3．暖房器具などの熱が当たるところ

ディスクを装着する際のご注意

- ディスクは1枚だけ装着してください。2枚以上重ねて装着すると故障の原因となり、ディスクを傷つけることにもなります。
- 8cmディスクは、アダプターを使用せずに確実にディスクガイド（凹部）に合わせて装着してください。正しく装着しないとディスクが脱落しディスクトレイが開かなくなることがあります。
- ディスクトレイが引き込まれるときに指を挟まないようにご注意ください。
- ディスク以外のものをディスクトレイに載せないでください。
- ひび割れや変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しないでください。
- ディスクにセロハンテープやレンタルディスクのラベルなどの糊がはみ出したり、剥がした痕があるものはお使いにならないでください。そのまま本機にかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障する原因となることがあります。

10 各部の名前

（1）フロントパネル

★ 各部のはたらきなど、詳しい説明については（　）内のページを参照してください。

1 **電源ボタン**
（ON/SYANDBY） （30、34）

2 **ヘッドホン端子（PHONES）** （69）

3 **リモコン受光部**
（REMOTE SENSOR） （17）

4 **オープン/クローズボタン**
（⏏ OPEN/CLOSE） （35）

5 **再生ボタン（▶）** （37）

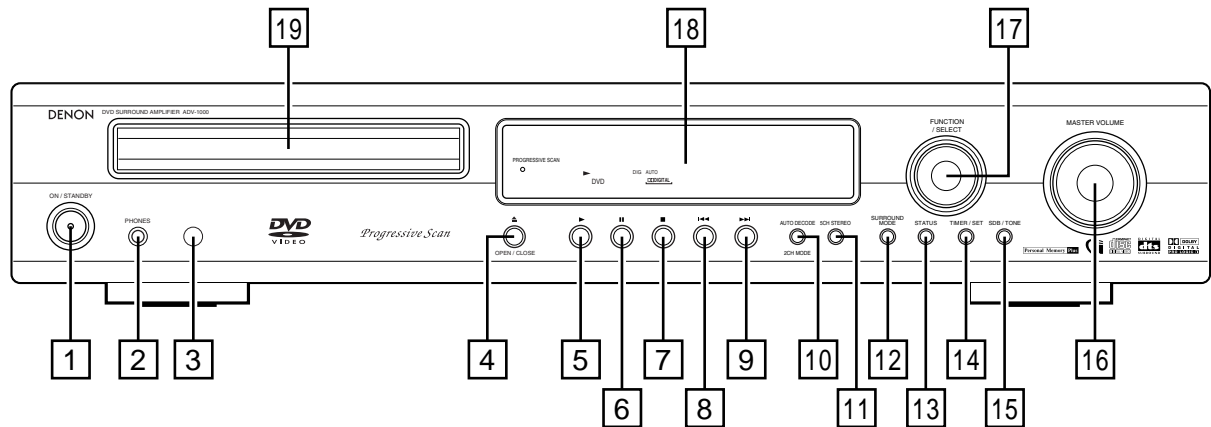
6 **一時停止ボタン（❙❙）** （38）

7 **停止ボタン（■）** （38）

8 **スキップボタン（I◀◀）** （39）

9 **スキップボタン（▶▶I）** （39）

10 **オートデコード/2CHモード**
切り替えボタン
（AUTO DECODE/2CH MODE）
（64〜68）

11 **5CHステレオモードボタン**
（5ch STEREO） （60、70）

12 **サラウンドモードボタン**
（SURROUND MODE） （60）

13 **ステータスボタン（STATUS）** （61）

14 **タイマー/設定ボタン**
（TIMER/SET） （89〜91）

15 **SDB/トーンボタン**
（SDB/TONE） （69）

16 **主音量調節つまみ**
（MASTER VOLUME） （33、38）

17 **入力ファンクション切り替え/**
セレクトつまみ
（FUNCTION/SELECT）
（60〜71、89〜91）

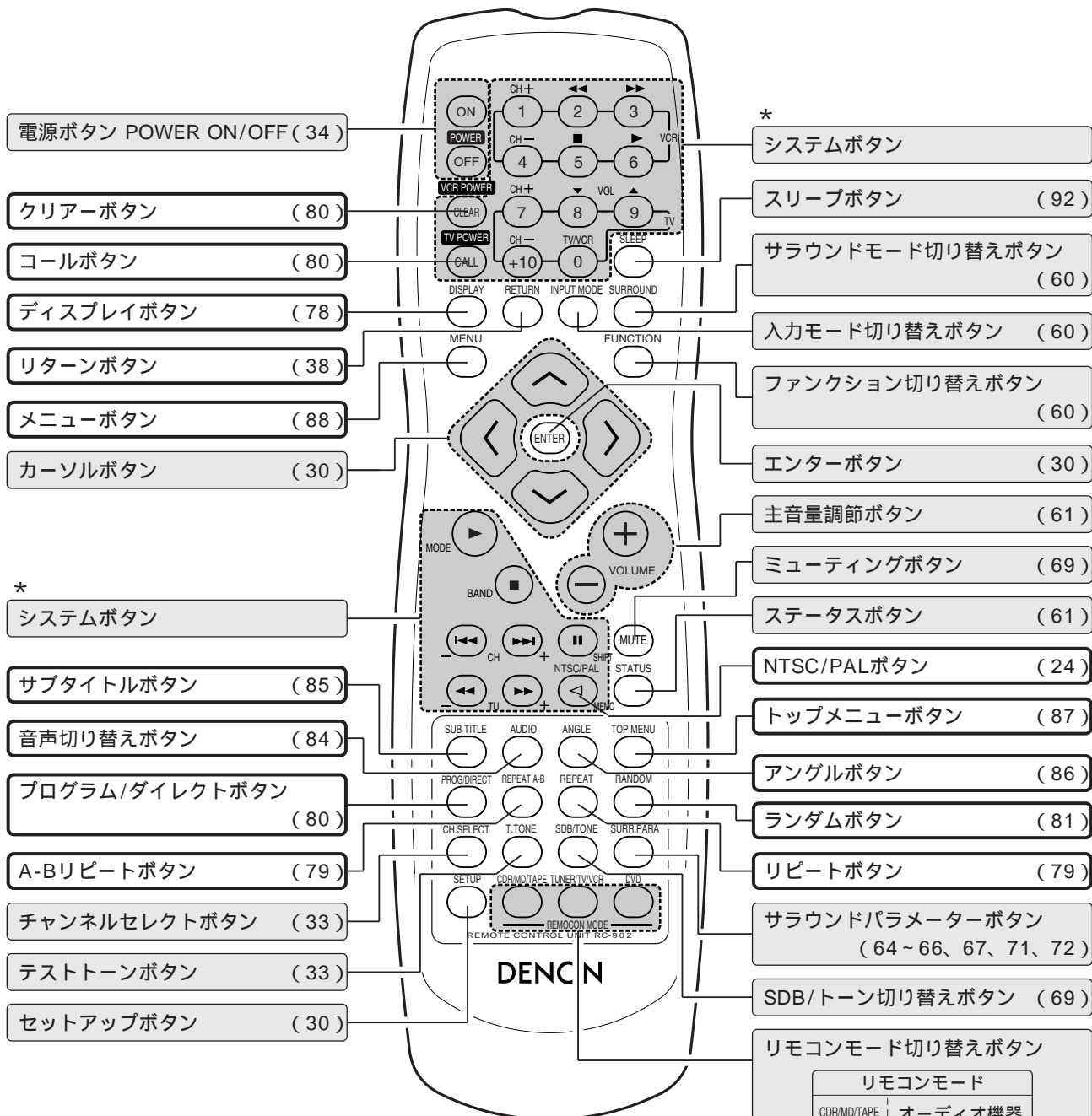
18 **ディスプレイ**

19 **ディスクトレイ** （34）

各部の名前（つづき）

(2) リモコン

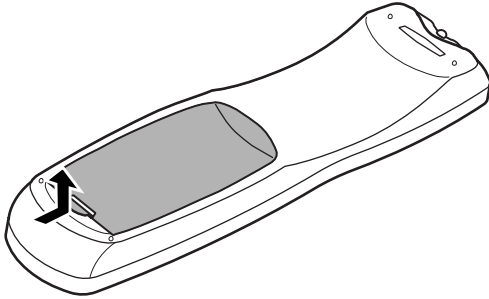
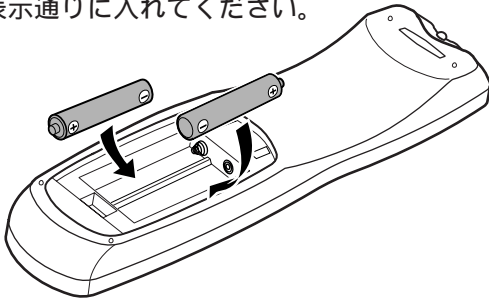
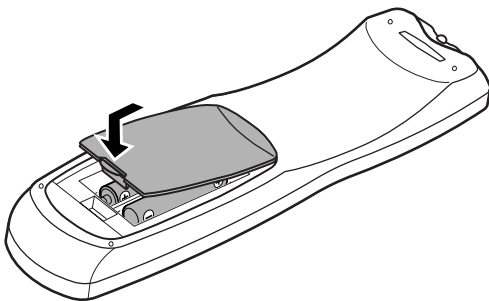
★ 各部のはたらきなど、詳しい説明については（　）内のページを参照してください。
★ 本機以外の機器の操作（システムボタン）の説明は19、20ページを参照してください。
★ リモコンのボタンは、ボタンによっては2つ以上の機能を兼ねています。
機能を切り替えるにはリモコンモード切り替えボタン（CDR/MD/TAPE, TUNER/TV/VCR, DVD）を使用します。一度押すと、他のモード切り替えボタンを押すまで機能は切り替わりません。各ボタンを押すことにより、リモコンは下記表のモードに切り替わります。
※ **本機を操作する場合は、DVDモードで使用します。**

リモコンモード	
CDR/MD/TAPE	オーディオ機器モード
TUNER/TV/VCR	AVモード
DVD	DVDモード

● ▭ のボタンはDVD操作ボタンで、リモコンモード切り替えボタンをDVDモードにしたとき操作できます。
● ＊のシステムボタンはリモコンモード切り替えボタンにより機能を切り替えて操作します。
● 上記以外のボタンはリモコンモード切り替えボタンの設定モードにかかわらず常に操作できます。

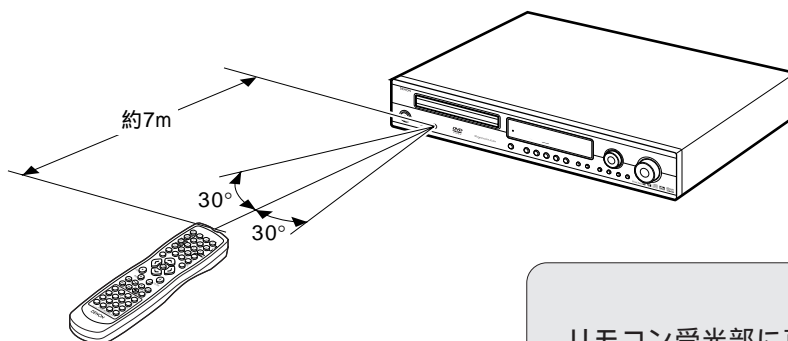
11 リモコンについて

★ 付属のリモコン（RC-902）は本機の操作だけでなく、DENON製リモコン対応のオーディオ機器を操作することができます。また、TV/VCRは他のメーカーのリモコンのコントロール信号をあらかじめ記憶していますので、これらリモコン対応のビデオ機器を操作することができます。

(1) 乾電池の入れかた

① 矢印のように押して引き上げます。

② 単3形乾電池（2本）をそれぞれ乾電池収納部の表示通りに入れてください。

③ 裏ぶたを元通りにしてください。

乾電池についてのご注意

- リモコンには単3形乾電池をご使用ください。
- リモコンの使用回数にもよりますが、乾電池は約1年毎に新しいものと交換してください。
- 1年経っていなくても、リモコンを本機の近くで操作して本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。（付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。）
- 乾電池を入れるときは、リモコンの乾電池収納部の表示通りに、⊕側・⊖側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - ・新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - ・違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - ・乾電池をショートさせたり、分解や加熱、または火に投入したりしないでください。
- リモコンを長時間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- 乾電池を交換するときは予め交換用の乾電池を用意し、できるだけ速やかに交換してください。

(2) リモコンの使いかた

- リモコンは、図のようにリモコン受光部に向けてご使用ください。
- 直線距離では約7m離れたところまで使用できますが、障害物があったり、リモコン受光部に向いていないと受信距離は短くなります。
- リモコン受光部を基準にして左右30 °までの範囲で操作できます。

ご注意

- リモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっているとリモコンが動作しにくくなります。
- 本機とリモコンの操作ボタンを同時に押さないでください。誤動作の原因となります。

リモコンについて（つづき）

(3) プリセットメモリーについて

1 オーディオ機器

★付属リモコンにお手持ちのDENON製品をプリセットメモリーすることにより、CDR、MDまたはTAPEのどれか一つを操作することができます。
なお、機種によっては操作できないものがあります。

1 **リモコンモード切り替えボタンの CDR/MD/TAPE ボタンを押し続けながら【表1】（下記）を参照して、メモリーしたい機器（CDR、MDまたはTAPE）に対応する数字ボタン3桁（0、1または2）を入力します。**

- 数字ボタン3桁を入力後 CDR/MD/TAPE ボタンを離します。
  →プリセットが完了します。

【表1】プリセットコードの組み合わせ

CDR/MD/TAPE を押しながら数字ボタン3桁を入力			
CDR	0	0	0
MD	1	1	1
TAPE	2	2	2

※工場出荷時は、CDRにプリセットされています。

ご注意

CDR、MD、TAPEはどれか一つの機器しかプリセットメモリーすることができません。

2 テレビ

★お手持ちのテレビのメーカーコードをプリセットメモリーすることにより、各社の機器を操作することができます。
なお、機種によっては操作できないものがあります。

1 **リモコンモード切り替えボタンの TUNER/TV/VCR ボタンを押し続けながら、TV POWER CALL ボタンを押した後に付属のリモコンコード表を参照してメモリーしたいテレビのメーカーコードに対応する数字ボタン（3桁）を入力します。**

- 数字ボタン3桁を入力後 TUNER/TV/VCR ボタンを離します。
  →プリセットが完了します。

【例】HITACHI“074”にプリセットする場合

TUNER/TV/VCR を押しながら下記ボタンを入力				
HITACHI “074”	TV POWER CALL	0	7	4

※工場出荷時は、HITACHI“074”にプリセットされています。

ご注意

- 添付のリモコンコード表中のメーカー製品であっても形式・年式によっては使用できないものがあります。
- メーカーによってはリモコンコードを数種類持っています。動作しない場合はメーカーコード設定を変えて確認してください。

リモコンについて（つづき）

3 VCR（ビデオデッキ）

★お手持ちのビデオのメーカーコードをプリセットメモリーすることにより、各社の機器を操作することができます。
なお、機種によっては操作できないものがあります。

1 **リモコンモード切り替えボタンの TUNER/TV/VCR ボタンを押し続けながら、VCR POWER CLEAR ボタンを押した後に付属のリモコンコード表を参照してメモリーしたいVCRのメーカーコードに対応する数字ボタン（3桁）を入力します。**

- 数字ボタン3桁を入力後 TUNER/TV/VCR ボタンを離します。
  →プリセットが完了します。

【例】HITACHI “ 072 ” にプリセットする場合

TUNER/TV/VCR を押しながら下記ボタンを入力	
HITACHI “ 072 ”	VCR POWER CLEAR　0　7　2

※工場出荷時は、HITACHI “ 072 ” にプリセットされています。

ご注意

- 添付のリモコンコード表中のメーカー製品であっても形式・年式によっては使用できないものがあります。
- メーカーによってはリモコンコードを数種類持っています。動作しない場合はメーカーコード設定を変えて確認してください。

（4）DENON製オーディオ機器の操作のしかた

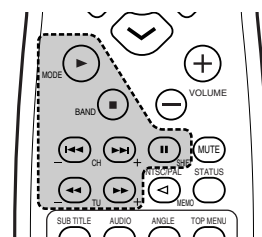
★操作する前に各機器の電源を入れてください。

1 **オーディオ機器を操作します。**

- 詳細は各機器の取扱説明書をご覧ください。

※機種によっては操作できないものがあります。

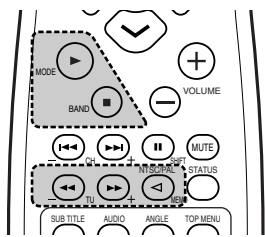
リモコン操作をする前に!!
必ずリモコンモード切り替えボタンを押して、リモコンをオーディオ機器モードにします。

a.（3）項でCDRまたはMDを設定した場合

► ： 再生
■ ： 停止
II ： 一時停止
I◄◄、►►I ：オートサーチ（頭出し）
◄◄、►► ： マニュアルサーチ（早戻し、早送り）

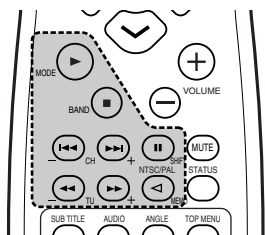
（次ページへ続きます。）

リモコンについて（つづき）

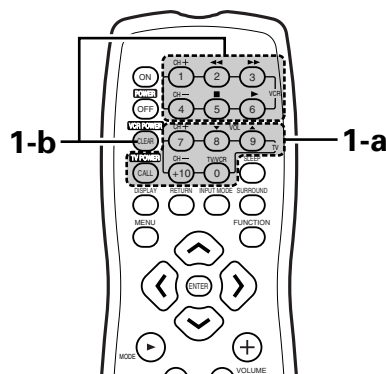
1 つづき

b.（3）項でTAPEを設定した場合

►	：正方向再生
■	：停止
◄◄	：巻き戻し
►►	：早送り
◁	：逆方向再生

リモコン操作をする前に!!
必ずリモコンモード切り替えボタンを押して、リモコンをAVモードにします。

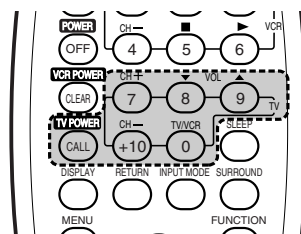
b.チューナー（TUNER）のシステムボタン

MODE	：オート/モノラルの切り替え
BAND	：AM/FM受信バンドの切り替え
SHIFT	：プリセットチャンネルの切り替え
CH（＋、－）	：プリセットチャンネルの切り替え
TU（＋、－）	：チューニングのアップ/ダウン
MEMO	：プリセットメモリー

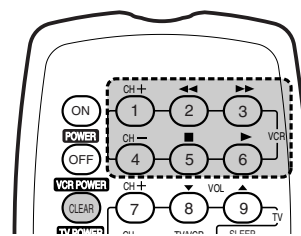
（5）プリセットメモリーした ビデオ機器の操作のしかた

リモコン操作をする前に!!
必ずリモコンモード切り替えボタンを押して、リモコンをAVモードにします。

1 **テレビやビデオデッキを操作します。**

● 詳細は各機器の取扱説明書をご覧ください。

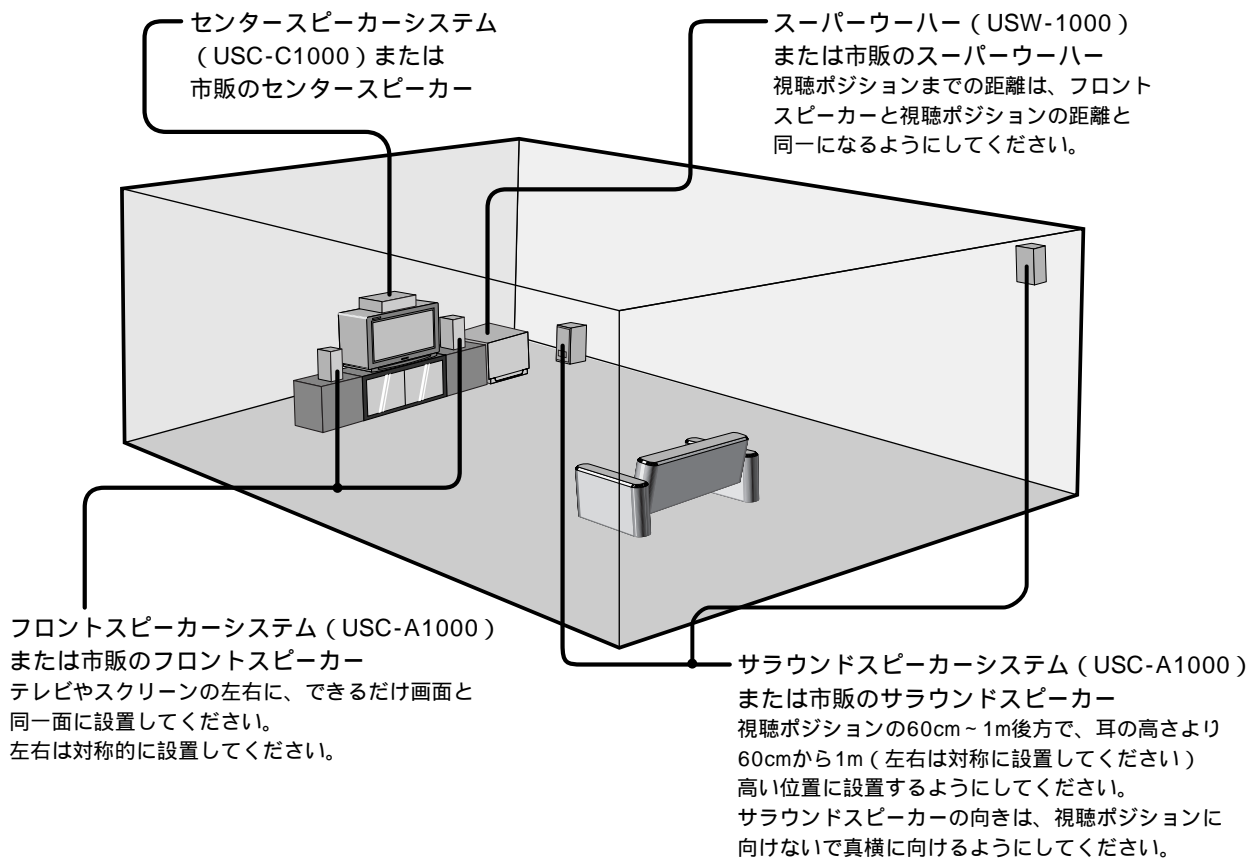
※機種によっては操作できないものがあります。

a.モニターテレビ（TV）のシステムボタン

TV POWER	：電源のON/OFF
CH（＋、－）	：チャンネルの切り替え
VOL（▼、▲）	：音量のアップ/ダウン
TV/VCR	：TVとビデオの入力切り替え

b.ビデオデッキ（VCR）のシステムボタン

VCR POWER	：電源のON/OFF
CH（＋、－）	：チャンネルの切り替え
◄◄、►►	：マニュアルサーチ（早戻し、早送り）
►	：再生
■	：停止

12 スピーカーの設置のしかた

■ スピーカーシステムのレイアウト（基本的なシステムレイアウト）

スピーカーシステム（6台）とテレビを組み合わせた基本的なシステムレイアウトの例です。

◎フロント、センタースピーカーはできるだけテレビやスクリーンと同一面で、センタースピーカーは左右のフロントスピーカー間で、視聴ポジションからフロントスピーカーまでの距離より遠くならないところに置いてください。

◎スーパーウーハーの置き場所の制限は特にありませんが、スクリーンと同一面にあった方が理想的です。

◎センタースピーカーをテレビの上に置いたり、サラウンドスピーカーを壁に吊るす場合、地震で落下したりしないよう、しっかりと固定してください。

◎フロントスピーカー USC-A1000をスタンドやテレビサイドブラケットを利用して取り付けられる場合は、別売りのASS-101、ASS-80（床置きスタンド)、ASS-11（テレビサイドブラケット）をご用意ください。

◎サラウンドスピーカー USC-A1000をスタンドや壁掛けブラケットを利用して取り付けられる場合は、別売りのASS-101、ASS-80（床置きスタンド)、ASG-10（壁掛け、天井吊りブラケット）をご用意ください。

◎お部屋の空間の制限などにより、基本的なレイアウトができない場合で、スピーカーと視聴ポジションの距離が大きく異なる場合は、の『ディレイタイム（距離の設定)』（43ページ）を参照し、実際のスピーカーまでの距離をセットアップで調整することにより、最適なサラウンド効果を得ることができます。

ご注意

ブラケット類をご使用される場合は、『取り扱いのご注意』（8、9ページ）を必ず参照してください。

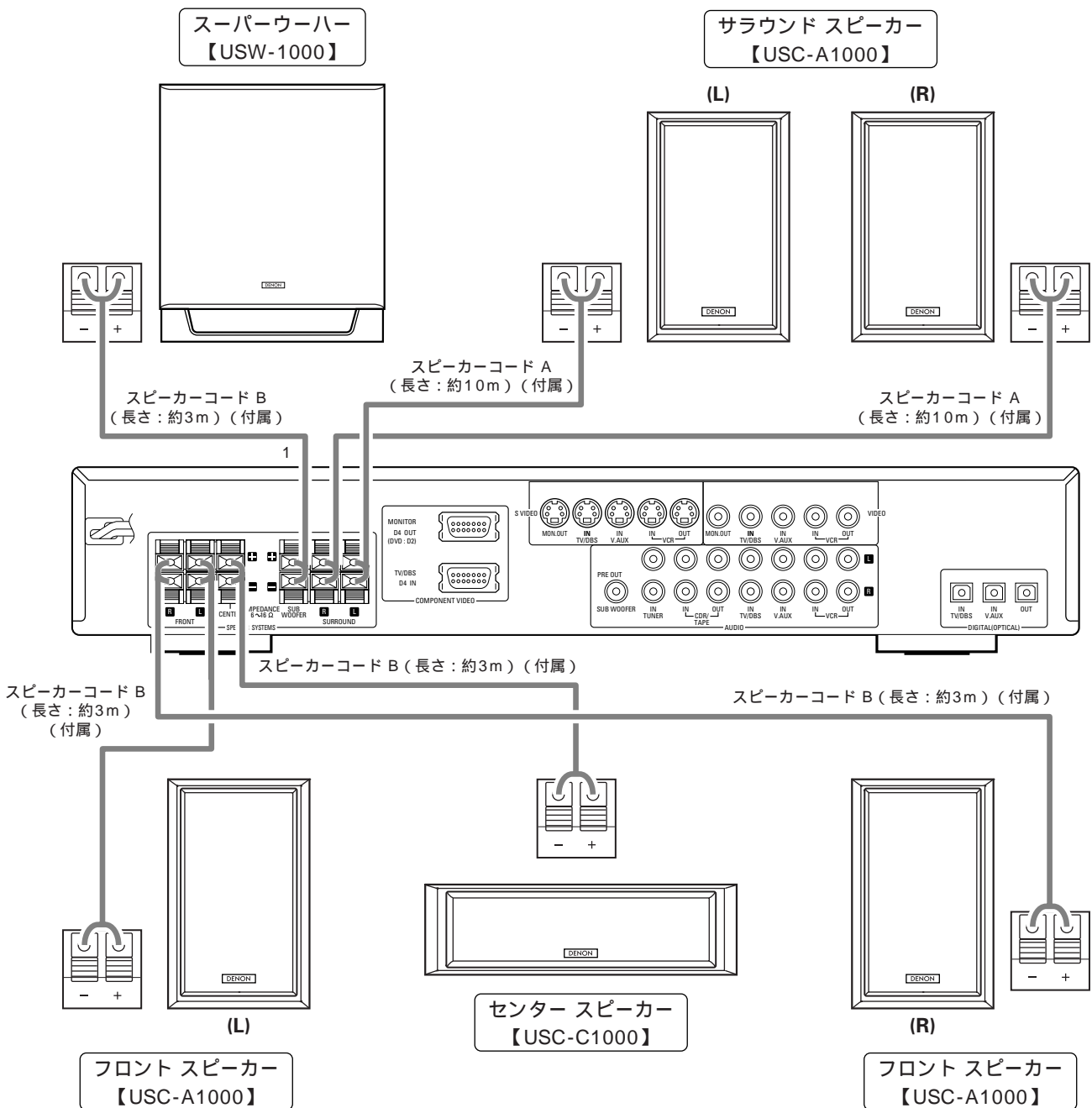
13 スピーカーとの接続のしかた

■ USYS-1000に付属しているスピーカーコードを使用して接続します。【DHT-1000DVのみ】

スピーカーユニットをADV-1000に接続する場合は、必ずADV-1000の電源を切ってからおこなってください。

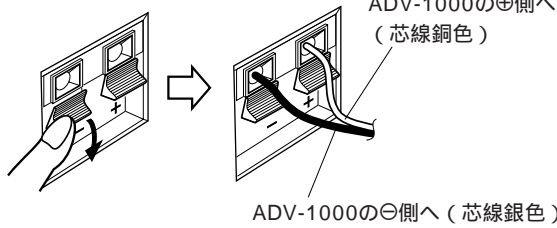
- スピーカーユニット背面の入力端子（右図参照）とADV-1000のスピーカー出力端子を付属のスピーカーコードで接続します。極性を間違えると、位相が変わったり低音域のない不自然な再生音になってしまいます。

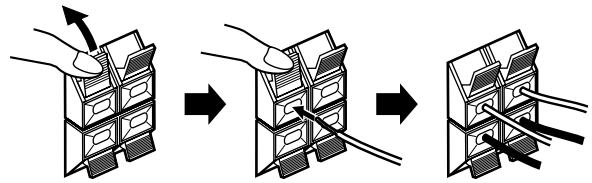
ご注意

通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

※1：このSUB WOOFER端子は、USW-1000（スーパーウーハー）の専用端子です。
USW-1000以外の接続は、故障の原因となりますのでおやめください。
ADV-1000単品販売に市販のアンプ内蔵スーパーウーハーを接続する場合は、プリアウトのスーパーウーハー端子を使用してください。（28ページ参照）

スピーカーとの接続のしかた（つづき）

接続方法

● スピーカーユニット側

スピーカー端子のレバーを押し下げて、コードの芯線を差し込んでください。

● サラウンドアンプ側

①レバーを押します。 ②スピーカーコードを差し込みます。 ③レバーを戻します。

注意：スピーカーコードの芯線どうしを接触させないでください。
スピーカー端子とスピーカーシステムは、必ず同じ極性（⊕と⊕、⊖と⊖）を接続してください。

保護回路について

本機には高速プロテクター回路が内蔵されています。これはパワーアンプの出力が誤って短絡された際に大電流が流れたりした場合に、スピーカーを保護するためのものです。
保護回路が動作するとスタンバイ状態になり、電源表示LEDが点滅します。このような場合は、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜き、スピーカーコードや入力コードの配線に異常がないかを確認の上、本機の温度が極端に上がっている場合は、本機が冷えるのを待って周囲の通風状態を良くしてからもう一度電源を入れ直してください。
配線や本機の周囲の通風に問題がないにも関わらず、保護回路が動作してしまう場合は、本機が故障していることも考えられますので、本機の電源プラグをコンセントから抜いた上で弊社の修理相談窓口にご連絡ください。

スピーカーインピーダンスにおけるご注意

USYS-1000以外のスピーカーを使用する場合は、インピーダンスが6〜16Ωのスピーカーをご使用ください。指定されたインピーダンス以下のスピーカー（例えば、スピーカーインピーダンスが4Ωなど）を使用すると保護回路が動作することがあります。（保護回路が動作すると、スタンバイ状態になり電源表示インジケーターが点滅します。）

スピーカー設置時のご注意

テレビまたはモニター受像機に近づけるとスピーカーの磁気により画面に色ズレが生じることがあります。この場合は影響のない位置に離してください。

接続上のご注意

本機のスピーカー出力は、－側出力端子にも＋側出力端子と逆相の信号が出力されています。複数のスピーカーを切り替える切り替え機器（スピーカーセレクターやオーディオチャンネルセレクター）などへの接続や、本書記載の接続のしかた以外の接続は故障の原因になりますのでおやめください。

■ ADV-1000単品販売に市販のスピーカーシステムを接続する場合

使用するスピーカーシステムに合わせてスピーカー設定内容を変更してください。
『詳細なシステムセットアップのしかた』（40〜45ページ）をご覧ください。

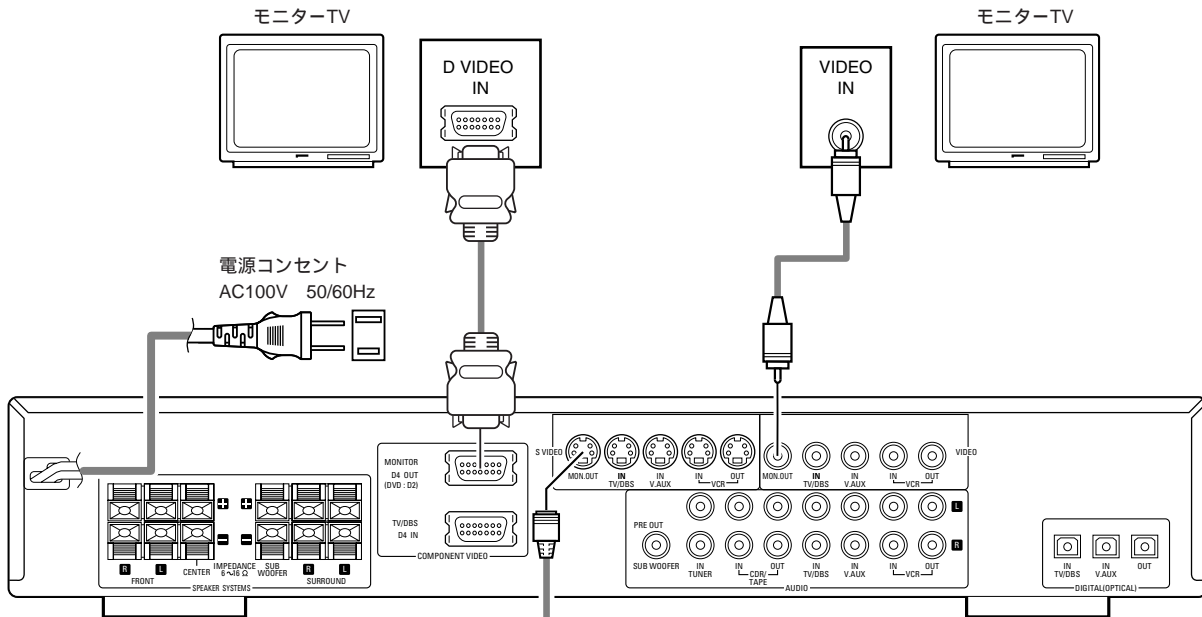
14 テレビとの接続のしかた

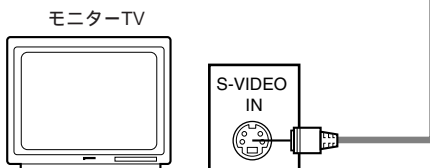
ご注意

- すべての接続が終わるまで電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 左右のチャンネルを確かめてから正しくLとL、RとRを接続してください。
- 電源プラグはしっかり差し込んでください。
  不完全な差し込みは雑音発生の原因となります。
- 電源コードを接続コードと一緒に束ねたり、電源トランスなど他の電気製品の近くに接続コードを設置すると、ハムや雑音の原因となることがあります。

★ 接続の際は、テレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。
★ S端子やD端子の入力端子に接続された映像信号は、S端子入力はS端子出力から、D端子入力はD端子出力からしか出力されませんのでご注意ください。
★ 工場出荷時、本機でDVDディスクを再生した場合のD端子出力はD2（プログレッシブ、525p）信号に設定されています。D1（インターレース、525i）信号に設定変更することもできますので、D2信号入力に対応していないTVと接続する場合はD1信号に設定変更してください。（52ページ参照）
★ 本機のD端子入力はD1〜D4（525i、525p、112si、750p）の映像信号に対応しています。入力された映像信号は、そのままD端子MON. OUT端子へ出力します。

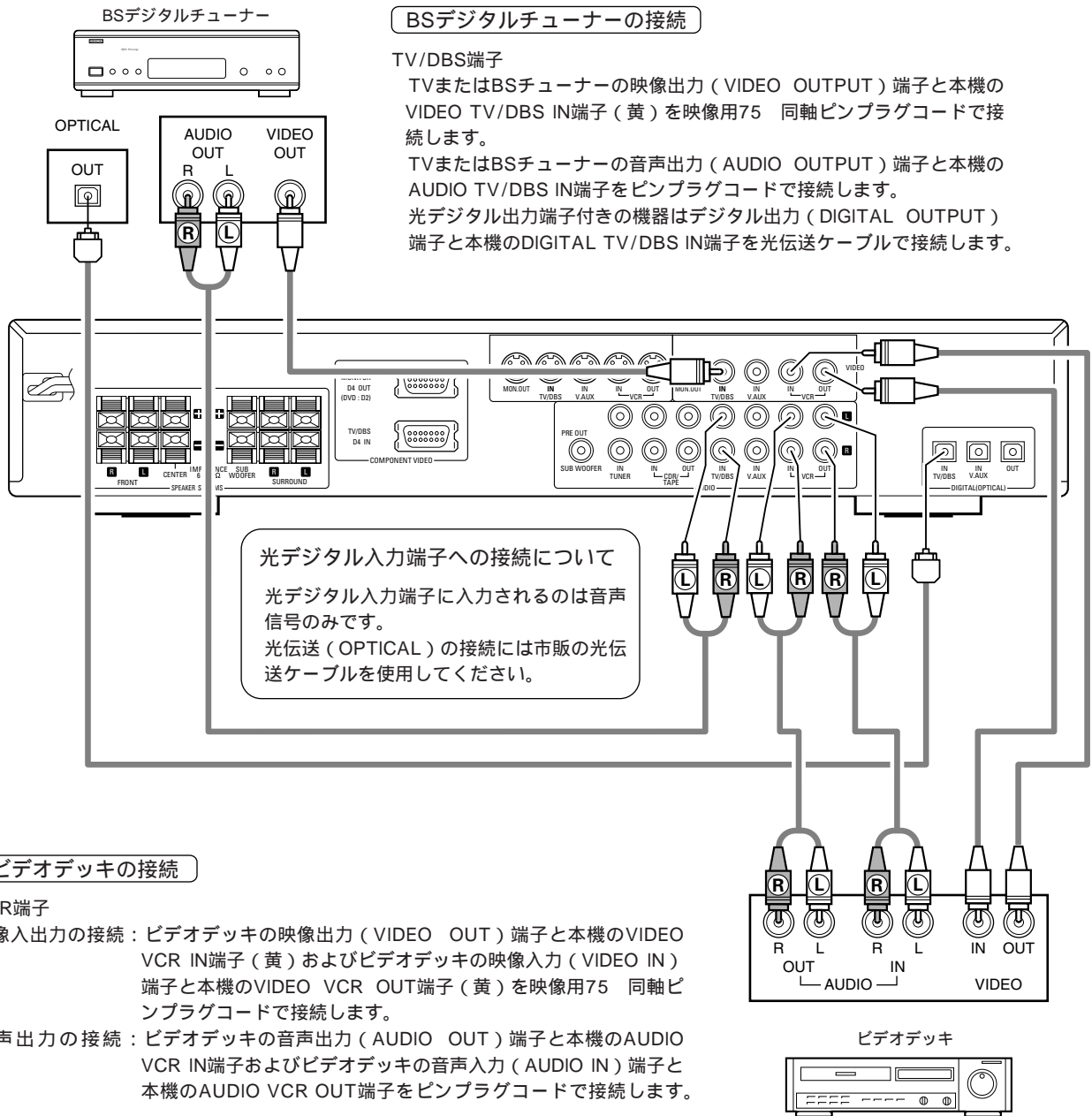
COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子
- TVのD映像入力（D VIDEO IN）端子と本機のCOMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子をD端子用接続ケーブルで接続します。

VIDEO MON.OUT端子（黄色）
- TVの映像入力端子とADV-1000のVIDEO MON.OUT端子を付属のビデオコードで接続します。

S VIDEO MON.OUT端子
- TVのS映像入力（S-VIDEO INPUT）端子と本機のS-VIDEO MON.OUT端子をS端子用接続コードで接続します。

モニターTV

ご注意

- 本機の映像出力（MON. OUT）は直接テレビに接続してください。
  VTR（ビデオテープレコーダー）経由で接続しないでください。ディスクによってはコピー禁止信号が入っているものがあり、そのようなディスクをVTRを通して再生するとコピーガードシステムにより、画面が乱れることがあります。
- 国内で使われているテレビはNTSC方式です。セットアップで『DVD設定変更』-『映像設定』の『TVタイプ』を『NTSC』に設定してください。（なお、工場出荷時は『NTSC』に設定されています。）
  リモコンのNTSC/PALボタンでも、NTSC/PALの切り替えをおこなうことができます。

15 BSデジタルチューナーやVTRとの接続のしかた

★ 映像信号を接続するときは、必ず市販の映像用75Ω同軸ピンプラグコードを使用してください。
★ 接続の際は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

BSデジタルチューナーの接続

TV/DBS端子

● TVまたはBSチューナーの映像出力（VIDEO OUTPUT）端子と本機のVIDEO TV/DBS IN端子（黄）を映像用75Ω同軸ピンプラグコードで接続します。
● TVまたはBSチューナーの音声出力（AUDIO OUTPUT）端子と本機のAUDIO TV/DBS IN端子をピンプラグコードで接続します。
● 光デジタル出力端子付きの機器はデジタル出力（DIGITAL OUTPUT）端子と本機のDIGITAL TV/DBS IN端子を光伝送ケーブルで接続します。

光デジタル入力端子への接続について

● 光デジタル入力端子に入力されるのは音声信号のみです。
● 光伝送（OPTICAL）の接続には市販の光伝送ケーブルを使用してください。

ビデオデッキの接続

VCR端子

映像入出力の接続：ビデオデッキの映像出力（VIDEO OUT）端子と本機のVIDEO VCR IN端子（黄）およびビデオデッキの映像入力（VIDEO IN）端子と本機のVIDEO VCR OUT端子（黄）を映像用75Ω同軸ピンプラグコードで接続します。

音声出力の接続：ビデオデッキの音声出力（AUDIO OUT）端子と本機のAUDIO VCR IN端子およびビデオデッキの音声入力（AUDIO IN）端子と本機のAUDIO VCR OUT端子をピンプラグコードで接続します。

CSチューナーの接続

V. AUX端子

● CSチューナーなどの光デジタル出力端子付きの映像機器を接続します。
接続方法は、上記の『BSデジタルチューナーの接続』を参照してください。

BSデジタルチューナーやVTRとの接続のしかた（つづき）

■ S映像端子付きのBSデジタルチューナーやVTRの接続

★ 接続の際は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

★ S端子に入力された映像信号は、ビデオ映像出力端子（黄）からは出力されません。また、ビデオ映像入力端子（黄）に入力された映像信号もS端子には出力されませんのでご注意ください。

■ D端子付きBSデジタルチューナーの接続

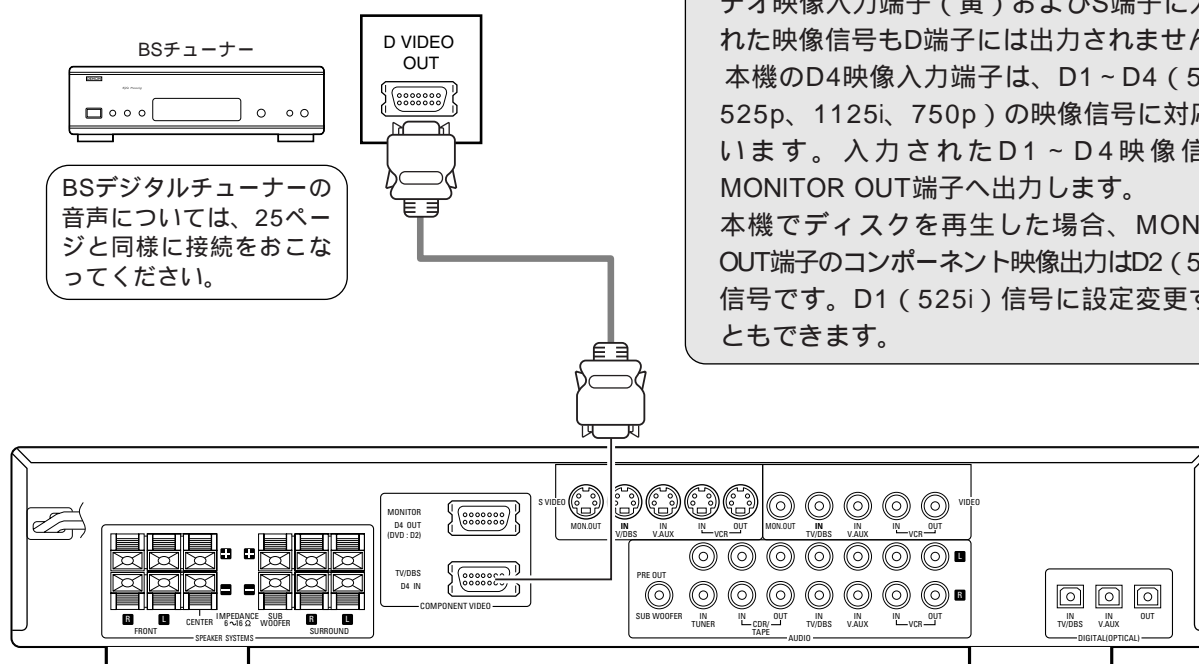
★ 接続の際は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
★ 本機にはD4映像入力端子（TV/DBS D4 IN）があり、本機DVDファンクションでディスクを再生したコンポーネント映像信号とTV/DBSファンクションで入力されたコンポーネント映像信号を切り替えてD映像出力端子（MONITOR OUT）に出力することができます。
★ 本機とD端子付きBSチューナー、モニターTVなどを接続する場合は、D端子から入力された解像度などの識別信号を伝送するD端子用ケーブルのご使用を推奨します。

BSデジタルチューナーの接続

TV/DBS IN端子

● BSデジタルチューナーのD映像出力（D VIDEO OUT）端子と本機のTV/DBS D4 IN端子をD端子用接続ケーブルで接続します。

ご注意

● 入力された信号は、ビデオ映像出力端子（黄）およびS端子からは出力されません。また、ビデオ映像入力端子（黄）およびS端子に入力された映像信号もD端子には出力されません。
● 本機のD4映像入力端子は、D1〜D4（525i、525p、1125i、750p）の映像信号に対応しています。入力されたD1〜D4映像信号をMONITOR OUT端子へ出力します。
● 本機でディスクを再生した場合、MONITOR OUT端子のコンポーネント映像出力はD2（525p）信号です。D1（525i）信号に設定変更することもできます。

■ CDR/TAPE、VCRへのアナログ録音出力について

● ファンクションDVDでは、ドルビーデジタルおよびPCMで記録されたディスクは自動的に2chアナログ音声に変換し、CDR/TAPEとVCRのAUDIO OUT端子へ出力します。
ドルビーデジタルのマルチチャンネルソースは、自動的に2chにダウンミックスして出力します。
（DTSソースの場合は出力されませんのでアナログ録音できません。）
● TV/DBS、V.AUXのデジタル入力ソースはAUDIO OUT端子へは出力されません。アナログ録音をおこなう場合は、接続する機器の2chアナログ音声出力を本機のAUDIO IN端子へ接続してください。

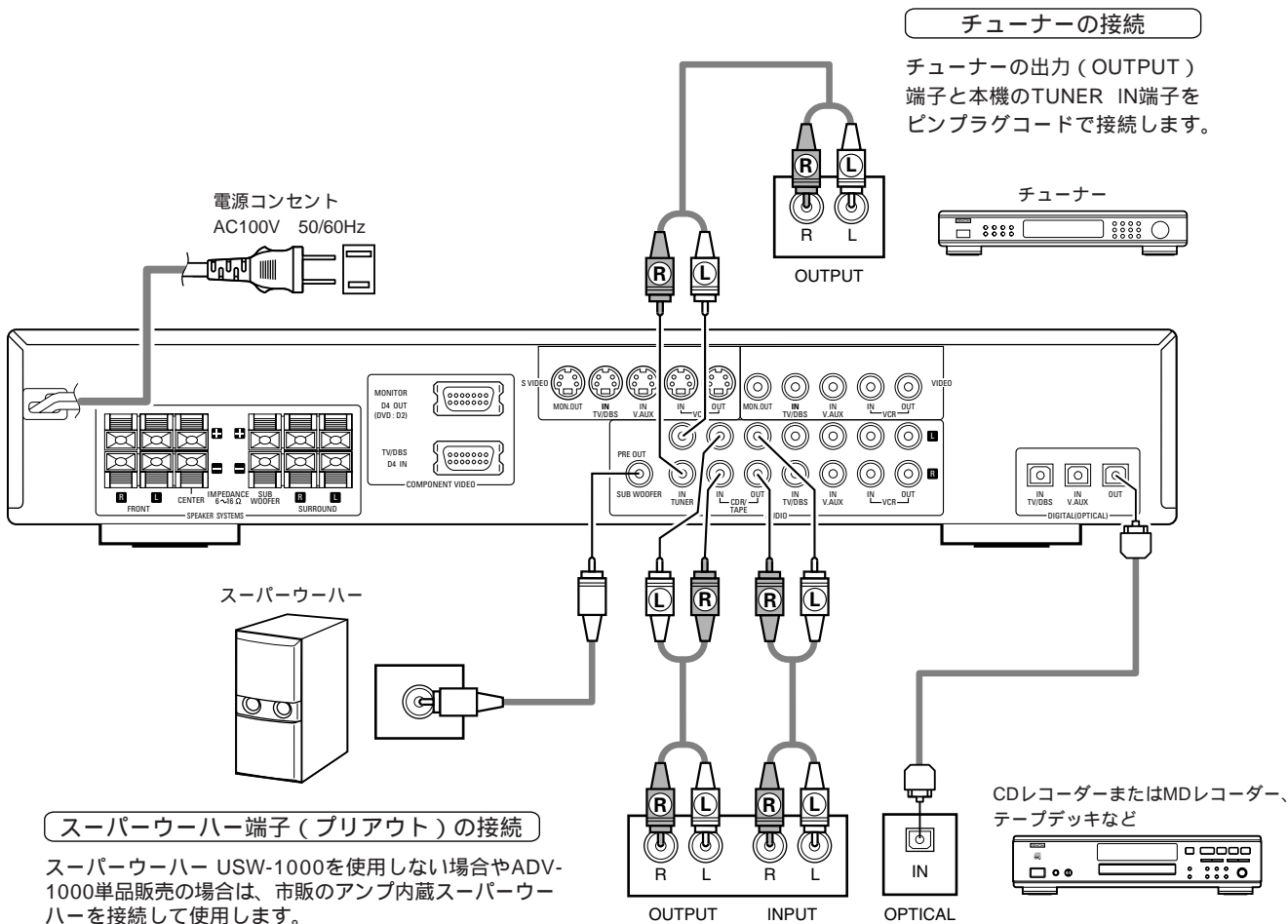
16 他のオーディオ機器と接続するには

★ 接続の際は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

チューナーの接続

チューナーの出力（OUTPUT）端子と本機のTUNER　IN端子をピンプラグコードで接続します。

スーパーウーハー端子（プリアウト）の接続

スーパーウーハー USW-1000を使用しない場合やADV-1000単品販売の場合は、市販のアンプ内蔵スーパーウーハーを接続して使用します。

本機のDVDでドルビーデジタル、96kHz PCMソースを再生し、CDレコーダーやMDレコーダーなどのデジタル録音機器と接続しデジタル録音する場合

- セットアップで『DVD設定変更』-『音声設定』の『デジタル出力』を『PCM変換』に、『LPCM変換モード』を『変換する』に設定してください。（53、54ページ参照）
  正しく設定せずにDVDを録音、再生すると耳を刺激するような雑音が発生し、スピーカーを破損する恐れがあります。

レコーダーの接続

録音用の接続：レコーダーの録音入力（LINE　INまたはREC）端子と本機のCDR/TAPE録音（OUT）端子をピンプラグコードで接続します。

再生用の接続：レコーダーの再生出力（LINE　OUTまたはPB）端子と本機のCDR/TAPE再生（IN）端子をピンプラグコードで接続します。

ご注意

- 本機でCDを再生し、接続した機器でデジタル録音をおこなう場合、曲番が自動的に付加されない場合があります。（ライブ録音などで曲間にも連続して音声が録音されている場合）
  - ・CDレコーダーでデジタル録音する場合、CDレコーダーの録音の設定をマニュアル（手動）録音にし、録音中に手動で曲番（トラックマーク）を付けてください。
  - ・MDレコーダーでデジタル録音する場合、録音が終わった後で編集操作により曲を分割してください。

本機のデジタル音声出力端子から出力される音声について

1 本機でディスクを再生した場合

	音声記録方式		セットアップDVD設定	参照ページ	出力されるデジタル音声データ
DVDビデオ	ドルビーデジタル		デジタル出力：ノーマル＊	54ページ	ドルビーデジタルのビットストリーム
			デジタル出力：PCM変換		2チャンネルPCMデータ（48kHz/16bit）
	DTS		デジタル出力：ノーマル＊		DTSのビットストリーム
			デジタル出力：PCM変換		DTSのビットストリーム
	リニアPCM	48kHz	LPCM変換モード：変換しない＊	54ページ	48kHz/16～24bit PCM
			LPCM変換モード：変換する		48kHz/16bit PCM
		96kHz	LPCM変換モード：変換する		48kHz/16bit PCM
		CPオン	LPCM変換モード：変換しない＊		48kHz/16bit PCM（コピープロテクト有りの場合）
		CPオフ	LPCM変換モード：変換しない＊		96kHz PCM（コピープロテクト無しの場合）
ビデオCD	MPEG1				44.1kHz/16bit PCM
音楽CD	リニアPCM				44.1kHz/16bit PCM
MP3 CD	MP3				32～48kHz/16bit PCM

＊：工場出荷時設定

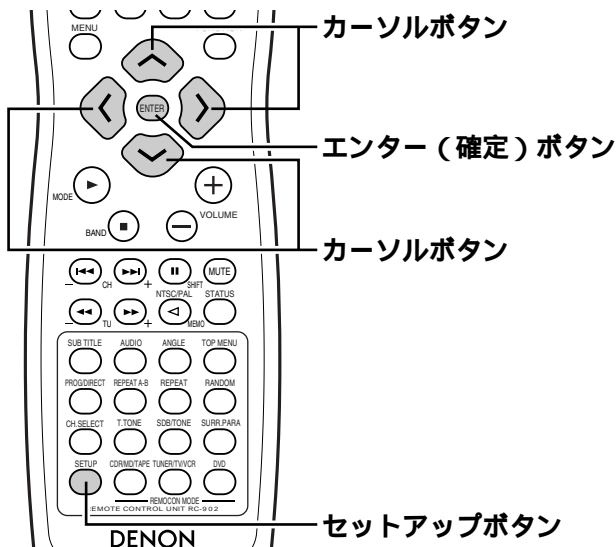
2 本機のデジタル入力端子に接続された信号を選択した場合（TV/DBS, V.AUX入力）

● 入力された信号をそのまま出力します。

リニアPCM（LPCM）とは

圧縮せずにデジタルに置き換えられた音声信号です。（音楽CDに用いられている信号記録方式です。）
音楽CDでは44.1kHz/16bitで記録されているのに対し、DVDでは48kHz/16bit～96kHz/24bitで記録されていますので、音楽CDよりも高音質の再生が可能です。
● 96kHz/24bitリニアPCMで記録されたディスクは、本体ディスプレイに " 96k 24bit " が点灯します。

17 システムセットアップのしかた

★ ここでは、『スピーカーの設置のしかた』（21ページ）により基本的なシステムレイアウトがされたことを前提にして、簡単にセットアップができるクイックシステム設定の説明をします。
フロントスピーカーやサラウンドスピーカーのL/Rの位置が極端に異なる場合などは『詳細なセットアップのしかた』（40〜46ページ）を参照して設定してください。
★ ディスク再生中はセットアップ操作できません。停止した状態でおこなってください。
★ どの入力ファンクションでもセットアップ操作できますが、映像信号はセットアップ画面に切り替わります。

リモコン操作をする前に!!
必ずリモコンモード切り替えボタンを押して、リモコンをDVDモードにします。

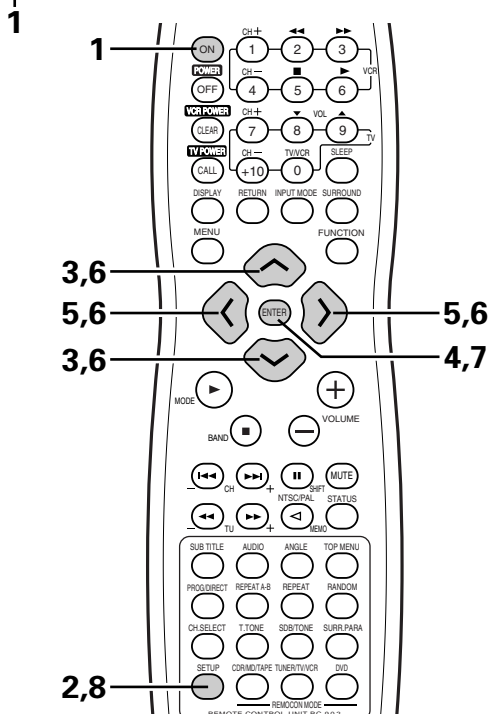
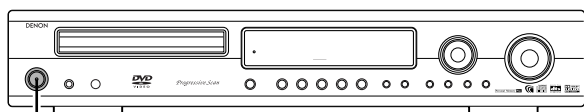
セットアップはリモコンの下記のボタンでおこないます。

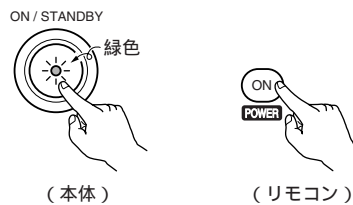
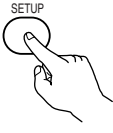
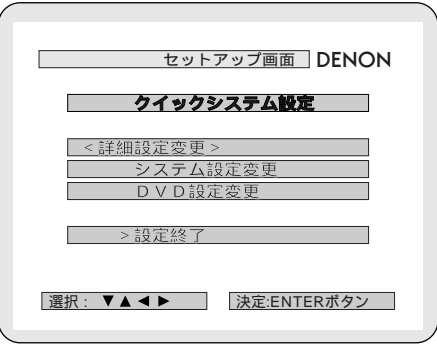
●**セットアップ（SETUP）ボタン**
セットアップのメニューを表示させるときに押します。

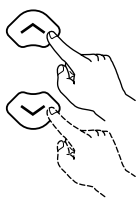
●**エンター（ENTER（確定））ボタン**
セットアップの画面を切り替えるときや設定を確定するときに押します。

●**カーソルボタン（ , , , ）**
ディスプレイの表示を切り替えるときに押します。

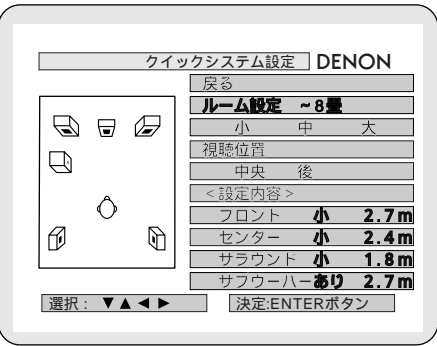
(1) クイックセットアップのしかた

★『接続のしかた』（21〜29ページ）を参照して、接続に間違いがないことを確認します。

1 電源を入れます。

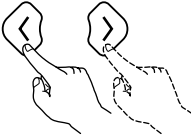
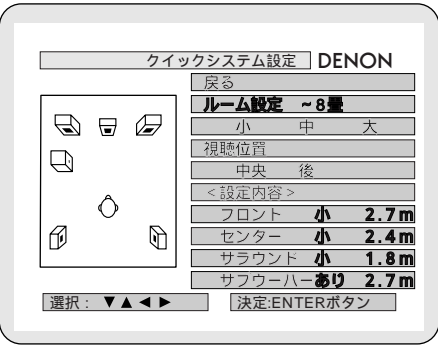
● 電源表示LEDが緑色に点灯して電源が入り、ディスプレイが点灯します。

（本体）　　（リモコン）

※ 電源ボタンを押してから音声が出力されるまで数秒間かかります。これは、電源ON/OFF時の雑音を防止するミューティング回路が内蔵されているためです。
※ 電源ボタンを押してスタンバイ状態にしても、一部の回路は通電していますので、外出やご旅行の場合は必ず、電源プラグをコンセントから抜いてください。
※ ディスク再生中やディスクメニュー画面が表示されているときはセットアップ操作できません。停止ボタン（■）を押してディスクが停止した状態でおこなってください。

システムセットアップのしかた（つづき）

2
SETUPボタンを押して、セットアップ画面を表示させます。

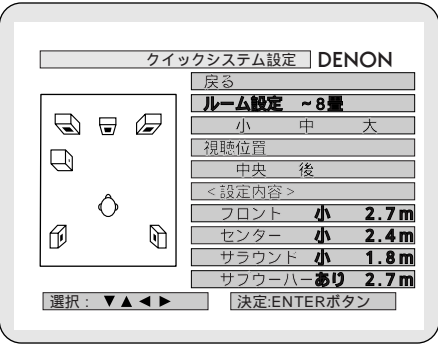
（リモコン）

3
カーソルボタン ︿ , ﹀ で、『クイックシステム設定』を選択します。
- 選択された項目が黄色で表示されます。

（リモコン）

4
ENTERボタンを押して、メニューの設定画面を表示させます。

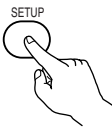
※ 設定画面では選択設定する項目が黄色で表示され、設定する項目以外の設定値は緑色で表示されます。

（リモコン）

- 『戻る』が黄色で表示されます。
- クイックシステム設定をおこなわない場合は、『戻る』でENTERボタンを押します。（設定値は変更されません。）
- 変更をおこなう場合は、操作*5*、*6*.へ進みます。

5
カーソルボタン ︿ , ﹀ で『ルーム設定』を選択し、カーソルボタン 〈 , 〉 で部屋の大きさを設定します。
- 設定した大きさを黄色表示します。

（リモコン）

クイックシステム設定　DENON
戻る
ルーム設定　～8畳
小　中　大
視聴位置
中央　後
<設定内容>
フロント　小　2.7m
センター　小　2.4m
サラウンド　小　1.8m
サブウーハーあり　2.7m
選択： ▼▲◀▶
決定:ENTERボタン

6
カーソルボタン ︿ , ﹀ で『視聴位置』を選択し、カーソルボタン 〈 , 〉 で位置を設定します。
- 設定した位置を黄色表示します。

（リモコン）

クイックシステム設定　DENON
戻る
ルーム設定　～8畳
小　中　大
視聴位置
中央　後
<設定内容>
フロント　小　2.7m
センター　小　2.4m
サラウンド　小　1.8m
サブウーハーあり　2.7m
選択： ▼▲◀▶
決定:ENTERボタン

7
ENTERボタンを押して、確定します。
- 操作2のセットアップ画面に戻ります。

（リモコン）

8
SETUPボタンを押して、セットアップを終了します。

※ セットアップ画面でカーソルボタン（︿ , ﹀）で『設定終了』を選択し、ENTERボタンを押しても終了します。

（リモコン）

システムセットアップのしかた（つづき）

クイックシステム設定内容について

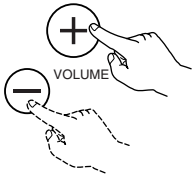
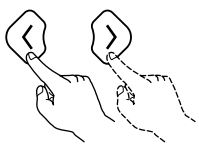
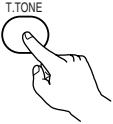
■ **ルーム設定：**使用される部屋の大きさを設定します。
◎小：～8畳　◎中：9～13畳　◎大：14畳～

■ **視聴位置：**視聴される位置が、部屋の中央近辺か後方かを設定します。
◎中央　◎後

■ **設定内容：** ルーム設定、視聴位置を選択すると、視聴ポジションから各々のスピーカーまでの距離が自動的に表示されます。
相対的な距離が実測値と大きく異なる場合（例えば、センターがフロントより小さい距離が表示されているが、実際は逆に大きい場合など）は、『詳細なセットアップのしかた』（43ページ）で設定してください。

システムセットアップのしかた（つづき）

(2) テストトーンによる再生レベルの確認と調節

★ 再生の前に、必ずテストトーンにより各スピーカーの再生レベルの確認と調節をおこなってください。調節はシステムセットアップ（44、45ページ参照）でもできますが、下記の通りリモコンで調節します。

★ リモコンによるテストトーン調節は、オートデコードサラウンドモードでおこないます。
調節したレベルは自動的に記憶されます。

1 **T.TONEボタンを押します。**

※ サラウンドモードは、オートデコードサラウンドモードでおこないます。

（リモコン）

2 **テストトーンが各スピーカーから出力されますので、本体のMASTER VOLUMEつまみを回すか、またはリモコンのVOLUMEボタンを押して調節しやすい音量にします。**

M.VOLUME -20

音量がディスプレイに表示されます。

（本体）

（リモコン）

3 **テストトーンが各スピーカーから順に出力されますので、各スピーカーの音量が同じになるようにカーソルボタン 〈 , 〉 で調節します。**

（リモコン）

※ テストトーン調整中は
リモコンのCH.SELECTボタンやカーソルボタン（︿ , ﹀）で調整するチャンネルを変更することができます。

4 **調節が終わったら、もう一度T.TONEボタンを押して、終了します。**

（リモコン）

★ テストトーンによる調節後も、再生するプログラムソースまたはお好みに合わせて、下記の操作により各チャンネルレベルの調節をおこなうことができます。
調節したレベルは自動的に記憶されます。

1 **プログラム再生中に、レベル調節したいスピーカーを選択します。**

※ ボタンを押すたびに次のように切り替わります。

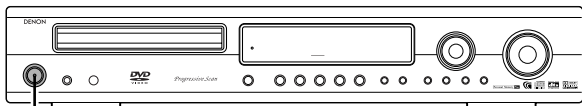
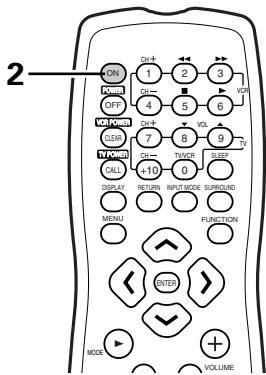
（リモコン）

→ フロント左 → センター → フロント右 → サラウンド右 → サラウンド左 → サブウーハー →（フロント左へ戻る）

2 **チャンネルレベル表示中に選択したスピーカーの音量レベルを調節します。**

（リモコン）

18 ディスク再生のしかた

(1) 操作する前に

1 **『接続のしかた』(21～29ページ)を参照して、接続に間違いがないことを確認します。**

2 **電源を入れます。**

● 電源表示LEDが緑色に点灯して電源が入り、ディスプレイが点灯します。

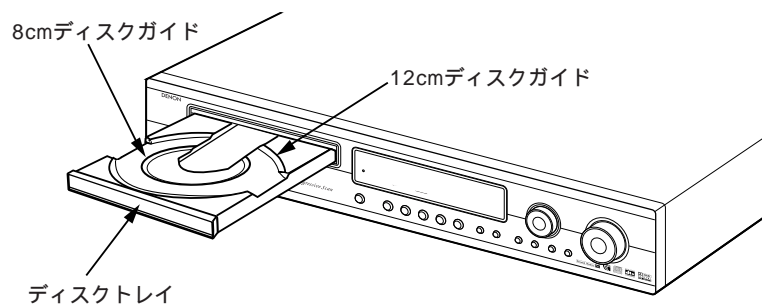
※ 電源ボタンを押してから音声が出力されるまで数秒間かかります。これは、電源ON/OFF時の雑音を防止するミューティング回路が内蔵されているためです。

※ 電源ボタンを押してスタンバイ状態にしても、一部の回路は通電していますので、外出やご旅行の場合は必ず、電源プラグをコンセントから抜いてください。

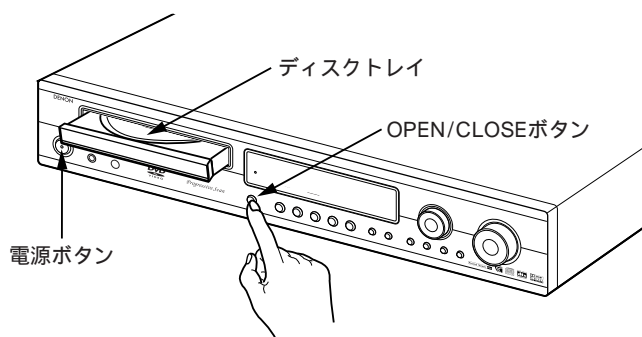
(2) ディスクの入れかた

★ ディスクトレイにディスクを載せてください。

ご注意

ディスクを再生中に本機を移動させないでください。ディスクに傷を付けてしまいます。

ディスク再生のしかた（つづき）

1 ディスクトレイの開閉

① OPEN/CLOSEボタンを押してください。

ご注意

- 電源がスタンバイ状態でもOPEN/CLOSEボタンを押すと本機の電源が入り、ディスクトレイが動作します。（**オートパワーオン機能**）
- ファンクションがDVD以外でもOPEN/CLOSEボタンを押すとファンクションがDVDに切り替わり、ディスクトレイが動作します。（**オートファンクション機能**）
- ボタンを鉛筆などで叩いたりしないでください。

2 ディスクの入れかた

- ディスク情報面に手が触れないように持ち、ディスクトレイに載せてください。
- ディスクトレイが完全に開いた状態でディスクを載せてください。
- 12cmディスクは外周トレイガイド（図1）に合わせ、8cmディスクは内周トレイガイド（図2）に合わせて水平に載せてください。
- OPEN/CLOSEボタンを押すとディスクトレイが閉まり、ディスクは自動的に装着されます。
- ディスクトレイは再生（▶）ボタンを押しても自動的に閉まり、ディスクを装着することができます。

ご注意

- 万一指などを挟んだ場合は、慌てずにOPEN/CLOSEボタンを押してください。
- 電源が切られている状態でディスクトレイを手で押し込まないでください。
  故障の原因となります。
- ディスクトレイに異物を入れないでください。
  故障の原因となります。

図1

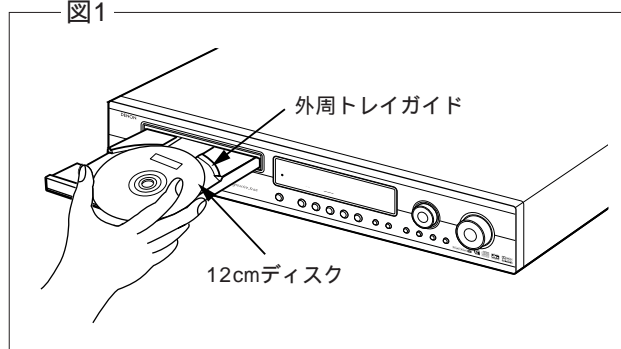
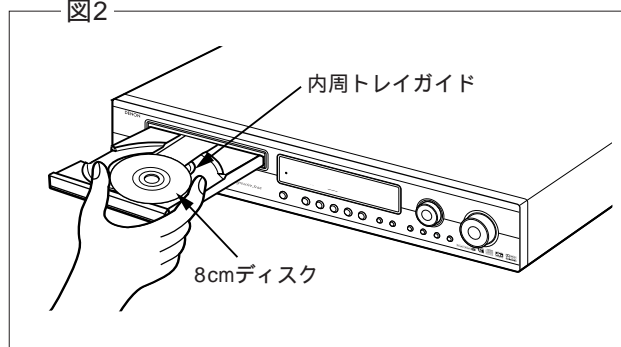



図2

ディスク再生のしかた（つづき）

(3）再生のしかた

再生をはじめる前に（本機のDVD初期設定について）

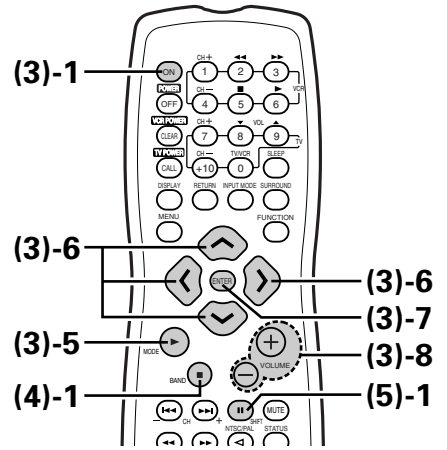
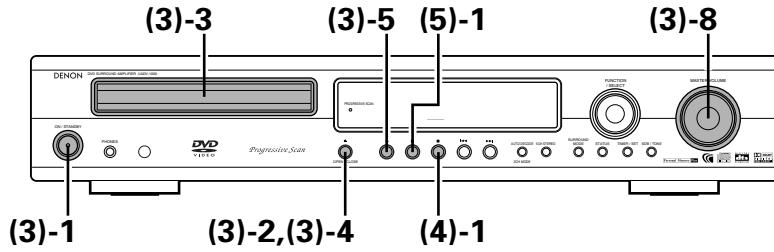
本機は一般的な使用を前提として、あらかじめ各種機器を初期設定しており、初期設定のまま使用することができます。
本機の初期設定をお客様のご使用に合わせて変更する場合は、47～59ページの『DVD設定変更のしかた』をご覧ください。

★ 工場出荷時の設定（入力モード『AUTO』、サラウンドモード『AUTO DECODE』、2chモード『AUTO STEREO』）で再生すると、ディスクや放送の内容によって再生モードが自動的に次のようになります。

<table>
<tr><th>メディア</th><th colspan="2">ソフトの内容</th><th>再生モード</th></tr>
<tr><td rowspan="3">DVD</td><td colspan="2">ドルビーデジタル　5.1ch/6.1ch</td><td>5.1ch再生</td></tr>
<tr><td colspan="2">ドルビーデジタル　2ch
（プロロジック）</td><td>ステレオ再生（＊）</td></tr>
<tr><td colspan="2">DTSデジタル　5.1ch/6.1ch</td><td>5.1ch再生</td></tr>
<tr><td rowspan="3">デジタル放送</td><td rowspan="3">AAC</td><td>5.1chサラウンド</td><td>5.1ch再生</td></tr>
<tr><td>2chサラウンド</td><td rowspan="2">ステレオ再生（＊）</td></tr>
<tr><td>ステレオ</td></tr>
<tr><td>CD</td><td colspan="2">PCM　ステレオ</td><td>ステレオ再生</td></tr>
</table>

＊）2chサラウンド（ドルビープロロジック）やステレオのソフトをプロロジックⅡサラウンドで再生する場合は、64ページの『サラウンド機能の操作のしかた』を参照してサラウンドの設定をしてください。

ディスク再生のしかた（つづき）

リモコン操作をする前に!!
必ずリモコンモード切り替えボタンを押して、
リモコンをDVDモードにします。

★ 工場出荷時の設定（入力モード『AUTO』、サラウンドモード『AUTO DECODE』）で再生する場合について説明します。

1 **電源を入れます。**

- 電源ボタンを押すと、電源表示LEDが緑色に点灯して電源が入ります。

（本体）　（リモコン）

2 **本体のOPEN/CLOSEボタンを押します。**

- ディスクトレイが開きます。

※ オートファンクション機能が働き、ファンクションはDVDになります。

（本体）

3 **ディスクトレイにディスクを載せます。**

4 **本体のOPEN/CLOSEボタンを押します。**

- ディスクトレイが閉まり、ディスクが本機に装着されます。

（本体）

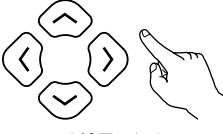
5 **再生ボタンを押します。**

- インタラクティブなDVDやプレイバックコントロール付きビデオCDの多くのものは、メニュー画面が表示されます。このような場合は、操作***6***で見たい項目を選び再生をはじめてください。

（本体）　（リモコン）

インタラクティブなDVDとは

例えば複数のアングルや、ストーリーなどが収録されたDVDソフトです。

【例】メニュー記録されたDVDのとき

【例】プレイバックコントロール付きビデオCDのとき

（次ページへ続きます。）

ディスク再生のしかた（つづき）

6 **カーソルボタン（︿,﹀,〈,〉）を押して、見たい項目を選びます。**

（リモコン）

● ディスクによって異なりますが、▶▶|ボタンを押すとメニューの続きがある場合、続きのメニューを表示します。（ディスクのジャケットを参照ください。）

※ **ビデオCDのときは、カーソルボタン（︿,﹀,〈,〉）が使えません。**
番号ボタンで見たい項目を選んでください。

7 **ENTERボタンを押します。**

● 見たい項目が決定され、再生がはじまります。
● ディスクによっても異なりますが、DVD再生中はリモコンのTOP MENUボタンを押すとメニュー画面に戻すことができます。
● ビデオCD再生中はリモコンのRETURNボタンを押すとメニュー画面に戻すことができます。

（リモコン）

【例】DVD “りんご” を選んだとき

↓

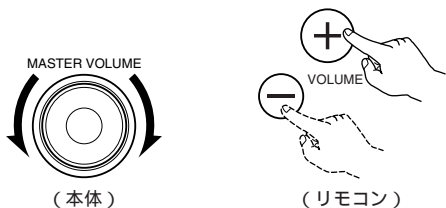
りんご

8 **本体のMASTER VOLUMEつまみを回すか、またはリモコンのVOLUMEボタンを押して音量を調節します。**

M.VOLUME -20

音量がディスプレイに表示されます。

（本体）

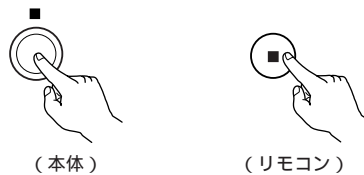
（リモコン）

● 入力モード『AUTO』では、再生したディスクの信号を判断し、ドルビーデジタル/DTS/PCMのいずれかの方式で自動的にデコードおよび再生をおこないます。
● サラウンドモード『AUTO DECODE』では、再生したディスクの信号により、ドルビーデジタル/DTS/オートステレオのいずれかの方式で自動的にデコードおよび再生をおこないます。

（4）再生の止めかた

1 **再生中に停止ボタンを押します。**

● 再生が止まり、壁紙が表示されます。

（本体）

（リモコン）

■ 続き再生メモリー機能について(DVDのみ)

● 再生中に■ボタンを押すと止めた位置を記憶します。（このとき、ディスプレイの “ ▶ ” が点滅します。）▶ボタンを押すと、止めたところから再生がはじまります。トレイを開けるか、もう一度■ボタンを押すと続き再生メモリー機能は解除されます。

※ 続き再生メモリー機能は、再生中に表示窓に経過時間が表示されるディスクで働きます。

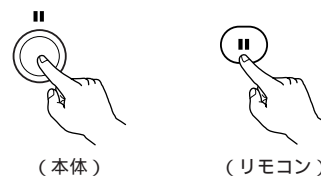
■ オートパワーOFF機能について

● 停止状態で30分経過すると自動的に本機の電源が切れ、スタンバイ状態にするDVDオートパワーOFF機能を搭載しています。
● 工場出荷時は『動作しない』に設定されていますので、動作させる場合は46ページの『DVDオートパワーOFF設定』で『する』に設定してください。

（5）静止（一時停止）のしかた

1 **再生中に一時停止ボタンを押します。**

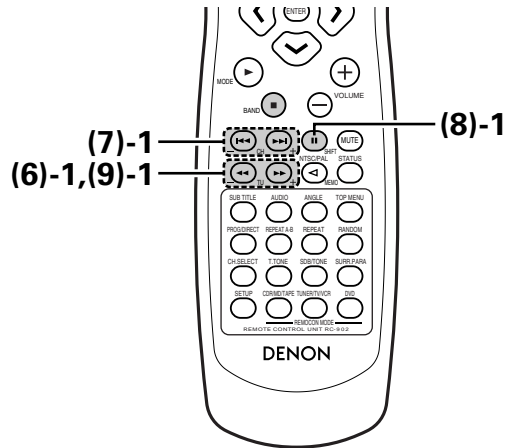
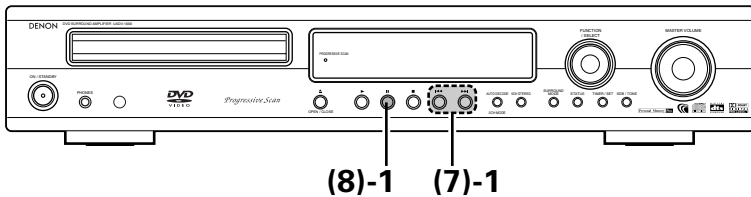
● ▶ボタンを押すと通常の再生に戻ります。

（本体）

（リモコン）

ご注意

● ボタン操作中、テレビ画面に ✋ が表示されたときは本機またはディスクがその操作を禁止しています。
● ディスクはガイドに合わせて置いてください。
● トレイには1枚だけディスクをのせてください。
● テレビ画面にメニューが出ている間は、ディスクは回り続けています。

ディスク再生のしかた（つづき）

リモコン操作をする前に!!
必ずリモコンモード切り替えボタンを押して、
リモコンをDVDモードにします。

(6) 早送り/早戻しのしかた

1 **再生中に◀◀ボタンまたは▶▶ボタンを押します。**

［◀◀：戻し方向
▶▶：送り方向］

（リモコン）

- 押すたびに、早送り/早戻しが速くなります。（4段階）
- ▶ボタンを押すと通常の再生に戻ります。

ご注意

- ビデオCDのメニュー再生中、I◀◀/▶▶Iボタンを押すとメニュー画面に戻ることがあります。

(7) 頭出しのしかた

1 **再生中にI◀◀ボタンまたは▶▶Iボタンを押します。**

- 押した回数だけチャプター/トラックを飛び越します。
- 戻し方向に1回押すと再生中のチャプター/トラックの先頭に戻ります。

（本体）

（リモコン）

［I◀◀：戻し方向（リバース）
▶▶I：送り方向（フォワード）］

再生位置

チャプター/トラック	チャプター/トラック	チャプター/トラック	チャプター/トラック

戻し方向← →送り方向（再生方向）

ご注意

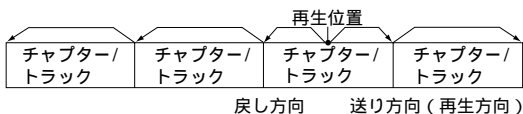
- ビデオCDのメニュー再生中、I◀◀/▶▶Iボタンを押すとメニュー画面に戻ることがあります。

(8) コマ送り再生のしかた（DVD/ビデオCD のみ）

1 **静止中に一時停止ボタンを押します。**

- 押すたびに、1コマずつ再生します。
- ▶ボタンを押すと通常の再生に戻ります。

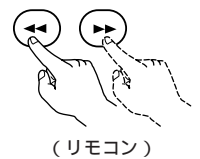
（本体）

（リモコン）

(9) スロー再生のしかた（DVD/ビデオCD のみ）

1 **静止中に◀◀ボタンまたは▶▶ボタンを押します。**

［◀◀：戻し方向
▶▶：送り方向］

（リモコン）

- 押すたびに、スロー再生の速度が速くなります。（4段階）
- ビデオCDの場合は3段階になります。
- ▶ボタンを押すと通常の再生に戻ります。

ご注意

- ビデオCDは逆スロー再生できません。

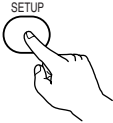
19 詳細なシステムセットアップのしかた

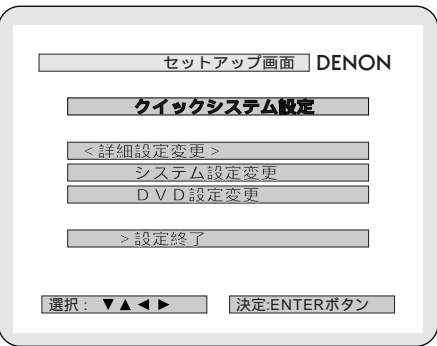
★ 工場出荷時にあらかじめ設定されている初期設定を変更することができます。
使用するスピーカーシステムやDVDの機能についてご使用の条件に合わせて設定してください。
設定内容は電源を切っても次に変更するまで保持されます。

（1）初期設定一覧表

【セットアップの内容と初期設定（工場出荷時）】

セ ッ ト ア ッ プ				初 期 設 定
クイックシステム設定			ご使用になる部屋の大きさと視聴される位置を設定します。	ルーム設定 視聴位置 設定内容 ～8畳 小　後　フロント 小 2.7m　センター 小 2.4m　サラウンド 小 1.8m　スーパーウーハー あり 2.7m
詳細設定変更	システム設定変更	スピーカー設定	サラウンド再生の際、実際に使用するスピーカーの組み合わせの有無や、自動的に各スピーカーから出力される信号の成分や周波数特性が設定されます。	フロント　センター　サラウンド　スーパーウーハー 小　小　小　あり SW周波数 = 120Hz
		ディレイタイム（距離）	リスニングポジションに応じて各スピーカー、スーパーウーハーから発声される音声のタイミングを最適にするためのパラメーターです。	フロント＆スーパーウーハー　センター　サラウンド 2.7m　2.4m　1.8m
		チャンネルレベル調整	リスニングポジションで各スピーカーから出力されるテストトーンを聞きながら、各スピーカーの再生レベルが同じになるように設定します。	フロント左　センター　フロント右　サラウンド右　サラウンド左　スーパーウーハー 0dB　0dB　0dB　0dB　0dB　0dB
		二重音声設定	AACソースおよびドルビーデジタルソースの二重音声内容を設定します。	主音声
		DVDオートパワーOFF設定	DVDファンクションのとき、停止状態で30分以上操作がなかった場合、自動的に電源をスタンバイ状態にします。	オートパワーOFFしない
	DVD設定変更	ディスク言語設定	ディスク再生時の音声言語、字幕言語、ディスクメニュー言語を設定します。	音声言語　字幕言語　メニュー言語 日本語　日本語　日本語
		OSD設定	セットアップ画面や操作画面表示のOSD言語や壁紙を設定します。	OSD言語　壁紙 日本語　ブルー
		映像設定	使用するテレビの画面サイズや映像方式およびD端子へのビデオ出力信号を設定します。	TVアスペクト（画面サイズ）　TVタイプ（映像方式）　ビデオ出力（D端子） 4：3 PS（パン＆スキャン）　NTSC　PROGRESSIVE
		音声設定	デジタル音声の信号形式やリニアPCMのサンプリング周波数/ビット数変換を設定します。	デジタル出力　LPCM変換モード ノーマル　変換しない
		視聴制限設定	視聴制限付きDVDの再生制限の設定と設定変更に必要なパスワードを設定します。	視聴制限レベル　パスワード（4桁） 制限しない　0000（変更可能）
		特殊設定	DVDのクローズド・キャプションの表示を設定します。（表示させるには市販のデコーダーが必要です。）	クローズド・キャプション：表示しない

詳細なシステムセットアップのしかた（つづき）

（1）詳細なシステムセットアップのしかた（細かい調整をおこなう場合）

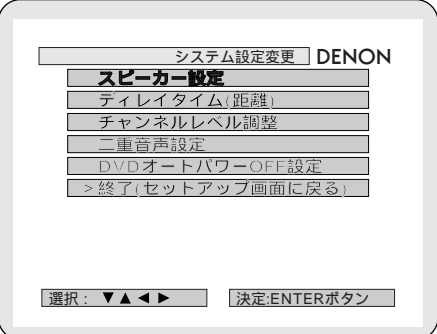
★ クイックシステム設定や工場出荷時の初期設定値を変更する場合、システム設定変更メニューによりおこないます。設定内容は電源を切っても次に変更するまで保持されます。

1 スピーカー設定（スピーカーの種類・有無の設定）

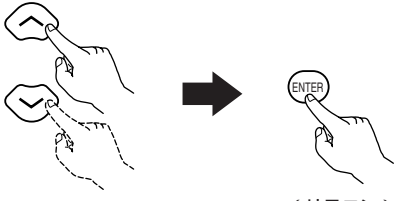
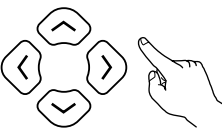
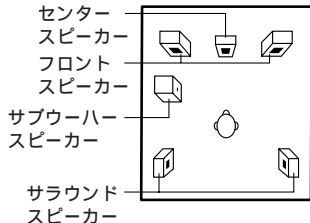
★実際に使用されるスピーカーの組み合わせに対して、自動的に各チャンネルの出力成分や特性を調節します。

1 **SETUPボタンを押して、セットアップ画面を表示させます。**

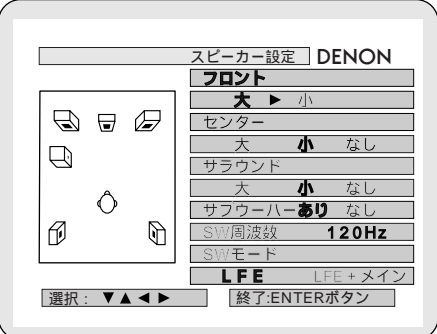
SETUP

（リモコン）

セットアップ画面 DENON
クイックシステム設定
＜詳細設定変更＞
システム設定変更
ＤＶＤ設定変更
＞設定終了
選択： ▼▲◀▶
決定:ENTERボタン

2 **カーソルボタン（ ︿ , ﹀ ）で『＜詳細設定変更＞』の『システム設定変更』を選択し、ENTERボタンを押します。**

3 **システム設定変更メニュー画面上で、カーソルボタン（ ︿ , ﹀ ）で『スピーカー設定』を選択し、ENTERボタンを押します。**

● 操作*4*のスピーカー設定画面になります。

4 **カーソルボタン（ ︿ , ﹀ , 〈 , 〉）で、各々のスピーカーの有無または大きさなどのパラメーターを設定します。**

（リモコン）

● 設定する項目が黄色で表示され、設定以外の各項目の設定値は緑色で表示されます。

5 **ENTERボタンを押して、設定を確定します。**

● システム設定変更メニュー画面に戻ります。

（リモコン）

ご注意

大/小の選択はスピーカーの外形で判断せずに、100Hzを基準とした低域・再生能力で判断してください。この判断がつかない場合は、スピーカーを破壊しない範囲で『小』に設定した場合と、『大』に設定した場合の音を比較した上で選択してください。

詳細なシステムセットアップのしかた（つづき）

パラメーターについて

大

100Hz以下の低音を十分再生できるスピーカーを使用するときに選択します。

小

100Hz以下の低音再生に十分な音量が得られないスピーカーを使用するときに選択します。
この設定をおこなった場合、スーパーウーハー周波数で設定した周波数以下の低音はスーパーウーハーに振り分けられます。

なし

スピーカーを設置していないときに選択します。

あり

スーパーウーハーを設置しているときに選択します。

※スーパーウーハーの低域再生能力が十分な場合、フロント、センター、サラウンドの各スピーカーの設定を『小』にしても良好な音場再生を得ることができます。
※フロントスピーカーを『小』に設定すると自動的にスーパーウーハーは『あり』に設定され、スーパーウーハーを『なし』に設定すると自動的にフロントスピーカーは『大』に設定されます。

スーパーウーハー（SW）周波数について

- スピーカー設定画面のSW周波数で、スーパーウーハーから再生する低域クロスオーバー周波数を設定します。
- 『80Hz』、『120Hz』、『150Hz』、『180Hz』が選択でき、それぞれの周波数以下の低域をスーパーウーハーから再生します。
（工場出荷時は『120Hz』に設定されています。）

低音域の振り分けについて

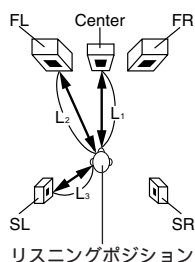
- ドルビーデジタル、ドルビープロロジックⅡ、DTS、AACおよびバーチャルサラウンドモードでは、スピーカー設定を『小』にしたチャンネルの低音域信号の振り分けをおこないます。『大』に設定したチャンネルの低音域はそのチャンネルから再生します。（スーパーウーハー周波数を『120Hz』に設定した場合、『小』に設定したチャンネルは120Hz以上の音を再生し、120Hz以下の低音域はスーパーウーハーから再生します。）
- 上記以外のサラウンドモードではスピーカー設定の『大』『小』によらず、スーパーウーハー周波数で設定した周波数以下の低音域をスーパーウーハーから再生します。
- 使用するスピーカーやスーパーウーハーの低域再生能力に応じて、スーパーウーハー周波数の設定をおこなってください。

スーパーウーハー（SW）モードについて

- スーパーウーハーモードの設定はフロントスピーカーを『大』、スーパーウーハーを『あり』に設定した場合のみ有効です。
- 『LFE＋メイン』モードを選択すると、『大』に指定されたチャンネルの低音域信号はそのチャンネルから再生するとともに、スーパーウーハーチャンネルからも同時に再生されます。
このモードではより均一な低音域が室内に広がりますが、部屋の大きさと形によっては、干渉のために実際の低音域音量が低下することもあります。
- 『LFE』モードを選択すると、『大』に指定されたチャンネルの低音域信号はそのチャンネルからのみ再生されます。
このモードでは室内低音域干渉が起こりにくくなります。

2 ディレイタイム（距離の設定）

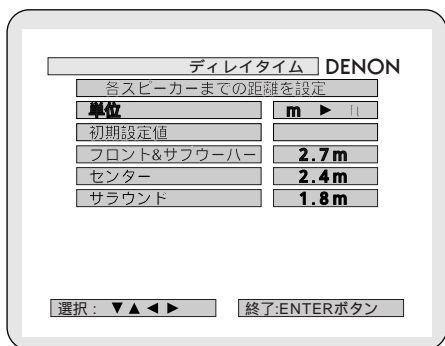
★ リスニングポジションと各スピーカーとの距離を入力して、サラウンドのディレイタイムを設定します。
★ 工場出荷時は下記操作***3***の初期設定値に設定されています。

準備：リスニングポジションと各スピーカーとの距離（下図のL1〜L3）を測定します。

L1： センタースピーカーと
リスニングポジションとの距離
L2： フロントスピーカーと
リスニングポジションとの距離
L3： サラウンドスピーカーと
リスニングポジションとの距離

1 **システム設定変更メニュー画面以外からおこなう場合は、41ページ操作*1*をお読みください。**

2 **システム設定変更メニュー画面上で、カーソルボタン（∧,∨）で『ディレイタイム（距離）』を選択し、ENTERボタンを押します。**

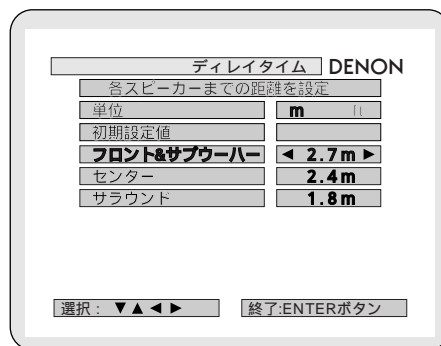
（リモコン）　（リモコン）

● ディレイタイムの設定画面になります。

● 距離の単位はカーソルボタン（〈,〉）で“m（メートル）”と“ft（フィート）”が選択できます。
変更しない場合はカーソルボタン（∨）で次へ進みます。

3 **『初期設定値』で『する』を選択すると、各スピーカーのディレイタイムは初期設定値になります。**

◎ **する** ：初期設定値になります。
フロント＆スーパーウーハー → 2.7m
センター → 2.4m
サラウンド → 1.8m
◎ **しない**：現在の設定値のままです。

4 **カーソルボタン（∧,∨）で設定したいスピーカーを選び、カーソルボタン（〈,〉）でスピーカーとリスニングポジションとの距離を設定します。**

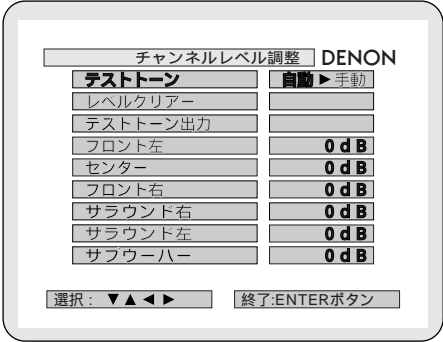
● カーソルボタン（〈,〉）を押すたびに数値が0.1m単位（フィートの場合は1ft単位）で変化しますので、測定した距離に最も近い値を選択してください。

※ 各スピーカーに設定した距離の差はどれも3.0m（10ft）以下にしてください。
不適切な距離を設定すると“**注意：設定範囲外**”と表示されますので、スピーカーの位置を変更して再設定してください。

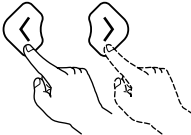
5 **ENTERボタンを押して、設定を確定します。**

● システム設定変更メニュー画面に戻ります。

（リモコン）

3 チャンネルレベル調整

★ 各チャンネル間の再生レベルが等しくなるように調整します。
★ リスニングポジションで、各スピーカーより出力されるテストトーン（再生音）を聞きながら調整します。
★ 工場出荷時はすべて0dBに設定されています。
★ 調整はリモコンからのダイレクト操作でもおこなえます。（詳しくは33ページを参照してください。）

1 **システム設定変更メニュー画面以外からおこなう場合は、41ページ操作*1*をお読みください。**

2 **システム設定変更メニュー画面上で、カーソルボタン（︿,﹀）で『チャンネルレベル調整』を選択し、ENTERボタンを押します。**

（リモコン）　（リモコン）

● チャンネルレベル調整画面になります。

3 **カーソルボタン（〈,〉）で『テストトーン』モードを『自動』または『手動』のどちらかに選択します。**

● 選択された方を黄色表示します。

（リモコン）

◎ **自動：** 各スピーカーより自動的に出力されるテストトーンを聞きながらレベルを調整します。
◎ **手動：** テストトーンを出力させたいスピーカーを選んでレベル調整します。

※ 最初の設定は『手動』でおこなうと詳細な設定ができます。

4 **『レベルクリアー』で『する』を選択すると各スピーカーのレベル設定をすべて0dBにします。**

◎ **する　：** 各スピーカーのレベル設定をすべて0dBにします。
◎ **しない：** 各スピーカーのレベル設定は現在の設定値のままです。

5 **【『テストトーン』モードで チャンネルレベルを調整する】**

カーソルボタン（︿,﹀）で『テストトーン出力』モードにし、カーソルボタン（〈）で『開始』を選択するとテストトーンを出力します。

※ テストトーンの音量は本体のMASTER VOLUMEつまみまたはリモコンのVOLUMEボタンで調節しやすい音量にしてからおこなってください。

6 **① 『テストトーン』モードで『自動』を選択した場合**

● 下記の順序で2周目までは4秒間隔で、3周目からは2秒間隔でテストトーンが各スピーカーより自動的に出力されます。

→ フロント左 → センター → フロント右 →
サブウーハー ← サラウンド左 ← サラウンド右 ←

カーソルボタン（〈,〉）で各スピーカーのテストトーンが同じ音量に聞こえるようにチャンネルレベルを調整します。

● カーソルボタン（〈,〉）を押すたびに数値が1dB単位で変化します。
－12dB～＋12dBの範囲で調整してください。

（次ページへ続きます。）

6 つづき

② 『テストトーン』モードで『手動』を選択した場合

カーソルボタン（︿,﹀）でテストトーンを出力させたいスピーカーを選び、カーソルボタン（〈,〉）で各スピーカーのテストトーンが同じ音量に聞こえるようにチャンネルレベルを調整します。

- カーソルボタン（〈,〉）を押すたびに数値が1dB単位で変化します。
  −12dB〜＋12dBの範囲で調整してください。

7 **ENTERボタンを押して、設定を確定します。**

- システム設定変更メニュー画面に戻ります。

（リモコン）

※ **調整後設定を取り消すときは**
チャンネルレベル調整画面を表示させ、カーソルボタン（︿,﹀,〈,〉）で『レベルクリアー』にし、『する』を選択してください。各スピーカーのレベル設定はすべて0dBになります。

ご注意

チャンネルレベルの設定でチャンネルレベルを調整した場合には、調整した値がすべての再生モードに対して設定されます。
チャンネルレベル設定後、チャンネルレベルを調整する場合は、33ページの操作でもおこなうことができます。

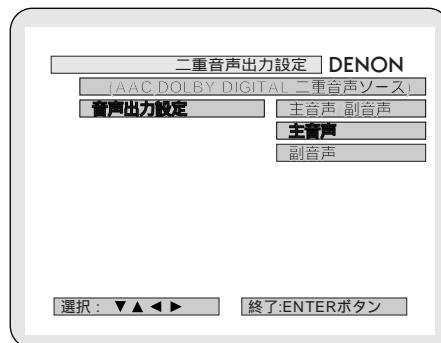
4 二重音声設定

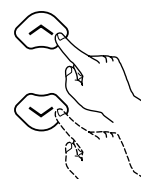
★ AACソースおよびドルビーデジタルソースの音声出力内容を設定します。
★ 工場出荷時は『主音声』に設定されています。

1 **システム設定変更メニュー画面以外からおこなう場合は、41ページ操作*1*をお読みください。**

2 **システム設定変更メニュー画面上で、カーソルボタン（︿,﹀）で『二重音声設定』を選択し、ENTERボタンを押します。**

（リモコン）　（リモコン）

- 二重音声出力設定画面になります。

3 **カーソルボタン（︿,﹀）で音声出力モードを選択します。**

- カーソルボタン（︿,﹀）を押すたびに下記のように切り替わります。

（リモコン）

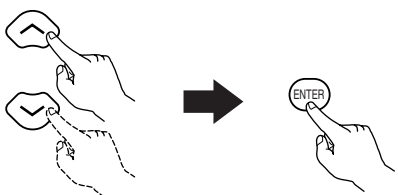
主音声/副音声 ↔ 主音声 ↔ 副音声

◎**主音声/副音声**
主音声は左チャンネルから副音声は右チャンネルから出力されます。
◎**主音声**：主音声が出力されます。
◎**副音声**：副音声が出力されます。

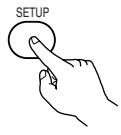
4 **ENTERボタンを押して、設定を確定します。**

- システム設定変更メニュー画面に戻ります。

（リモコン）

ご注意

二重音声出力設定は、AACソースおよびドルビーデジタルソースで二重音声の情報がある場合のみ有効となります。二重音声の情報がないAACソース、ドルビーデジタル、DTS、PCMおよびアナログソースに対しては切り替えても無効です。

5 DVDオートパワーOFF設定

★ 本機ではDVDファンクションのとき停止状態で30分間操作がなかった場合、自動的に電源をスタンバイにする機能があります。本機能の動作する/しないを設定します。
★ 工場出荷時は『動作しない』に設定されています。

1 **システム設定変更メニュー画面以外からおこなう場合は、41ページ操作*1*をお読みください。**

2 **システム設定変更メニュー画面上で、カーソルボタン（ ︿ , ﹀ ）で『DVDオートパワーOFF設定』を選択し、ENTERボタンを押します。**

（リモコン）　（リモコン）

● DVDオートパワーOFF設定画面になります。

3 **カーソルボタン（〈 , 〉）で『オートパワーOFF』モードを選択します。**

◎**する**　：DVDファンクション時、オートパワーOFF機能が動作します。
◎**しない**：オートパワーOFF機能は動作しません。

4 **ENTERボタンを押して、設定を確定します。**

（リモコン）

● システム設定変更メニュー画面に戻ります。

（2）システム設定変更後の操作

★ 以上でシステム設定変更のセットアップは終了です。スピーカー設定、ディレイタイム、チャンネルレベル調整は一度設定をおこなったら接続するAV機器やスピーカーを取り替えたり、スピーカーの配置を変えない限り再度設定をおこなう必要はありません。
★ 二重音声設定、DVDオートパワーOFF設定は必要に応じて設定変更してください。

1 **システム設定変更メニュー画面上で、SETUPボタンを押します。**

● 変更した設定値が確定され、オンスクリーン表示が消えます。

（リモコン）

※ 本ボタンを押すと、セットアップ中、どこからでもセットアップを終了することができます。

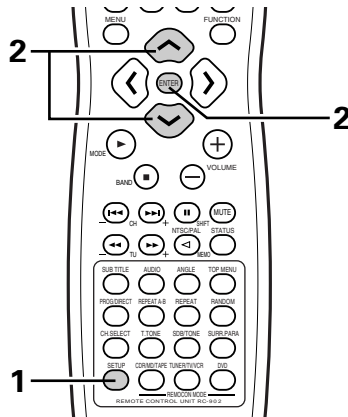
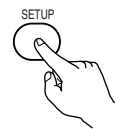
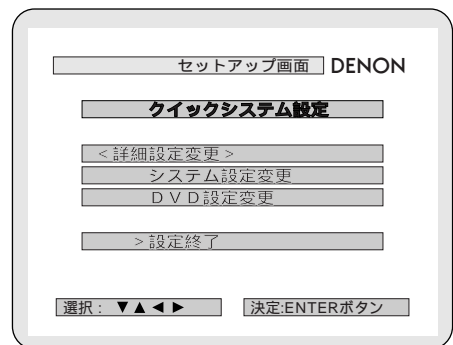
ご注意

システム設定変更でシステムセットアップをおこなった後に、クイックシステム設定で部屋の大きさや視聴位置を選択した場合、スピーカー設定、ディレイタイムの設定はクイックシステム設定にプリセットされている状態に変更されます。

20 DVD設定変更のしかた

★ 工場出荷時にあらかじめ設定されている初期設定を変更することができます。
設定内容は電源を切っても次に変更するまで保持されます。

リモコン操作をする前に!!
必ずリモコンモード切り替えボタンを押して、リモコンをDVDモードにします。

DVD

1 ディスク停止中にSETUPボタンを押して、セットアップ画面を表示させます。

2 カーソルボタン（︿,﹀）で『DVD設定変更』を選択し、ENTERボタンを押します。

● DVD設定画面が表示されます。

■ ディスク言語設定

ディスクに準備されている各種言語が設定できます。設定した言語がディスクに複数ないときは、ディスクで決められている言語が選ばれます。

■ OSD設定

初期設定画面の言語やTV画面に表示される " プレイ " などの言語や壁紙を設定できます。

■ 映像設定

ご使用されるテレビに応じて画面モードを設定します。
（TVアスペクト、TVタイプ）

■ 音声設定

ディスク再生時のデジタル音声出力モードを設定します。

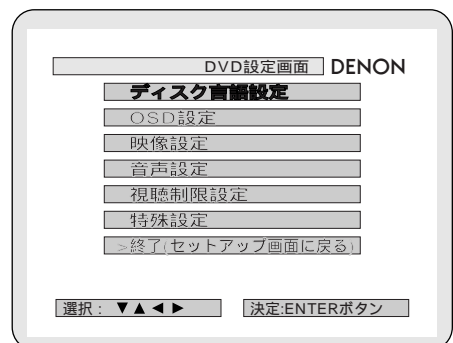
■ 視聴制限設定

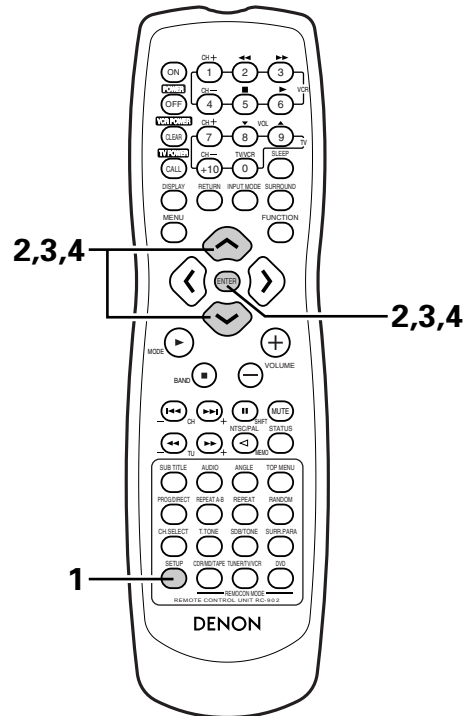
お子様などに見せたくない成人向けDVDの再生が制限できます。但し、成人向けDVDでもディスクに視聴制限レベルが記録されていない場合は視聴制限はできません。また、すべてのDVDの再生を禁止することもできます。

■ 特殊設定

クローズド・キャプション表示の設定ができます。

ENTER

（リモコン）　（リモコン）

※ **DVD設定を終了するときは**
カーソルボタン（︿,﹀）で『終了』を選択しENTERボタンを押すか、またはSETUPボタンを押します。
SETUPボタンを押すと、セットアップ中どこからでもセットアップを終了することができます。

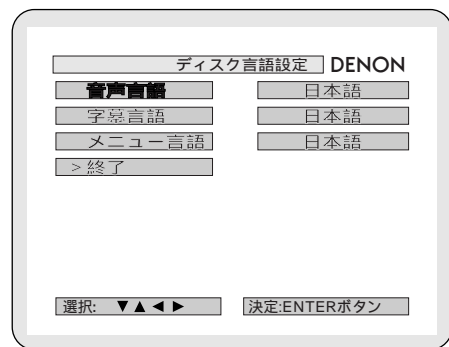
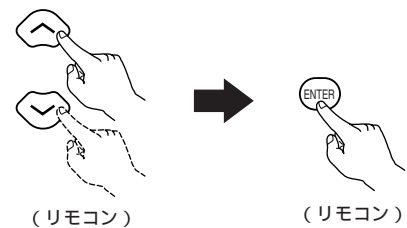
(1)『ディスク言語設定』を選んだとき

1
2
DVD設定画面以外からおこなう場合、47ページ操作 *1*、*2*をお読みください。

3
DVD設定画面上で、カーソルボタン（ ︿ , ﹀ ）で『ディスク言語設定』を選択し、ENTERボタンを押します。

音声言語
スピーカーから出力される音声言語を設定できます。

字幕言語
ＴＶに表示される字幕言語を設定できます。

メニュー言語
トップメニュー（ディスクに記録されているメニュー）などの画面言語を設定できます。

※**『ディスク言語設定』を終了するときは**
カーソルボタン（ ︿ , ﹀ ）で『終了』を選択しENTERボタンを押します。（DVD設定画面に戻ります。）

（次のページに続きます）

4 **カーソルボタン（︿,﹀）で設定する内容を選択し、ENTERボタンを押します。**

■『音声言語』を選んだとき

● カーソルボタン（︿,﹀）で設定する音声言語を選びます。

◎**英語**
英語の音声で再生されます。

◎**フランス語**
フランス語の音声で再生されます。

◎**スペイン語**
スペイン語の音声で再生されます。

◎**ドイツ語**
ドイツ語の音声で再生されます。

◎**中国語**
中国語の音声で再生されます。

◎**日本語 <工場出荷時>**
日本語の音声で再生されます。

※**『音声言語設定』を終了するときは**
ENTERボタンを押します。

■『字幕言語』を選んだとき

● カーソルボタン（︿,﹀）で設定する字幕言語を選びます。

◎**英語**
英語の字幕が表示されます。

◎**フランス語**
フランス語の字幕が表示されます。

◎**スペイン語**
スペイン語の字幕が表示されます。

◎**ドイツ語**
ドイツ語の字幕が表示されます。

◎**中国語**
中国語の字幕が表示されます。

◎**日本語 <工場出荷時>**
日本語の字幕が表示されます。

◎**字幕なし**
字幕を表示させないときに選びます。ディスクによっては字幕表示を消すことができない場合があります。

※**『字幕言語』を終了するときは**
ENTERボタンを押します。

■『メニュー言語』を選んだとき

● カーソルボタン（︿,﹀）で設定するメニュー言語を選びます。

◎**英語**
英語のメニュー画面が表示されます。

◎**フランス語**
フランス語のメニュー画面が表示されます。

◎**スペイン語**
スペイン語のメニュー画面が表示されます。

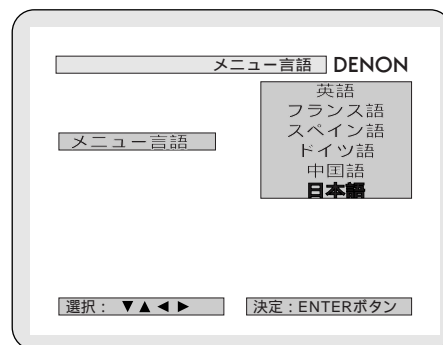
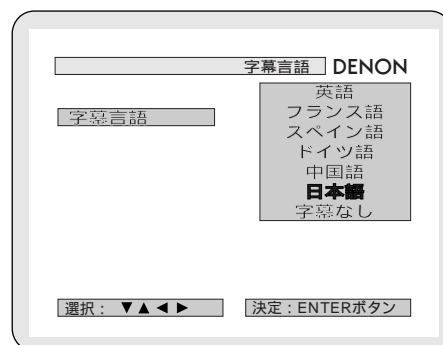
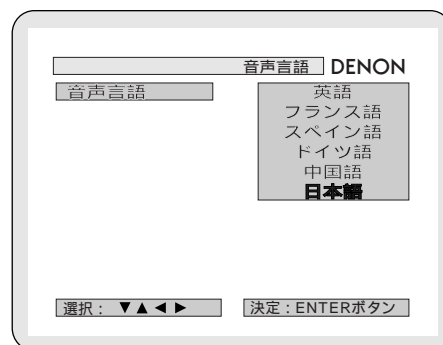
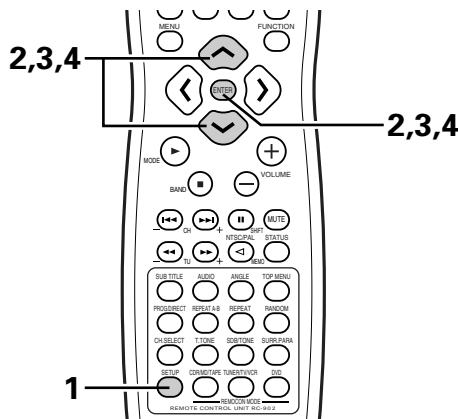
◎**ドイツ語**
ドイツ語のメニュー画面が表示されます。

◎**中国語**
中国語のメニュー画面が表示されます。

◎**日本語 <工場出荷時>**
日本語のメニュー画面が表示されます。

※**『メニュー言語』を終了するときは**
ENTERボタンを押します。

(2)『OSD設定』を選んだとき

1
2

DVD設定画面以外からおこなう場合、47ページ操作 *1*、*2*をお読みください。

3

カーソルボタン（︿,﹀）で『OSD設定』を選択し、ENTERボタンを押します。

OSD言語

セットアップ画面の言語やＴＶ画面に表示される“ プレイ ”などの言語を設定できます。

壁紙

停止中やCD再生中、ディスプレイに表示する画面を選べます。

※**『OSD設定』を終了するときは**

カーソルボタン（︿,﹀）で『終了』を選択しENTERボタンを押します。（DVD設定画面に戻ります。）

4

カーソルボタン（︿,﹀）で設定する内容を選択し、ENTERボタンを押します。

■『OSD言語』を選んだとき

● カーソルボタン（︿,﹀）で設定するOSD言語を選びます。

◎ **ENGLISH**

英語の字幕が表示されます。

◎ **日本語 <工場出荷時>**

日本語の字幕が表示されます。

※**『OSD言語』を終了するときは**

ENTERボタンを押します。

■『壁紙』を選んだとき

● カーソルボタン（︿,﹀）で設定する壁紙を選びます。

◎ **ブルー <工場出荷時>**

ディスプレイに表示する画面をブルーバックにしたいときに選びます。

◎ **ピクチャー**

ディスプレイに表示する画面をピクチャーにしたいときに選びます。

※**『壁紙』を終了するときは**

ENTERボタンを押します。

(3)『映像設定』を選んだとき

1 2 **DVD設定画面以外からおこなう場合、47ページ操作*1*、*2*をお読みください。**

3 **カーソルボタン（︿,﹀）で『映像設定』を選択し、ENTERボタンを押します。**

1. TVアスペクト
ご使用されるテレビの画面サイズに応じて設定できます。

2. TVタイプ
ご使用されるテレビの映像方式（マルチ、NTSC、PAL）に応じて設定できます。
●国内の映像方式はNTSCです。

3. ビデオ出力
本機でディスクを再生したときのコンポーネントD端子モニター出力をインターレースにするか、プログレッシブスキャンにするかの選択ができます。

※**『映像設定』を終了するときは**
カーソルボタン（︿,﹀）で『終了』を選択しENTERボタンを押します。（DVD設定画面に戻ります。）

4 **カーソルボタン（︿,﹀）で設定する内容を選択し、ENTERボタンを押します。**

■『1.TVアスペクト』を選んだとき

● カーソルボタン（︿,﹀）で設定するTVアスペクトを選びます。

◎**4：3 PS ＜工場出荷時＞**
従来のサイズのテレビに接続したときに選びます。ワイド画面で記録されているソフトでは、パン＆スキャン（左右の切れた画面）で再生します。ただしパン＆スキャン指定されていないソフトはレターボックスで再生します。

◎**4：3 LB**
従来のサイズのテレビに接続したときに選びます。ワイド画面で記録されているソフトではレターボックス（上下に黒い帯のある画面）で再生します。

◎**ワイド**
ワイドテレビに接続したときに選びます。ワイドソフトはフル画面で再生します。

※**『TVアスペクト』を終了するときは**
ENTERボタンを押します。

（次のページに続きます）

DVD設定変更のしかた（つづき）

4 つづき

■『2.TVタイプ』を選んだとき

● カーソルボタン（︿,﹀）で設定するTVタイプを選びます。

◎ **マルチ**
ご使用のテレビがNTSC方式とPAL方式を兼用しているときに選びます。

◎ **NTSC ＜工場出荷時＞**
通常は『NTSC』を選んでください。
（国内で使われているテレビはNTSC方式です。）

◎ **PAL**
ご使用のテレビがPAL方式のときに選びます。

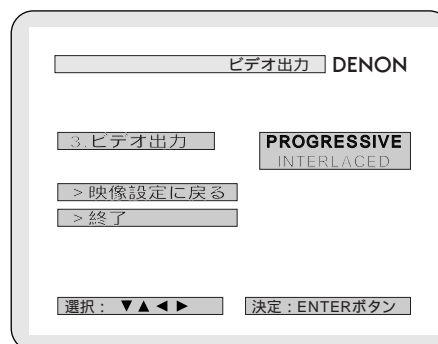
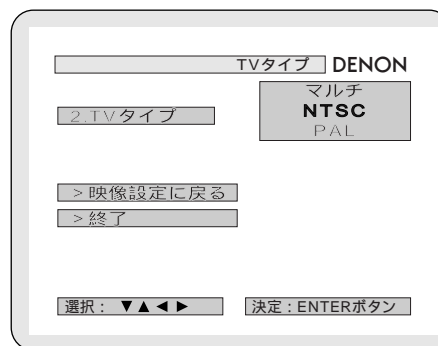
※ **『TVタイプ』を終了するときは**
ENTERボタンを押します。

■『3.ビデオ出力』を選んだとき（ご注意参照）

● カーソルボタン（︿,﹀）で設定するビデオ出力を選びます。

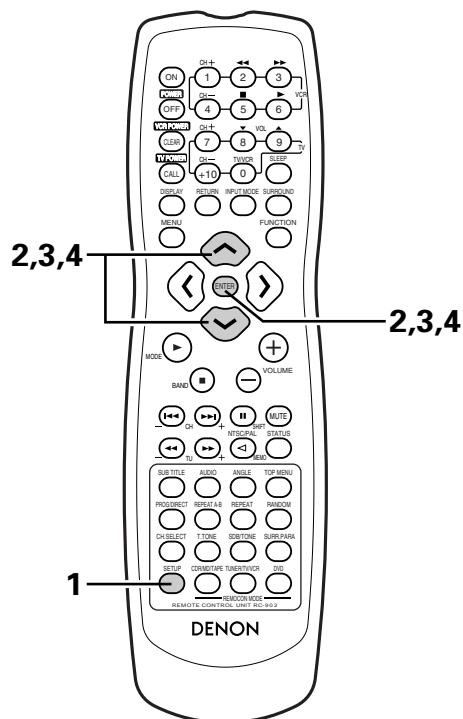
◎ **PROGRESSIVE ＜工場出荷時＞**
プログレッシブ方式のテレビと接続し、使用される場合に選びます。

◎ **INTERLACED**
インターレース方式のテレビと接続し、使用される場合に選びます。

※ **『ビデオ出力』を終了するときは**
ENTERボタンを押します。

ご注意

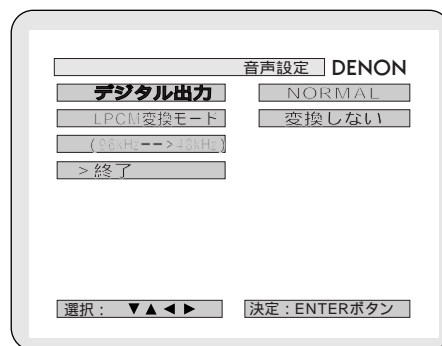
- 本機でディスクを再生したときのコンポーネントD端子出力（COMPONENT VIDEO MONITOR OUT）のみインターレース映像出力とプログレッシブ映像出力を切り替えることができます。
- 映像出力（VIDEO OUT）およびS映像出力（S-VIDEO OUT）に対してプログレッシブ映像出力を設定することはできません。

(4)『音声設定』を選んだとき

1
2
DVD設定画面以外からおこなう場合、47ページ操作 *1*、*2*をお読みください。

3
カーソルボタン（︿,﹀）で『音声設定』を選択し、ENTERボタンを押します。

デジタル出力
デジタル出力の信号形式を選ぶときに使用します。

LPCM変換モード
リニアPCM音声で記録されたDVD再生時のデジタル音声出力の設定ができます。

※**『音声設定』を終了するときは**
カーソルボタン（︿,﹀）で『終了』を選択しENTERボタンを押します。（DVD設定画面に戻ります。）

（次のページに続きます）

4 **カーソルボタン（︿,﹀）で設定する内容を選択し、ENTERボタンを押します。**

■『デジタル出力』を選んだとき

- カーソルボタン（︿,﹀）で設定するデジタル出力を選びます。

◎**NORMAL <工場出荷時>**
本機でドルビーデジタルまたはDTSサラウンド再生をするときに選びます。ドルビーデジタルまたはDTSで記録されたDVDを再生したとき、それぞれのビットストリーム信号を出力します。また、リニアPCMで記録されたディスクを再生したときはリニアPCMで出力します。

◎**PCM変換**
本機のデジタル出力からデジタル録音機器にデジタル録音するときに選びます。ドルビーデジタルで記録されたDVDを再生したときは、48kHz/16bitのPCM（2ch）に変換して出力します。また、リニアPCMで記録されたディスクを再生したときはリニアPCMで出力します。DTSで記録されたDVDを再生したときはビットストリーム信号を出力し、デジタル録音できません。

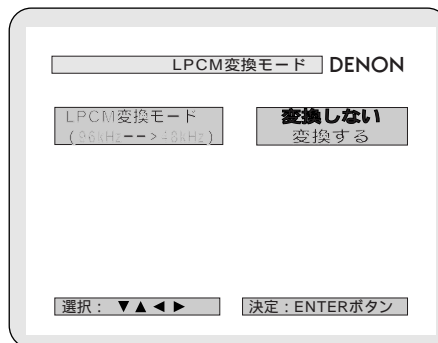
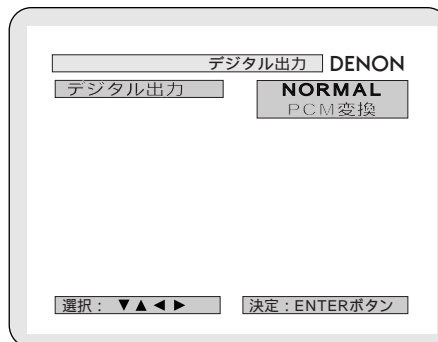
※**『デジタル出力』を終了するときは**
ENTERボタンを押します。

■『LPCM変換モード』を選んだとき

- カーソルボタン（︿,﹀）で設定するLPCM変換モードを選びます。

◎**変換しない <工場出荷時>**
48kHz/16bitで記録されたリニアPCM音声と48kHz/20bit/24bit、96kHzのリニアPCM音声で記録された著作権保護のための処理がされていないDVDの場合にはそのままの音声記録方式で出力されます。著作権保護の処理がされているDVDの場合は著作権への配慮から48kHz/16bitで出力されます。

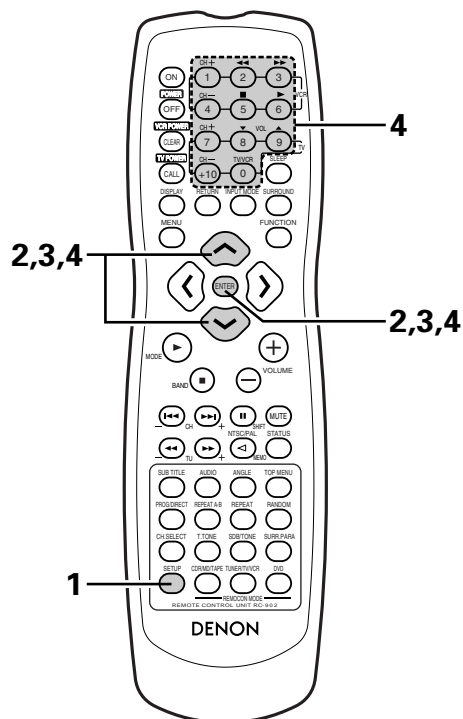
◎**変換する**
48kHz/20bit/24bit、96kHzのリニアPCM音声で記録されたDVDの再生時はすべて48kHz/16bitに変換しデジタル出力します。（PCM音声のデジタル出力は著作権への配慮から48kHz/16bit以下となります。）
本機のデジタル出力からデジタル録音機器にデジタル録音するときに選びます。

※**『LPCM変換モード』を終了するときは**
ENTERボタンを押します。

ご注意

- 本機でドルビーデジタルサラウンドDVDの再生や96kHZリニアPCMDVDの再生をする場合は必ず、『デジタル出力』を『NORMAL』、『LPCM変換モード』を『変換しない』に設定してください。
- 本機で再生するドルビーデジタルDVDをデジタル録音機器へデジタル録音する場合のみ『デジタル出力』を『PCM変換』に設定してください。
  この設定で、録音中は本機でドルビーデジタルサラウンドモード再生はできません。（PCM 2ch信号で再生可能なサラウンドモードになります。）
- 本機で再生する48kHz/20bit/24bit、96kHzのリニアPCMのDVDをデジタル録音機器へデジタル録音する場合のみ『LPCM変換モード』を『変換する』に設定してください。
  この設定で、録音中は本機で48kHz/20bit/24bit、96kHzのリニアPCMをデコード再生することはできません。（48kHz/16bitリニアPCMでのデコード再生となります。）

DVD設定変更のしかた（つづき）

（5）『視聴制限設定』を選んだとき

1
2 **DVD設定画面以外からおこなう場合、47ページ操作*1*、*2*をお読みください。**

3 **カーソルボタン（︿,﹀）で『視聴制限設定』を選択し、ENTERボタンを押します。**

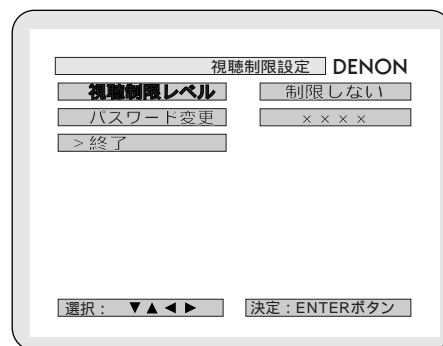
視聴制限レベル

お子さまなどに見せたくない成人向けDVDの再生が制限できます。但し、成人向けDVDでもディスクに視聴制限レベルが記録されていない場合は視聴制限できません。また、すべてのDVDの再生を禁止することもできます。

パスワード変更

パスワードの変更をするときに使用します。
パスワードの初期設定は“ 0000 ”です。

※ **『視聴制限』を終了するときは**

カーソルボタン（︿,﹀）で『終了』を選択しENTERボタンを押します。（DVD設定画面に戻ります。）

（次のページに続きます）

DVD設定変更のしかた（つづき）

4 **カーソルボタン（ ︿ , ﹀ ）で設定する内容を選択し、ENTERボタンを押します。**

■『視聴制限レベル』を選んだとき

① カーソルボタン（ ︿ , ﹀ ）で設定するレベルを選択し、ENTERボタンを押します。

◎ **レベル0**
すべてのDVDの再生を禁止したいときに選びます。
例えば、視聴制限が記録されていない成人向けDVDの再生を禁止したいときなど。

◎ **レベル1**
子供向けのDVDのみを再生したいときに選びます。
（成人向けと一般向けのDVDの再生を禁止します。）

◎ **レベル2〜レベル8**
一般向けと子供向けのDVDのみを再生したいときに選びます。（成人向けDVDの再生を禁止します。）

◎ **制限しない ＜工場出荷時＞**
すべてのDVD（成人向け/一般向け/子供向け）を再生したいときに選びます。

② 番号ボタンでパスワード（4桁の数字）を入力し、ENTERボタンを押します。
（番号ボタンはリモコンモードがDVDモードでなければ入力できません。）

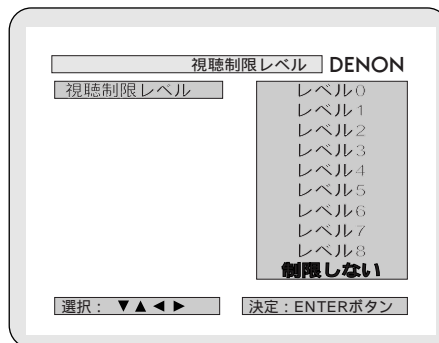
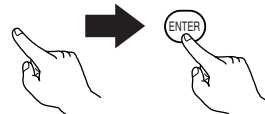
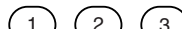
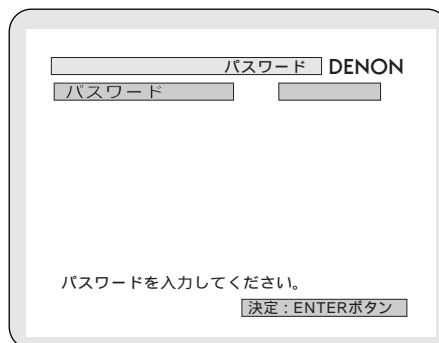
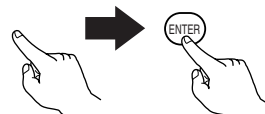
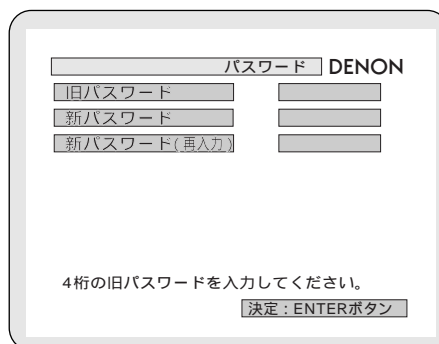
- パスワードの初期設定は " 0000 " です。
- パスワードを変更する場合は、『パスワード変更』で新しいパスワードに変更できます。（下記参照）

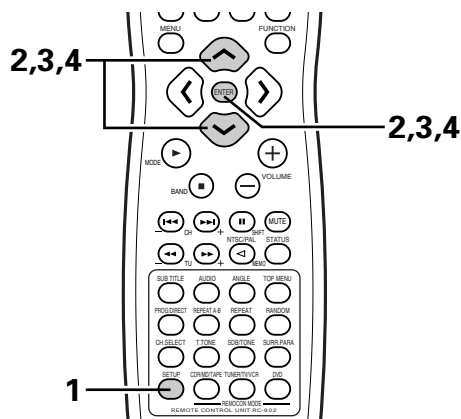
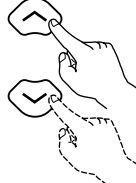
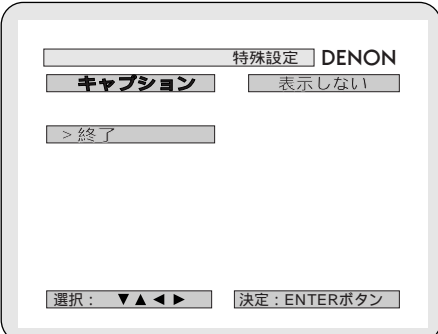
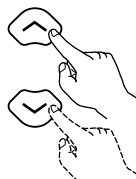
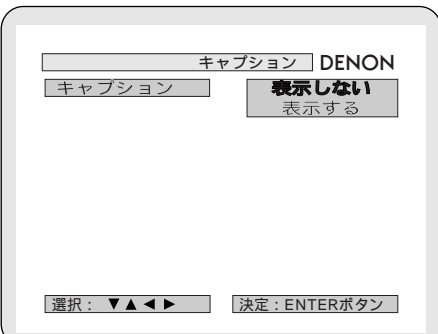
※ 正しいパスワードを入力しないと視聴制限レベルは変更されません。パスワードを間違って、ENTERボタンを押した場合①の画面に戻ります。再度ENTERボタンで②の画面になりますので、正しいパスワードを入力してください。

※ パスワードを忘れてしまった場合、視聴制限レベルの変更をやめる場合はそのままENTERボタンを数回押してメニューを終了するか、SETUPボタンを押してセットアップを中止してください。

■『パスワード変更』を選んだとき

番号ボタンで前に設定したパスワード（4桁の数字）を入力し、次に新しいパスワードを入力して、再度新しいパスワードを入力後ENTERボタンを押します。
（番号ボタンはリモコンモードがDVDモードでなければ入力できません。）

- 本機のパスワードの初期設定は " 0000 " です。
- **パスワードは忘れないようにしてください。**
- 正しいパスワードを入力しない限り設定内容を変更できません。

DVD設定変更のしかた（つづき）

(6)『特殊設定』を選んだとき

ご注意

- クローズド・キャプション（字幕）信号入りのDVDには▭、▭、CCのマークが表示されています。クローズド・キャプション（字幕）信号が入っていないDVDでは字幕は出ません。
- 字幕の文字には大文字、小文字、イタリック文字（斜体）などがありDVDによって異なります。本機では選べません。
- 字幕を表示させるには、市販のキャプションデコーダが必要です。

1
2
DVD設定画面以外からおこなう場合、47ページ操作*1*、*2*をお読みください。

3
カーソルボタン（︿,﹀）で『特殊設定』を選択し、ENTERボタンを押します。

キャプション
DVDに記録されているクローズド・キャプション（字幕）を画面に表示させるか、させないかの設定ができます。（字幕を表示させるにはキャプションデコーダー（市販）が必要です。）

※ **『特殊設定』を終了するときは**
カーソルボタン（︿,﹀）で『終了』を選択しENTERボタンを押します。（DVD設定画面に戻ります。）

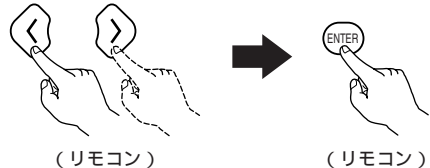
4
カーソルボタン（︿,﹀）で設定する内容を選択し、ENTERボタンを押します。

■『キャプション』を選んだとき

- カーソルボタン（︿,﹀）で設定するキャプション表示を選びます。

◎**表示しない <工場出荷時>**
キャプション（字幕）を画面に表示しないときに選びます。

◎**表示する**
キャプション（字幕）入りDVDを再生し、そのキャプション（字幕）を画面に表示するときに選びます。

※ **『キャプション』を終了するときは**
ENTERボタンを押します。

（7）画質調整のしかた

★ ディスク再生時の画質を調節することができます。

1 入力ファンクションがDVDでディスク再生中にDISPLAYボタンを押してON-SCREEN画面を表示させ、カーソルボタン（∧,∨）で『画質調整』を選び、ENTERボタンを押します。

- 画質調整画面が表示されます。
- 停止中にDISPLAYボタンを押しても画質調整画面が表示されます。

（リモコン）　（リモコン）　（リモコン）

2 カーソルボタン（∧,∨）で項目を選び、ENTERボタンを押します。

◎ **標準**
画質、機能とも工場出荷時の標準設定に戻ります。

◎ **シャープ**
くっきりとしたシャープな画質に設定されます。

◎ **ソフト**
ノイズをおさえたソフトな画質に設定されます。

◎ **メモリー1〜3**
好みで調整した画質設定をメモリー1〜3までの3種類記憶させることができます。（操作***3*** で設定します。）

3

カーソルボタン（∧, ∨）で調整したい項目を選び、ENTERボタンを押します。

- 操作***2*** でメモリー1〜3を選択した場合、選択したメモリーの設定内容が表示されます。
- インターレース映像のとき、コントラスト・ブライトネス・シャープネス・色あいを調節し、メモリーできます。

◎ **コントラスト**（−6〜＋6）
映像の明暗の差を調整します。

◎ **ブライトネス**（0〜＋12）
映像の明るさを調整します。

◎ **シャープネス**（−6〜＋6）
映像の輪郭を強調します。

◎ **色あい**（−6〜＋6）
緑色と赤色のバランスを調整します。
（プログレッシブスキャン出力では効果がありません。）

- プログレッシブ映像（D端子）のとき、シャープネス・ガンマを調節し、メモリーできます。

◎ **シャープネス**（−5〜＋7）
映像の輪郭を強調します。

◎ **ガンマ**（−6〜＋6）
映像の暗い部分が埋もれたり、明るい部分が必要以上に明るすぎたりしたときに選択します。

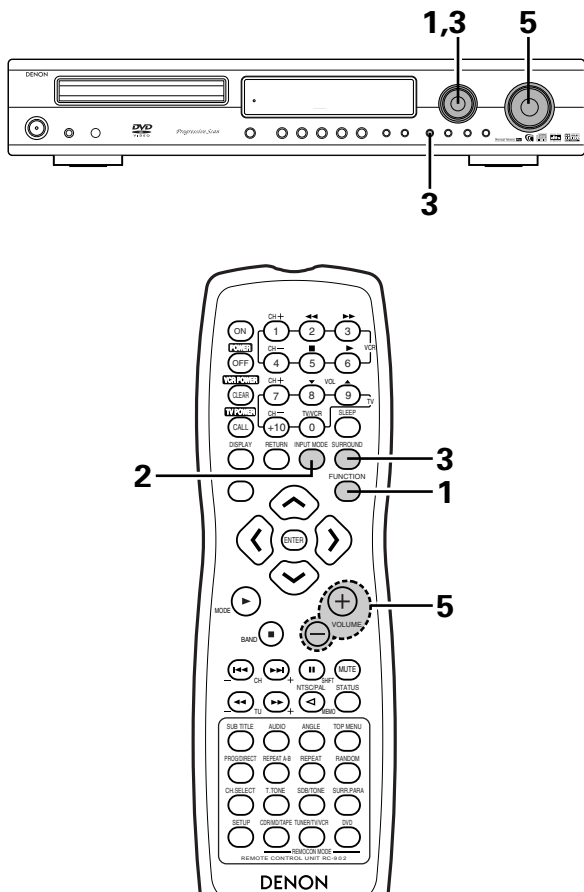
（リモコン）　（リモコン）

3 つづき	●インターレース、プログレッシブとも黒レベルが選択できます。 ◎**黒レベル <工場出荷時：暗い>** 映像の黒レベルの『明るい』『暗い』を選びます。 『明るい』 黒レベルの基準レベルを上げます。 全般的に明るい画面にする場合に設定してください。 『暗い』**<工場出荷時>** 基準となるレベルです。 通常は『暗い』で設定してください。	
4	**カーソルボタン（〈,〉）で調整し、ENTERボタンを押します。** ●操作***3*** で選択した項目が表示され、調節できます。 ●調節した内容がすべて記憶されます。 ※**『画質調整』を終了するときは** DISPLAYボタンを押します。（RETURNボタンで順に戻ることもできます。）	ENTER （リモコン）　（リモコン） コントラスト　2

ご注意

再生するディスクによってはOSDを表示させると画像や音声が乱れる場合がありますが、故障ではありません。

21 サラウンド機能の操作のしかた

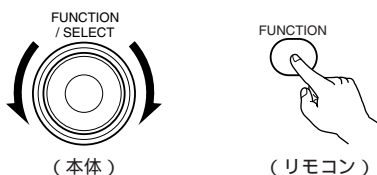
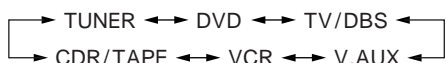
(1) 入力モードの設定

1 本体のFUNCTION/SELECTつまみを回すか、またはリモコンのFUNCTIONボタンを押して再生したい入力ファンクションを選択します。

（本体）

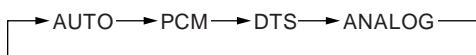
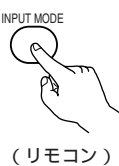
FUNCTION

（リモコン）

● 下記のように切り替わります。
リモコンで操作した場合は → の方向のみ切り替わります。

→ TUNER ←→ DVD ←→ TV/DBS ←
→ CDR/TAPE ←→ VCR ←→ V.AUX ←

2 入力ファンクションにDVD、TV/DBSまたはV.AUXを選んだときは、リモコンのINPUT MODEボタンを押して入力モードを選択します。

（リモコン）

→AUTO→PCM→DTS→ANALOG→

※ 入力ファンクションにDVDを選んだ場合は、『ANALOG』は選択できません。

2 つづき

【入力モード選択機能について】

● DVD、TV/DBS、V.AUXの入力ファンクションについて選択することができます。
● 入力モードは、各入力ファンクションごとに選択ができます。また、選択された入力モードは入力ファンクションごとに記憶されます。
● 上記以外の入力ファンクションでは " ANALOG ONLY " と表示され、選択できません。

AUTO（オートモード）

● 選択された入力ファンクションごとにデジタル入力端子・アナログ入力端子に入力されている信号の種類を検出し、自動的に本機のサラウンドデコーダー内部のプログラムを切り替えて再生するモードです。
● デジタル信号の有無を検出して、入力されている信号を判断し、DTS/ドルビーデジタル/AAC/PCMいずれかの方式で自動的にデコードおよび再生をおこないます。
● デジタル信号が入力されていないTV/DBS、V.AUXの場合は、アナログ入力端子を選択します。
● ドルビーデジタル/AAC信号を再生する場合には、このモードを使用してください。

PCM（PCM信号再生専用モード）

● PCM信号が入力されたときだけデコードおよび再生をおこないます。

DTS（DTS信号再生専用モード）

● DTS信号が入力されたときだけデコードおよび再生をおこないます。

ANALOG（アナログ音声信号再生専用モード）

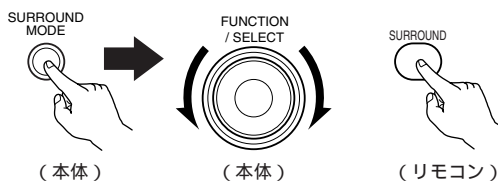
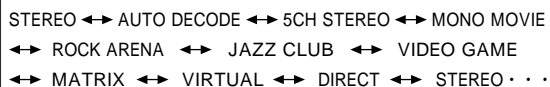
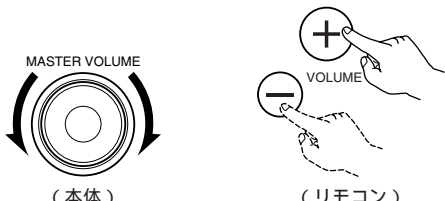
● アナログ入力端子に入力されている信号の再生をおこないます。（DVDでは選択できません。）

※ DVD以外の入力ファンクションからDVDに切り替えた場合、入力モードは自動的に『AUTO』になります。

3 本体のSURROUND MODEボタンを押してFUNCTION/SELECTつまみを回すか、リモコンのSURROUNDボタンを押してサラウンドモードを選択します。

（本体）　（本体）　（リモコン）

● 下記のように切り替わります。
リモコンで操作した場合は → の方向のみ切り替わります。

STEREO ←→ AUTO DECODE ←→ 5CH STEREO ←→ MONO MOVIE ←→ ROCK ARENA ←→ JAZZ CLUB ←→ VIDEO GAME ←→ MATRIX ←→ VIRTUAL ←→ DIRECT ←→ STEREO・・・

● 『AUTO DECODE』モードは本体のAUTO DECORDボタンで、『5CH STEREO』モードは本体の5CH STEREOボタンで選択できます。

4 **選択した機器の再生をはじめます。**

※操作のしかたは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

5 **本体のMASTER VOLUMEつまみを回すか、またはリモコンのVOLUMEボタンを押して音量を調節します。**

音量がディスプレイに表示されます。

（本体）

（リモコン）

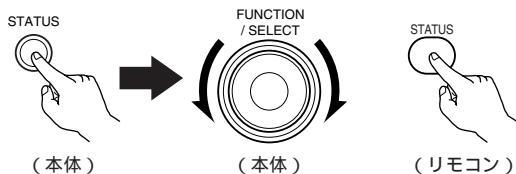
※音量は−60〜0〜18dBの範囲で調節できます。但し、入力信号、サラウンドモード、スピーカー設定およびチャンネルレベルの設定によっては、音量が18dBまで調整できないことがあります。

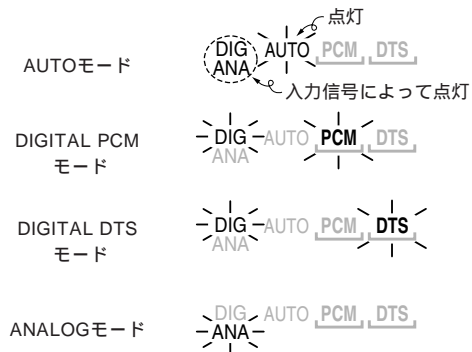
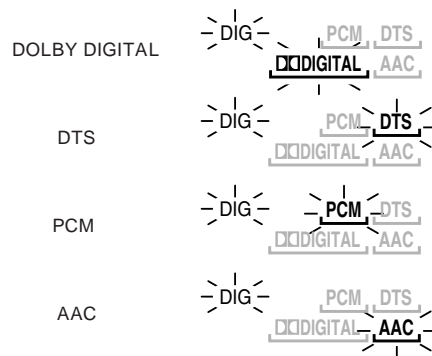
DTSソースの再生をおこなう場合の入力モード

- DTS対応のCDを『PCM』モードで再生すると、DTS再生できないためノイズが出力されます。DTS対応のソースを再生する場合は、必ず入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定してください。
- 『AUTO』モードでDTSを再生した場合、再生の始め、およびサーチ中にノイズを発生する場合があります。このような場合は、『DTS』モードで再生してください。

■ 再生しているプログラムソースなどを確認するには

◎STATUSボタンを押します。

（本体）　（本体）　（リモコン）

※本体で操作する場合はSTATUSボタンを押してからFUNCTION/SELECTつまみを回します。

◎押すたびにディスプレイに現在のプログラムソースやサラウンドの各種設定が確認できます。（ファンクションDVDではTV画面にも表示されます。）

◎**入力モードの表示**

※デジタル信号が正常に入力されると“DIG”が点灯します。点滅している場合は接続が正しいか、または入力機器の電源が入っているかを確認してください。

CDソースの再生をおこなう場合の入力モード

- 『AUTO』モードでライブ録音などのCDを再生した場合、再生の始めの音声が若干途切れる場合があります。このような場合は、『PCM』モードで再生してください。

サラウンド機能の操作のしかた（つづき）

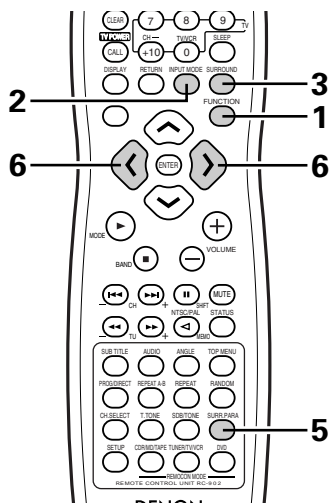
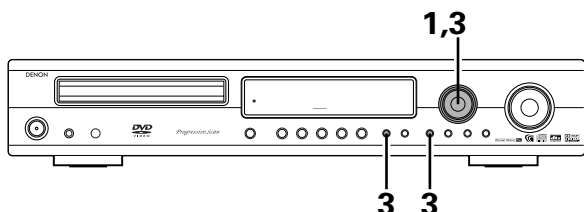
（2）オートデコードモードでの再生のしかた

★ オートデコードモードでは入力された信号フォーマットに応じてドルビーデジタル、DTS、AACサラウンドでの再生ができます。

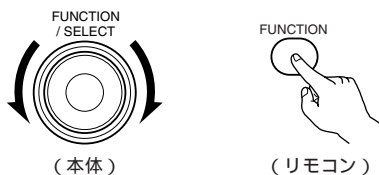
★ また、2chモードの設定（64〜68ページ）に応じてオートステレオ、ドルビープロロジックIIシネマ/ミュージック、ドルビープロロジックでの再生ができます。

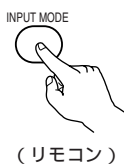
1 ドルビーデジタル、DTS、AACサラウンドの再生（デジタル入力のみ）

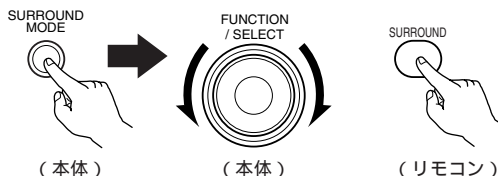
◎**適応ソース**

● デジタル入力（DVD再生ディスクを含むTV/DBS、V.AUXファンクション）
ドルビーデジタルマルチチャンネルソース
DTSソース
AACマルチチャンネルソース

1 **デジタル入力ファンクションを選択します。（DVDまたはTV/DBS、V.AUXのデジタル入力）**

（本体）

（リモコン）

2 **入力モードを『AUTO』に設定します。**

※ DTSソースは入力モード『DTS』でも再生できます。

（リモコン）

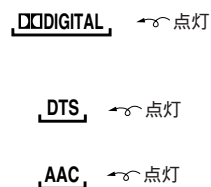
3 **サラウンドモードを『AUTO DECODE』に設定します。**

（本体）　（本体）　（リモコン）

※ AUTO DECORDモード以外のとき、本体のAUTO DECORD/2CH MODEボタンで、AUTO DECORDモードに設定できます。

4 **DOLBY DIGITAL、dts マークが付いたプログラムソースまたはAACのプログラムソースを再生します。**

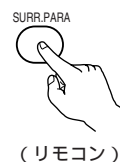
● ドルビーデジタルソース再生中は、ドルビーデジタル表示が点灯します。　DIGITAL ←点灯

● DTSソース再生中は、DTS表示が点灯します。　DTS ←点灯

● AACソース再生中は、AAC表示が点灯します。　AAC ←点灯

※ 再生ソースのフォーマットに応じて自動的に切り替わります。

5 **ソースに合わせてサラウンドパラメーターを表示させます。**

※ DVDファンクションでは画面にも表示されます。

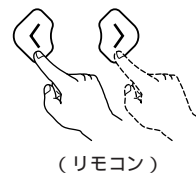
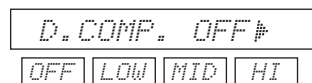
（リモコン）

6 **各種サラウンドパラメーターを選択し、設定します。**

※ パラメーター表示中に4秒間操作しないと、定常表示に戻ります。

（リモコン）

◎**D. COMP.の設定**

D.COMP. OFF

OFF　LOW　MID　HI
←　→

※ **DTS/AAC再生時には、このパラメーターは表示されません。**

6 つづき

◎**LFEレベルの設定**

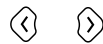
LFE ◀ 0dB

-10 … -5 … 0

← →

※LFEレベルは－10dB～0dBの範囲で1dB単位で調節できます。

◎**DEFAULTの設定**

DEFAULT ◀Y/N▶

YES NO

← →

※『YES』を選択すると工場出荷時の初期設定に戻ります。

※サラウンドパラメーターの設定が終了したら、ボタン操作を止めてください。数秒間経つと表示が通常状態に戻り、設定した内容は自動的に確定されます。

ご注意

- 『DEFAULT』を選択してカーソルボタン（〈）を押す（『YES』を選択）と、自動的に『D.COMP.』が『OFF』に、『LFE』が初期値に設定されます。（DTS/AACソースは『D.COMP.』は無効です。）
- ドルビーデジタルでエンコードされた信号は、オートデコード（ドルビーデジタル、ドルビープロロジックⅡまたはオートステレオ）、ステレオ、ダイレクト、バーチャルモードのみ再生できます。その他のモードは、ドルビーデジタル信号を再生中においては動作しません。
- DTS信号はオートデコード（DTS）、ステレオ、ダイレクトモードでのみ再生できます。その他のモードはDTS信号を再生中においては動作しません。
- DTS信号の再生は入力モード『DTS』でも再生できます。（60ページ参照）この場合はDTS信号が入力されたときだけデコード、再生をおこないます。
- AAC信号はオートデコード（MPEG2 AAC、ドルビープロロジックⅡまたはオートステレオ）、ステレオ、ダイレクトモードのみ再生できます。その他のモードはAAC信号再生中においては動作しません。

サラウンドパラメーターについて①

D.COMP.
（ダイナミックレンジコンプレッション）

- ドルビーデジタル音声のダイナミックレンジを調整するパラメーターです。深夜など、比較的小さな音量で再生する場合に『HI』側にすると音のピークを抑え、また小さな音を増幅することにより、ダイナミックレンジが狭くなり、聞き易くなります。『OFF』の場合は、機能オフとなります。

『OFF』◀▶『LOW』◀▶『MID』◀▶『HI』

ダイナミックレンジ　大 ◀――――▶ 小

LFE（ローフリクエンシーエフェクト）

プログラムソースと可変範囲

1．ドルビーデジタル　－10dB～0dB
2．DTSサラウンド　－10dB～0dB
3．MPEG2 AAC　－10dB～0dB

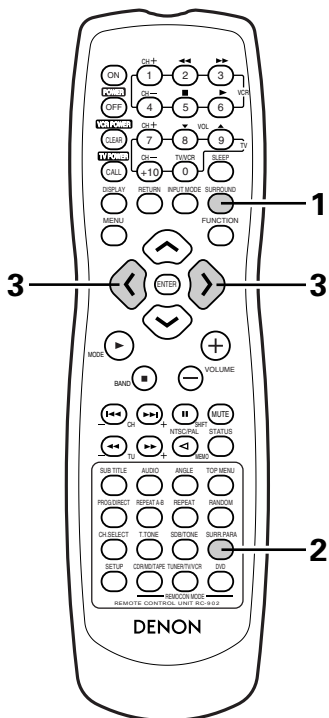
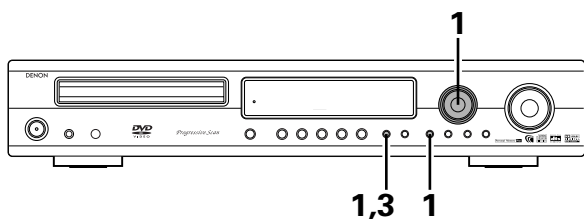
- ドルビーデジタルで録音されたソフトを再生する場合は、正しいドルビーデジタル再生のためにLFEレベルを0dBに設定するようお勧めします。
- DTSで録音された映画ソフトを再生する場合は、正しいDTS再生のためにLFEレベルを0dBに設定するようお勧めします。
- DTSで録音された音楽ソフトを再生する場合は、正しいDTS再生のためにLFEレベルを－10dBに設定するようお勧めします。

二重音声の情報があるAACソースを再生する場合

音声出力内容を設定することができます。
設定のしかたはセットアップの『システム設定変更』-『二重音声設定』を参照してください。

2 2チャンネルモードの設定

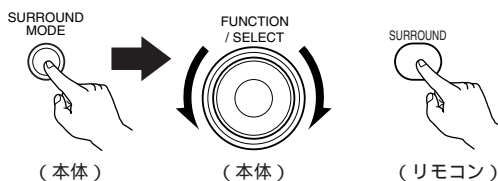
★ オートデコードモードでは入力された信号に応じ、自動的にドルビーデジタル、DTS、AACサラウンドモードでのマルチチャンネル再生と、ステレオ2ch再生（AUTO STEREOモード：工場出荷時設定）ができます。入力信号が2chの場合には、2チャンネルモードの設定により4つの再生モード（オートステレオ、ドルビープロロジックⅡシネマ、ドルビープロロジックⅡミュージック、ドルビープロロジック）から1つを選択して設定できます。

※ **VCR、CDR/TAPE、TUNERのいずれかのファンクションを選択しているときは、2チャンネルモードの『オートステレオ』は選択できなくなりますので、ステレオ再生をおこなう場合はサラウンドモードで『STEREO』を設定（60ページ）してください。**

ご注意

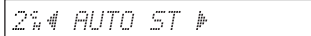
- ドルビーデジタル、AACの5.1ch信号やDTS信号が入力されているときは、2chモードの設定はできません。
- 2chモードはDVD、TV/DBS、V.AUXそれぞれのファンクションごとに設定し記憶されます。

1 **サラウンドモードを『AUTO DECODE』にします。**

- “ AUTO DECODE ” を表示した後、通常の表示に切り替わります。

（本体）　（本体）　（リモコン）

※ AUTO DECORDモード以外のとき、本体のAUTO DECORD/2CH MODEボタンで、AUTO DECORDモードに設定できます。

2 **リモコンのSURR.PARAボタンを押して、2chモードを選択します。**

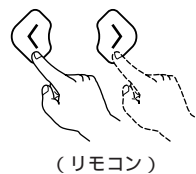
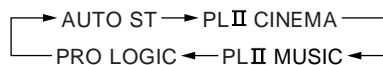
2ch AUTO ST

（リモコン）

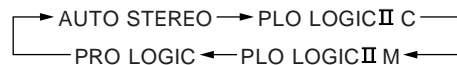
※ デジタル入力が無信号、またはPCM信号、ドルビーデジタル、AACの2ch信号のときやアナログ入力を選択したときに選択できます。

3 **リモコンのカーソルボタン（〈 , 〉）で希望する2chモードを選択します。**

- ボタンを押すたびに、下記のように切り替わります。

（リモコン）

AUTO ST → PLⅡ CINEMA → PLⅡ MUSIC → PRO LOGIC → AUTO ST

※ AUTO DECORDモードで本体のAUTO DECORD/2CH MODEボタンを押すと、2CHモードの切り替えができます。押すたびに次のよううの切り替わります。

AUTO STEREO → PLO LOGICⅡ C → PLO LOGICⅡ M → PRO LOGIC → AUTO STEREO

※ オートステレオはDVD、TV/DBS、V.AUXファンクションで選択できます。

※ サラウンドパラメーターの設定が終了したら、ボタン操作を止めてください。数秒間経つと表示が通常状態に戻り、設定した内容は自動的に確定されます。

サラウンドパラメーターについて②（2チャンネルモード）

1．AUTO-ST（オートステレオモード）

2chソースをステレオ2chで再生します。
オートデコードモードでこのモードを選択すると、DVDやBSデジタルなどのマルチチャンネルソースはマルチチャンネルのまま再生し、CDなどの2chソースは自動的にステレオで再生します。

2．PLⅡ CINEMA / PLⅡ MUSIC / PRO LOGIC

2chソースに対してもドルビープロロジックⅡ処理により、マルチチャンネルで再生します。
オートデコードモードでこのモードを選択すると、DVDやBSデジタルなどのマルチチャンネルソースはマルチチャンネルのまま再生し、CDなどの2chソースに対しても自動的にドルビープロロジックⅡ処理され、マルチチャンネル再生します。

●PLⅡ CINEMA（ドルビープロロジックⅡ シネマモード）

ドルビーサラウンド録音された映画ソースをはじめ、一般的なステレオ録音ソースの再生に適したモードです。高精度デコーダーによる5チャンネルデコードをおこない、2チャンネルソースでも360度均一なサラウンド音場を実現します。
主にステレオ音楽成分を多く含むソースの場合、MUSICモードの方がより効果的な場合もあります。試聴結果によって、効果的なモードを選択してください。

●PLⅡ MUSIC（ドルビープロロジックⅡ ミュージックモード）

ステレオ音楽信号のサラウンド再生に適したモードです。音楽信号の残響成分に多く含まれる逆相信号の再生をサラウンドチャンネルでおこない、同時にサラウンドチャンネルの周波数特性をサラウンド音に最適化させることにより、自然な、且つ広がり感のある音楽再生をおこないます。
音楽信号は、そのジャンル、状態（ライブ音楽等）など信号ソースの内容により音場の広がり方が異なります。そのためMUSICモードには、更に音場の調整を可能とする、各種のオプションパラメーターがあります。

・PANORAMA（パノラマ）

フロントステレオの音場イメージを、サラウンドチャンネルまで拡大します。
ノーマル状態でステレオイメージが狭く、サラウンド効果が薄いと感じられる場合に効果的です。

・DIMENSION（ディメンション）

音場イメージの中心をフロント、またはサラウンド側にシフトします。
ソースの残響成分の大きさに拠らず、各チャンネルの再生バランスを調整することが可能です。音場イメージがフロント側、サラウンド側のいずれかに偏った場合に、それらを補正することができます。

・CENTER WIDTH（センター ウィズス）

センターの信号成分の再生方法を、センターチャンネルのみの再生からフロントチャンネルのみの再生の間で調整します。
セパレーションを重視したセンターチャンネル再生をおこなった場合、フロントチャンネルの音場について定位が明確化する反面、全体の音場イメージがセンターに集中したり、各チャンネル間の繋がりが希薄に感じられることがあります。このパラメーターを調整することにより、音場イメージの安定感を増加させ、自然な左右の広がりを得ることができます。

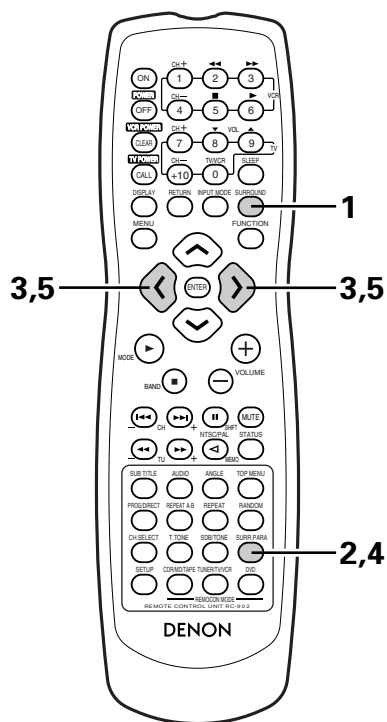
●PRO LOGIC（ドルビープロロジックモード）

従来のドルビープロロジック再生互換モードです。ドルビーサラウンド録音ソースに対して、録音時の再生イメージに忠実なデコードをおこないます。

サラウンド機能の操作のしかた（つづき）

3 PLⅡ CINEMA / PLⅡ MUSIC /PRO LOGIC各モードのパラメーターの設定

★ 2chモードでPLⅡ CINEMA、PLⅡ MUSIC、PRO LOGICを選択した場合、それぞれのモードでさらに詳細なパラメーターを設定することができます。
PLⅡ MUSICモード：下記の手順で設定します。
PLⅡ CINEMA / PRO LOGICモード：62、63ページの操作***6***を参照してください。

★ DOLBY SURROUND マークの付いたプログラムソースや、CDなどの2chソースをドルビープロロジックⅡ処理によりデコードしマルチチャンネル再生します。
① シネマ（PLⅡ CINEMA）モード：映画などのドルビーサラウンドプログラムに適したモードです。
② ミュージック（PLⅡ MUSIC）モード：ステレオ音楽プログラムに適したモードです。
③ プロロジック（PRO LOGIC）互換モード：従来のドルビーサラウンドプロロジックモードです。

1 **2chモード（64ページ）の設定でPLⅡ C、PLⅡ M、PRO LOGICのいずれかを選択します。**

（リモコン）

2 **選択したモードに応じて、サラウンドパラメーターを設定します。**
- ボタンを押すたびに、下記のように切り替わります。

SURR.PARA

（リモコン）

PLⅡ CINEMA → DEFAULT
PLⅡ MUSIC → PANORAMA → DIMENSION → CNTR WIDTH → DEFAULT
PRO LOGIC → DEFAULT

3 **各種サラウンドパラメーターを設定します。**

◎ **PANORAMAの設定**

PANORA ON⇅OFF

ON ← → OFF

※選択されている方が点滅します。

◎ **DIMENSIONの設定**

DIMENSION◀3▶

0 … 3 … 6

◎ **CENTER WIDTHの設定**

CENTER WIDTH 0▶

0 … 4 … 7

◎ **DEFAULTの設定**

DEFAULT ◀Y/N▶

YES ◀Y/N▶ No

※『YES』を選択すると工場出荷時の初期設定に戻ります。

※サラウンドパラメーターの設定が終了したら、ボタン操作を止めてください。数秒間経つと表示が通常状態に戻り、設定した内容は自動的に確定されます。
※以上でパラメーターの設定は完了します。

ご注意

- 2chモードの設定はファンクションごとに設定し、記憶されます。
- DTSデジタル入力ソースはドルビーモードでの再生はできません。

4 ドルビープロロジックⅡの再生（全ファンクション）

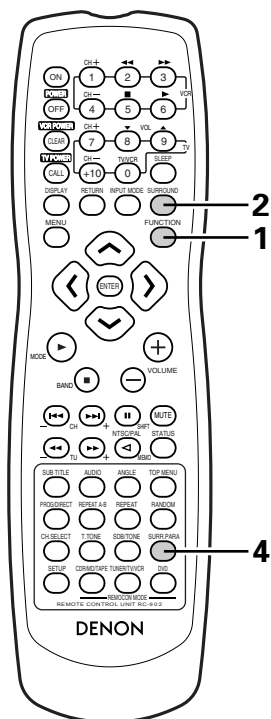
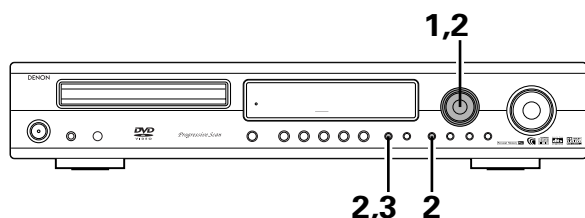
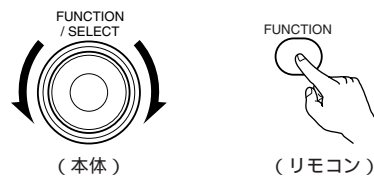
★2chモード、PLⅡ CINEMA、PLⅡ MUSIC、PRO LOGICモードパラメーターの設定に従って再生します。

◎**適応ソース**

- デジタル入力（DVD再生ディスクを含むTV/DBS、V.AUXファンクション）
  - ドルビーデジタル2chソース
  - AAC2chソース
  - PCM2chソース（96kHz PCMを除く）
- アナログ入力2chソース（全ファンクション）

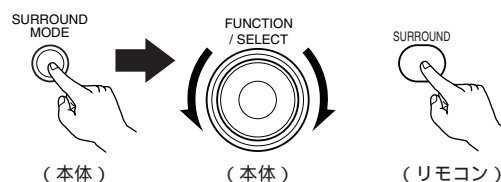
1 **入力ファンクションを選択します。**

（本体）

（リモコン）

※デジタル入力ファンクション（DVD、TV/DBS、V.AUX）の入力モード『DTS』ではドルビープロロジックⅡの再生はできません。

2 **サラウンドモードを『AUTO DECODE』に設定します。**

（本体）　（本体）

（リモコン）

※AUTO DECORDモード以外のとき、本体のAUTO DECORD/2CH MODEボタンで、AUTO DECORDモードに設定できます。

3 **DOLBY SURROUND マークが付いたプログラムソースまたは2chソースを再生します。**

- ドルビープロロジックⅡモードの設定に応じて再生します。
- シネマ（CINEMA）、ミュージック（MUSIC）モードではドルビープロロジックⅡ表示が点灯します。

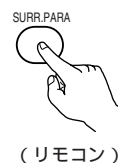
PRO LOGIC Ⅱ ←点灯

- ドルビープロロジックモードではドルビープロロジック表示が点灯します。

PRO LOGIC ←点灯

※再生中にサラウンドパラメーターの2CHモードまたは本体のAUTO DECORD/2CH MODEボタンでモードの変更ができます。

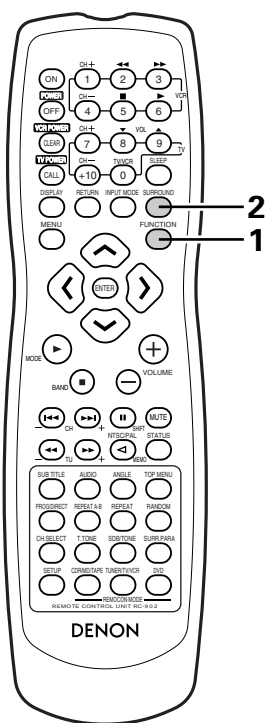
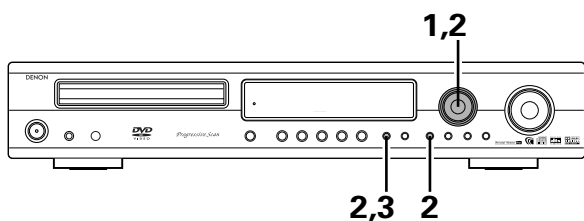
4 **選択したモードに応じて、サラウンドパラメーターを設定します。**

（リモコン）

※『PLⅡ CINEMA / PLⅡ MUSIC / PRO LOGIC各モードのパラメーター設定』（66ページ）の操作***1***～***3***を参照してください。

5 オートステレオモードの再生（DVD,TV/DBS,V.AUXファンクションのみ）

★ DVD、TV/DBS、V.AUXファンクションでは2chモードの設定がオートステレオモードのとき、2chソースを2chステレオで再生します。

◎適応ソース

- デジタル入力（DVD再生ディスクを含むTV/DBS、V.AUXファンクション）
  ドルビーデジタル2chソース
  AAC2chソース
  PCM2chソース（96kHz PCMを含む）
- アナログ入力2chソース（TV/DBS、V.AUXファンクション）

1 **入力ファンクションを選択します。（DVDまたはTV/DBS、V.AUX）**

2 **サラウンドモードを『AUTO DECODE』に設定します。**

※AUTO DECORDモード以外のとき、本体のAUTO DECORD/2CH MODEボタンで、AUTO DECORDモードに設定できます。

3 **2chソースを再生します。**

- オートステレオ表示が点灯します。

AUTO ST ← 点灯

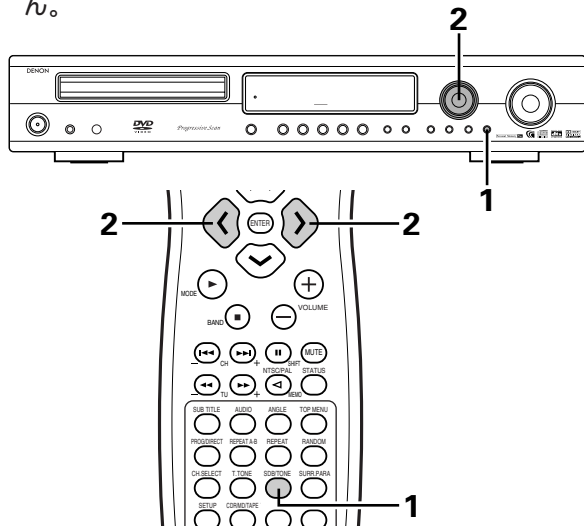
※再生中にサラウンドパラメーターの2CHモードまたは本体のAUTO DECORD/2CH MODEボタンでドルビープロロジックⅡモードへの変更ができます。

ご注意

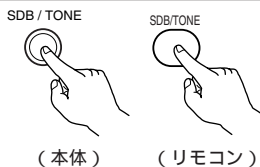
DTSの2chソースはオートステレオモードで再生せず、DTSモードのまま2ch再生します。

6 その他の操作のしかた

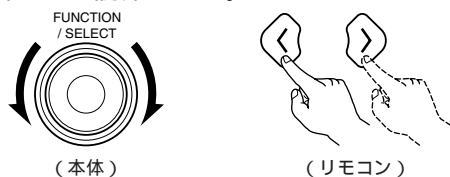
❶ 音質を調節するには

★ SDB/トーンはダイレクトモードでは動作しません。

1 **SDB/TONEボタンを押します。**

（本体）　（リモコン）

● ボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

→ SDB (ON/OFF) → BASS → TREBLE → DEFEAT

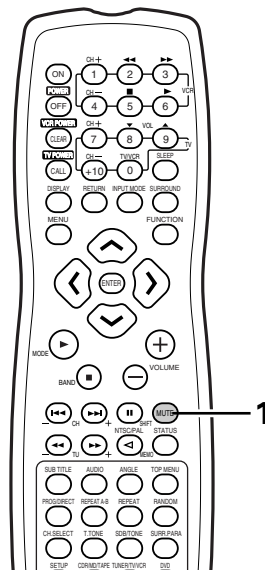
2 **調整したい項目を表示させた状態で、お好みに合わせて調節します。**

（本体）　（リモコン）

◎**DEFEAT表示のとき**
SDB、トーンともOFFになります。信号が音質調整回路（SDB,BASS,TREBLE）を通らないため、より高音質でお楽しみいただけます。

◎**SDB表示のとき**
SDB（スーパーダイナミックバス）をONにすると、迫力ある重低音が楽しめます。
FUNCTION/SELECTつまみを回すか、またはカーソルボタン（〈,〉）を押しONまたはOFFの設定をおこないます。

◎**BASSまたはTREBLE表示のとき**
トーンコントロールがONになります。BASS（低音）、TREBLE（高音）の調整ができます。
- 強くするとき：
  FUNCTION/SELECTつまみを右に回すか、またはカーソルボタン（〉）を押します。
  （＋10dBまで2dBステップで調整可能です。）
- 弱くするとき：
  FUNCTION/SELECTつまみを左に回すか、またはカーソルボタン（〈）を押します。
  （－10dBまで2dBステップで調整可能です。）

※各表示で約4秒間操作しないとディスプレイ表示は元の表示に戻ります。

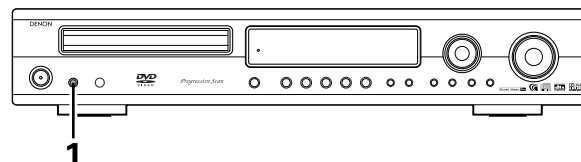
❷ 一時的に音を消すには（ミューティング）

1 **MUTEボタンを押します。**

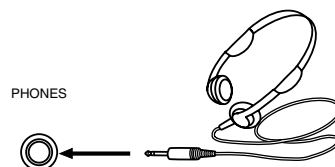
※ 解除するときは、もう一度MUTEボタンを押してください。

（リモコン）

ご注意

本機の電源をOFFにすると設定が解除されます。

❸ ヘッドホンで音を聴くには

1 **ヘッドホンジャックにヘッドホン（別売り）を差し込みます。**

● ヘッドホンプラグを差し込むと自動的にスピーカー出力がOFFとなり、スピーカーより音は出ません。

22 DENONオリジナルサラウンドについて

(1) 各サラウンドモードとその特長

★ 本機はデジタル信号処理により、音場を疑似的に再現する高性能なDSP（デジタル・シグナル・プロセッサー）を内蔵しています。再生するソースに合わせて7通り用意されたDENONオリジナルサラウンドモード（DSPサラウンドシミュレーション）を選択して、リスニングルームの状態によりパラメーターを調節することで、よりリアルでパワフルな音場を再現することができます。なお、各サラウンドモードはドルビーサラウンドプロロジックまたはドルビーデジタル録音されていないソースでもその効果をお楽しみいただけます。

1	5CH STEREO（チャンネルステレオ）	サラウンド信号のLchにはフロントLchの信号、サラウンド信号のRchにはフロントRchの信号を出力し、センターchにはLchとRchの同相成分を出力します。ステレオサウンドを楽しむためのモードです。
2	MONO MOVIE（モノムービー）（注1）	モノラル録音の映画ソースを広がりのある音場の雰囲気で楽しみたいときに選択します。
3	ROCK ARENA（ロックアリーナ）	反射音が回り込んでくるアリーナでのライブコンサートの雰囲気で楽しみたいときに使用します。
4	JAZZ CLUB（ジャズクラブ）	天井が低く、固い壁に囲まれたライブハウスのような場所で、アーティストがすぐ近くで演奏するような雰囲気で楽しみたいときに選択します。
5	VIDEO GAME（ビデオゲーム）	ビデオゲームソースで楽しみたいときに使用します。
6	MATRIX（マトリクス）	ステレオ録音された音楽ソースを、広がり感を強調して楽しみたいときに選択します。サラウンドCHからは、入力された信号の差の成分（広がり感の成分）に遅延処理を加えた信号が出力されます。
7	VIRTUAL（バーチャル）	フロント2chだけのスピーカーを使用して、立体感のあるサラウンド再生を楽しみたいときに選択します。

※再生するソースによっては、十分な効果が得られないことがあります。
この場合には、サラウンドモードの名称にこだわらずに各モードを試して、お好みの音場を創り出してください。

（注1）：モノラル録音ソースを再生する場合、LまたはRの片チャンネル入力では音が片寄るため、両チャンネルに入力してください。

ご注意

- サンプリング周波数が96kHzのPCM信号再生時は『AUTO DECODE』の『AUTO STEREO』と『DIRECT』と『STEREO』モードでお楽しみいただけます。
  他のサラウンドモードで再生中にこの信号が入力されると、サラウンドモードは自動的に『AUTO DECODE』モードに切り替わります。
- バーチャルサラウンドモードで再生中にDTS信号が入力されると、サラウンドモードは自動的に『STEREO』モードに切り替わります。

パーソナルメモリープラスについて

本機には、入力ファンクションごとに選択されたサラウンドモードなどが自動的に記憶される『パーソナルメモリープラス』という機能を搭載しています。入力ファンクションを切り替えるたびに、前回使用されたときの記憶が自動的に呼び出されます。

◎パーソナルメモリープラス機能で各入力ファンクションごとに自動的に記憶される内容

①サラウンドモード
（2chモード設定も含む）

②入力モード選択機能

※サラウンドパラメーターおよびSDB/トーンコントロールの設定、各出力チャンネルの再生レベルは、サラウンドモードごとに記憶します。

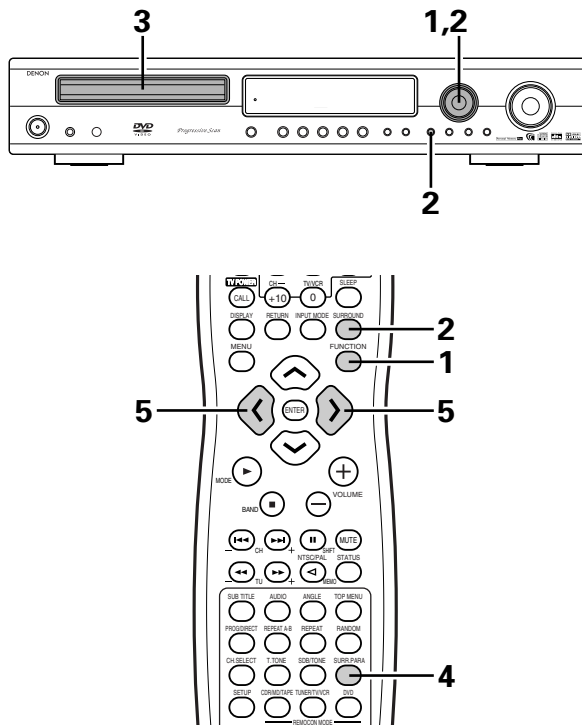
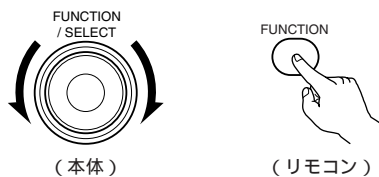
DENONオリジナルサラウンドについて（つづき）

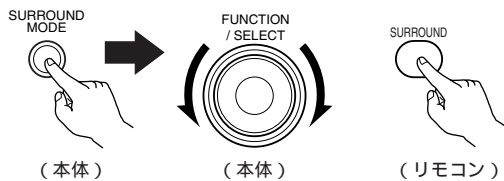
(2) DSPサラウンドシミュレーション再生のしかた

1 **入力ファンクションを選択します。**

FUNCTION / SELECT

（本体）

FUNCTION

（リモコン）

2 **入力ファンクションに合わせて、サラウンドモードを選択します。**

● 下記のように切り替わります。
リモコンで操作した場合は → の方向のみ切り替わります。

STEREO ↔ AUTO DECODE ↔ 5CH STEREO ↔ MONO MOVIE ↔ ROCK ARENA ↔ JAZZ CLUB ↔ VIDEO GAME ↔ MATRIX ↔ VIRTUAL ↔ DIRECT ↔ STEREO・・・

※ AUTO DECODEと5CH STEREOのモードは、本体のボタンで直接切り替えることができます。

3 **プログラムソースを再生します。**

● 操作のしかたは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

4 **選択したサラウンドモードに応じて、サラウンドパラメーターを設定します。**

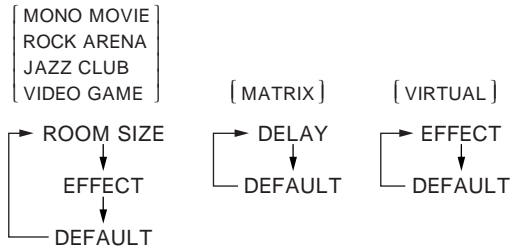
SURR.PARA

（リモコン）

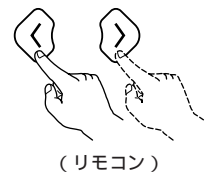
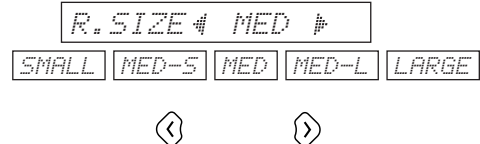
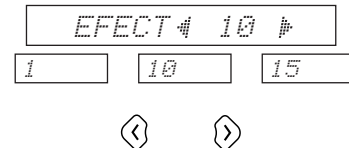
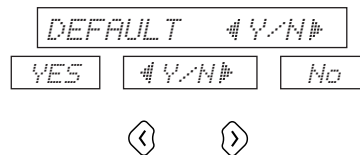
● ボタンを押すたびに、下記のように切り替わります。

［MONO MOVIE / ROCK ARENA / JAZZ CLUB / VIDEO GAME］
ROOM SIZE → EFFECT → DEFAULT

［MATRIX］
DELAY → DEFAULT

［VIRTUAL］
EFFECT → DEFAULT

※ 5CH STEREOモードにはありません。
※ AUTO DECODEモードのパラメーターは72ページを参照してください。

5 **各種サラウンドパラメーターを設定します。**

● リモコンのカーソルボタン（∧, ∨）でサラウンドパラメーターの選択ができます。

（リモコン）

● **ROOM SIZEの設定**

R.SIZE ◀ MED ▶

SMALL | MED-S | MED | MED-L | LARGE

← →

● **EFECT LEVELの設定**

EFECT ◀ 10 ▶

1 | 10 | 15

← →

● **DELAY TIMEの設定**

DELAY ◀ 30ms ▶

0ms | 30ms | 110ms

← →

● **DEFAULTの設定**

DEFAULT ◀ Y/N ▶

YES | ◀ Y/N ▶ | No

← →

※『YES』を選択すると工場出荷時の初期設定に戻ります。

※ サラウンドパラメーターの設定が終了したら、ボタン操作を止めてください。数秒間経つと表示が通常状態に戻り、設定した内容は自動的に確定されます。

DENONオリジナルサラウンドについて（つづき）

ご注意

PCMデジタル信号またはアナログ信号を5CH STEREO、ROCK ARENA、JAZZ CLUB、VIDEO GAME、MONO MOVIE、MATRIXのサラウンドモードを再生中に入力信号がドルビーデジタルでエンコードされたデジタル信号に切り替わった場合には、自動的にAUTO DECODEモードになりドルビーサラウンドに切り替わります。
また、入力信号がDTS信号に切り替わった場合には、自動的にAUTO DECODEモードになりDTSサラウンドに切り替わります。

サラウンドパラメーターについて③

ROOM SIZE（ルームサイズ）

- 音場の大きさを設定します。
“小（SMALL）”、“中-小（MED-S）”、“中（MED）”、“中-大（MED-L）”、“大（LARGE）”の5つのパラメーターがあります。“小（SMALL）”では小さな音場空間、“大（LARGE）”では大きな音場空間を再現します。

EFFECT LEVEL（エフェクトレベル）

- サラウンドの効果の大きさを設定します。
“1”～“15”の15段階で設定できます。

DELAY TIME（ディレイタイム）

- マトリクスモードに限り“0ms”～“110ms”の範囲でサラウンドチャンネルのディレイタイムを設定できます。

【サラウンドモードパラメーター 一覧表】

モード		各モードにおける信号の有無と制御の可否												
		チャンネル出力				入力ファンクション再生信号とサラウンドモード								
						TV/DBS V.AUX DVD							TV/DBS V.AUX	VCR CDR/TAPE TUNER
		フロント L/R	センター	サラウンド L/R	サブ ウーハー	ドルビーデジタル信号再生時		DTS信号再生時		AAC信号再生時		PCM信号再生時	アナログ信号再生時	アナログ信号再生時
						2ch	ﾏﾙﾁch	2ch	ﾏﾙﾁch	2ch	ﾏﾙﾁch	2ch	2ch	2ch
STEREO		○	×	×	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○
AUTO DECODE	DOLBY DIGITAL	○	◎	◎	◎	×	○	×	×	×	×	×	×	×
AUTO DECODE	DTS SURROUND	○	◎	◎	◎	×	×	○	○	×	×	×	×	×
AUTO DECODE	MPEG2-AAC	○	◎	◎	◎	×	×	×	×	×	○	×	×	×
AUTO DECODE	DOLBY PLⅡ	○	◎	◎	◎	●	×	×	×	●	×	●	●	○
AUTO DECODE	AUTO STEREO	○	×	×	◎	●	×	×	×	●	×	●	●	×
5CH STEREO		○	◎	◎	◎	×	×	×	×	×	×	○	○	○
MONO MOVIE		○	◎	◎	◎	×	×	×	×	×	×	○	○	○
ROCK ARENA		○	◎	◎	◎	×	×	×	×	×	×	○	○	○
JAZZ CLUB		○	◎	◎	◎	×	×	×	×	×	×	○	○	○
VIDEO GAME		○	◎	◎	◎	×	×	×	×	×	×	○	○	○
MATRIX		○	◎	◎	◎	×	×	×	×	×	×	○	○	○
VIRTUAL		○	×	×	◎	○	○	×	×	×	×	○	○	○
DIRECT		○	×	×	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○：信号あり。または制御可能。　◎：スピーカーコンフィグレーションの設定により、あり/なし可能。
×：信号なし。または制御不可能。　●：2チャンネルモード設定により、選択可能。（初期設定はAUTO STEREOモード）

モード		各モードにおけるパラメーターと制御の可否												
		SDB	トーンコントロール	サラウンドパラメーター（　）内は初期設定値										
				2ch モード	プロロジックⅡ『MODE MUSIC』のみ			ルーム サイズ	エフェクト レベル	ディレイ タイム	ドルビーデジタル信号		DTS信号	AAC信号
					パノラマ	ディメンション	センターウィズス				D. COMP.	LFE	LFE	LFE
STEREO		○(OFF)	○(OFF)	×	×	×	×	×	×	×	○(OFF)	○(0dB)	○(0dB)	○(0dB)
AUTO DECODE	DOLBY DIGITAL	○(OFF)	○(OFF)	○*1 (AUTO STEREO)	×	×	×	×	×	×	○(OFF)	○(0dB)	×	×
AUTO DECODE	DTS SURROUND	○(OFF)	○(OFF)		×	×	×	×	×	×	×	×	○(0dB)	×
AUTO DECODE	MPEG2-AAC	○(OFF)	○(OFF)		×	×	×	×	×	×	×	×	×	○(0dB)
AUTO DECODE	DOLBY PLⅡ	○(OFF)	○(OFF)		○(OFF)	○(3)	○(3)	×	×	×	○(OFF)	○(0dB)	×	○(0dB)
AUTO DECODE	AUTO STEREO	○(OFF)	○(OFF)	×	×	×	×	×	×	×	○(OFF)	○(0dB)	×	○(0dB)
5CH STEREO		○(OFF)	○(OFF)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
MONO MOVIE		○(OFF)	○(OFF)	×	×	×	×	○(Medium)	○(10)	×	×	×	×	×
ROCK ARENA		○(OFF)	○(OFF)	×	×	×	×	○(Medium)	○(10)	×	×	×	×	×
JAZZ CLUB		○(OFF)	○(OFF)	×	×	×	×	○(Medium)	○(10)	×	×	×	×	×
VIDEO GAME		○(OFF)	○(OFF)	×	×	×	×	○(Medium)	○(10)	×	×	×	×	×
MATRIX		○(OFF)	○(OFF)	×	×	×	×	×	×	○(30msec)	×	×	×	×
VIRTUAL		○(OFF)	○(OFF)	×	×	×	×	×	○(10)	×	○(OFF)	○(0dB)	×	×
DIRECT		×	×	×	×	×	×	×	×	×	○(OFF)	○(0dB)	○(0dB)	○(0dB)

○：信号あり。または制御可能。
×：信号なし。または制御不可能。

*1：AUTO STEREOモードとDOLBY PLⅡモードを選択可能。
*2：CINEMAモード、MUSICモード、DOLBY PLモードを選択可能。

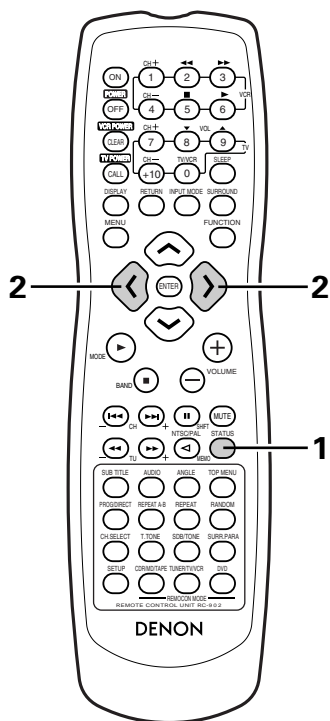
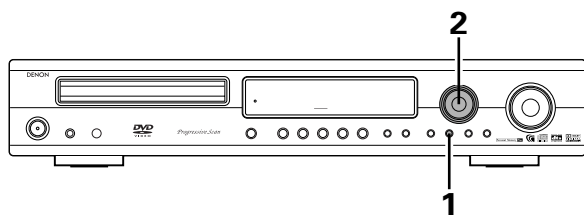
23 オンスクリーンディスプレイについて

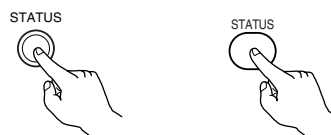
★ 本機はDVDファンクションにおいて、画面にサラウンド機能やディスクに関する情報を表示したり、操作したりすることができるON-SCREEN-DISPLAY（OSD）機能を持っています。

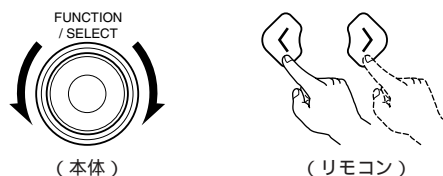
① セットアップ画面
- 部屋の大きさや視聴位置の設定（クイックシステム設定）、本機の機能、ディスク再生時の各種設定を変更（システム設定変更、DVD設定変更）するときに使用します。
- どのファンクションでも使用できますが、ディスク再生時は操作できませんので停止させてからおこなってください。

② ディスク情報の表示
- DVDファンクションにおいて、ディスクに関する情報を表示したり、各種再生機能の操作をするときに表示します。

③ サラウンド機能の表示
- DVDファンクションではサラウンドアンプに関する情報も表示し、操作できます。
- 但し、MP3ディスク再生時のディスク情報画面が表示されているときは表示できません。

★ サラウンド機能のOSD（AV OSD）表示の入/切の設定ができます。
（セットアップ画面、DVDディスク情報のOSDについては『切』に設定できません。）
※ 工場出荷時は『入』に設定されています。

1 DVDファンクションでSTATUSボタンを2秒以上押し続けます。

●“ AV OSD 入◀：▶切 ” が表示されます。

※ 現在の設定状態が緑色に表示されます。

2 AV OSDの入/切の設定をします。

※ 数秒経つと表示が消え、設定されます。

ご注意

- 再生するディスクによってはOSDを表示させると画像や音声が乱れる場合がありますが、故障ではありません。このような場合は、AV OSDを『切』にしてお楽しみください。
- OSD表示はVCRの映像出力端子にも出力されます。ビデオデッキで録音中はセットアップやOSD表示の操作はおこなわないでください。

24 サラウンドについて【解説】

★ 本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

(1) ドルビーサラウンドについて

1 ドルビーデジタル（ドルビーサラウンドAC-3）

◎ ドルビーデジタルは、ドルビー研究所が開発したマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルはCDと同等以上の再生帯域（高域は20kHz以上再生可）を持つフロント3ch（フロント左（FL）、フロント右（FR）、センター（C））とサラウンド2ch（サラウンド左（SL）、サラウンド右（SR））に加え、低域（〜120Hz）効果音専用のLFE（ロー・フリクエンシー・エフェクト）の合計5.1chに対応しており、更にモノラル1chやステレオ2ch、ドルビープロロジック信号の伝送など幅広い対応ができます。

◎ また、各チャンネルの信号はそれぞれ完全に独立して記録されるため、各信号間の干渉、クロストークなどで劣化する心配がありません。これらのデジタル信号を、高効率符号化技術によってCDの半分以下のデータ量（最大640kbps）にて伝送可能といった特徴を持っています。

◎ この特徴を映画のサウンドトラックに生かし、映画館用に開発されたサラウンドシステムが『DOLBY SR-D（ドルビーステレオデジタル）』です。従来一般的であったドルビーサラウンド（ドルビープロロジック）がアナログ・マトリクス方式であったのに対して、各チャンネルが完全に独立したデジタル・ディスクリート方式となり、音の遠近感、移動感、定位感のある音場をよりリアルに再現することができるようになりました。そしてドルビーデジタル対応メディアであるLD、DVDなどは、AVルームでDOLBY SR-Dのサラウンドトラックをそのまま再現することを可能にしたため、映画館と同様に驚くほどリアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

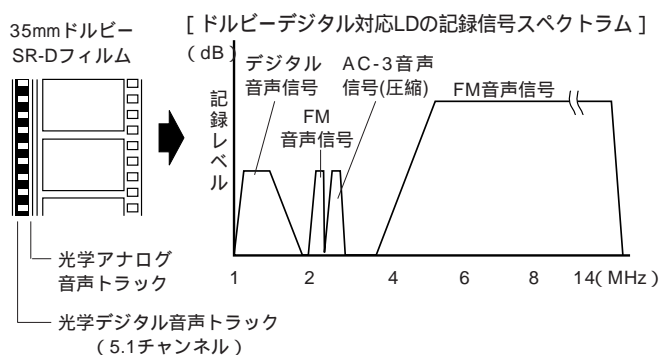
【SR-Dとドルビーデジタルの関係】

35mmドルビー
SR-Dフィルム

光学アナログ
音声トラック

光学デジタル音声トラック
（5.1チャンネル）

［ドルビーデジタル対応LDの記録信号スペクトラム］

(dB)
記録レベル
デジタル音声信号
AC-3音声信号(圧縮)
FM音声信号
FM音声信号
1 2 4 6 8 14（MHz）

【ドルビーデジタルとドルビープロロジック】

家庭用サラウンド方式比較	ドルビー・デジタル	ドルビー・プロロジック
記録(素材)ch数	5.1ch	2ch
再生ch数	5.1ch	4ch
再生ch構成(MAX)	L, R, C, SL, SR, SW	L,R,C,S（SWは推奨）
音声処理	デジタル・ディスクリート処理 ドルビーデジタル（AC-3） エンコード、デコード	アナログ・マトリックス処理 ドルビー・サラウンド
サラウンドchの高域再生限界	20kHz	7kHz

■ ドルビーデジタル対応メディアとその再生方法

ドルビーデジタル対応マーク： DOLBY DIGITAL または AC-3 DOLBY SURROUND DIGITAL

以下の内容は一般的な例です。必ずお手持ちの再生機器の取扱説明書とあわせて確認してください。

メディア	ドルビーデジタル出力端子	再生方法（参照ページ）
LD（VDP）	ドルビーデジタルRF出力 専用同軸端子 **（注1）**	入力モードを『AUTO』に設定します。（60、61ページ参照）
DVD	光または同軸デジタル出力 （PCMと共通） **（注2）**	入力モードを『AUTO』に設定します。（60、61ページ参照）
その他 （衛星放送、CATVなど）	光または同軸デジタル出力 （PCMと共通）	入力モードを『AUTO』に設定します。（60、61ページ参照）

注1 ：デジタル入力端子にドルビーデジタルRF（AC-3 RF）出力信号を接続するときは、市販のアダプターを使用してください。（アダプターの取扱説明書を参照してください。）

注2 ：本機のDVDでドルビーデジタルサラウンド再生をおこなう場合は、セットアップの『DVD設定変更』-『音声設定』-『デジタル出力』を『ノーマル』に設定します。（工場出荷時は『ノーマル』に設定されています。）

2 ドルビープロロジックII

◎ ドルビープロロジックII は、従来のドルビープロロジック回路を更に進化させたフィードバックロジックステアリング技術を用いて、ドルビー研究所により開発された新しいマルチチャンネル再生方式です。

◎ ドルビーサラウンド録音されたソース（＊）に加え、音楽ソースなどの通常のステレオ録音ソースも5ch（FL、FR、C、SL、SR）の信号にデコードし、サラウンド再生を楽しむことができます。

◎ サラウンドチャンネルの再生周波数帯域は、帯域制限のあった従来のドルビープロロジックに比較して広帯域（20〜20kHz以上）になっています。また、従来サラウンドチャンネルはサラウンドL（左）＝サラウンドR（右）のモノラル再生でしたが、新たにステレオ信号として再生する方式をとっています。

◎ 再生するソースの種類や内容に合わせて最適なデコード処理をおこなえるように、各種パラメーターを設定することが可能になりました。（65ページ参照）

＊：“ **ドルビーサラウンド録音されたソース** ”とは

- 3ch以上で構成されるサラウンド信号を、ドルビーサラウンドエンコード技術によって2chの信号として記録したソースです。
- DVD、LD、ステレオVTRで再生される映画のサウンドトラックをはじめ、FM、TV、BS、CSなどのステレオ放送信号にて用いられています。
- この信号に対して、プロロジックデコードを施すことにより、マルチチャンネルでのサラウンド再生が可能になりますが、一般的なステレオ機器でそのままステレオ再生することも可能です。
- DVDのドルビーサラウンド録音信号には2種類あります。

  ①PCMステレオ2ch信号
  ②ドルビーデジタル2ch信号

  本機はいずれの信号が再生されても『AUTO DECODE』モードで2chモードを『プロロジックII』モードに設定選択した場合、サラウンドモードは自動的に『ドルビープロロジックII』となります。

■ ドルビーサラウンド録音されたソースには以下のロゴマークが表示されています。

ドルビーサラウンド対応マーク： DOLBY SURROUND

(2) DTS デジタルサラウンドについて

◎ DTSデジタルサラウンド（または単にDTSと呼ばれます）は、デジタル・シアター・システムズ社が開発したマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。

◎ 再生チャンネルや再生帯域はドルビーデジタルと同様、FL、FR、C、SL、SRの5chに加えてLFE 0.1chを持つ5.1chで、他にステレオ2chモードがあります。いずれも各チャンネルの信号は完全に独立して記録されるため、各信号間の干渉、クロストーク等で劣化する心配はありません。

◎ DTSはドルビーデジタルに対して比較的高いビットレート（CD/LDで1234kbps、DVDは1536kbpsか768kbps）となり、相対的に低い圧縮率で動作するのが特徴です。そのためデータ量が多く、映画館においてのDTS再生はフィルムと同期をとったCD-ROMを別途再生する方法がとられています。
もちろんLDやDVDにおいてはそういった心配はなく、1枚のディスクに映像とサウンドが同時に記録できるため、他のフォーマットと同様の取り扱いができます。

◎ この他のメディアにはDTS録音されたCDがあります。これは従来の（2ch録音された）CDと同様のメディアに5.1chのサラウンド信号が記録されたもので、映像はありませんが、本機やCDプレーヤーを使ってサラウンド再生が可能となるという特徴があります。
DTSによるサラウンドトラック再生も映画館とAVルームの間で基本的な違いはなく、映画館と同様の緻密で雄大なサウンドを楽しむことができます。

■DTS対応メディアとその再生方法

DTS対応マーク： DIGITAL dts SURROUND または dts

以下の内容は一般的な例です。必ずお手持ちの再生機器の取扱説明書と合わせて確認してください。

メディア	DTSデジタル出力端子	再生方法（参照ページ）
CD	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）**(注4)**	入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定します（60、61ページ参照）。絶対に『ANALOG』および『PCM』モードには切り替えないでください。**(注3)**
LD（VDP）	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）**(注4)**	入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定します（60、61ページ参照）。絶対に『ANALOG』および『PCM』モードには切り替えないでください。**(注3)**
DVD	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）**(注5)**	入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定します（60、61ページ参照）。

注3 ：CDやLDのDTS信号は、通常のCDやLDにおけるPCM信号がそのままDTS信号に置き換わった形で記録されています。そのためCD、LDプレーヤーのアナログ出力からはDTS信号がノイズとなって出力されます。このノイズをアンプによって再生した場合、最悪のケースでは本機やスピーカーなどの周辺機器が故障する可能性があります。これらの問題を避けるため、DTSで記録されたCDやLDを再生する前に、入力モードを必ず『AUTO』または『DTS』モードへ切り替えてから、ディスクの再生をおこなうようにしてください。また再生中は絶対に『ANALOG』および『PCM』モードへは切り替えないでください。本機やLD/DVDコンパチプレーヤーでDTS録音されたCDやLDの再生をおこなうときも同様です。なおDVDメディアの場合は、DTS信号は専用の記録方式で記録されているため、問題はありません。

注4 ：CDまたはLDプレーヤーなどで、デジタル出力に何らかの信号処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換など）がおこなわれている場合があります。この場合誤ってDTS信号に信号処理がおこなわれてしまい、本機と接続しても正しく再生できずノイズなどが発声することがありますので、はじめてDTS再生をおこなう場合はまずマスターボリウムを絞り、DTSディスクの再生を開始すると本機のDTSインジケーター（61ページ参照）が点灯することを確認してからマスターボリウムを上げるようにしてください。

注5 ：本機のDVDでDTSデジタルサラウンド再生をおこなう場合は、セットアップの『DVD設定変更』-『音声設定』-『デジタル出力』を『ノーマル』に設定します。（工場出荷時は『ノーマル』に設定されています。）

(3) AACについて

◎ MPEG2-AAC (Advanced Audio Coding) はMPEG (Moving Picture Experts Group) が開発したマルチチャンネル音声フォーマットです。

◎ その特長は、高音質・高圧縮率を両立できることです。特に低ビットレート（高圧縮率）の環境においてドルビーデジタルやMP3 (MPEG Layer-3)など、従来のフォーマットに比べて高い音質を維持することが出来ます。具体的にはわずか96kbpsという低ビットレートで、CD並みといわれる品質のステレオ音声を伝送することが出来ます。

◎ その特長を生かしてポータブルオーディオなどへの応用が増加している一方、多チャンネルに対応しても全体のビットレートを低く抑えることが出来るため、日本のBSデジタル放送における5.1chサラウンド放送をはじめとする、サラウンドシステムへの応用が始まりました。

◎ MPEG2-AACは元々映像信号と音声信号の複合データであるMPEGデータの音声規格として開発されたため、その用途に応じて求められるスペックは多岐に渡ります。映像と組み合わせたトータルのビットレートを低く抑えるため低ビットレートでの音質確保、また多チャンネル伝送時のデータ量低減、業務用途のみに特化することなく使えるデータ処理の簡略化、それらは相反する要素を持ちますが、いずれの要求も満たせる様配慮され非常に柔軟性の高い規格になっています。そのため音声信号の種類やそのデータ作成環境に適合させるためにMAIN/LC/SSRプロファイルという3種類のデータ構造を持っています。

【MPEG2-AACのスペック（概要）】

- ●アルゴリズム　：MAINプロファイル
  LC(Low Complexity)プロファイル
  SSR(Scalable Sampling Rate)プロファイル
- ●サンプリング周波数　：8kHzから96kHzまで対応
- ●チャンネル数　：最大48チャンネルのマルチチャンネル伝送に対応
- ●その他の機能　：LFE(Low Frequency Effect)サポート
  マルチリンガル(複数言語)サポート

この中で本機は、BSデジタル放送にて使用される32kHzから48kHzまでのサンプリング周波数と、LCプロファイルの再生に対応しております。またチャンネル数は最大5.1chのデータに対応します。

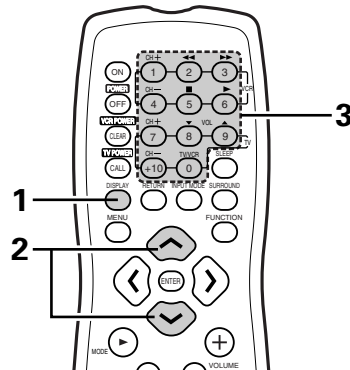
※ MPEGによる音声規格は他にLayer-1,2,3等がありますが、それらとAACの間に互換性はありません。
本機はその中でさきに述べたAACの再生に対応します。

◎ 以下がAACに関する米国パテントナンバーです。

08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

25 いろいろなディスク再生のしかた

(1) ディスク情報OSDを使って操作する

★ ディスクに関する情報（タイトル/チャプター/時間）を表示したり、その内容を変更することができます。

**リモコン操作をする前に!!
必ずリモコンモード切り替えボタンを押して、リモコンをDVDモードにします。**

1 再生中にDISPLAYボタンを押します。

- ON-SCREEN画面が表示されます。
- 押すたびにテレビ画面の表示が切り替わります。
- 表示される項目はディスクにより異なります。

（リモコン）

【例】DVDの場合（通常の再生画面）

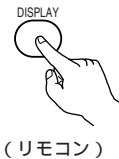
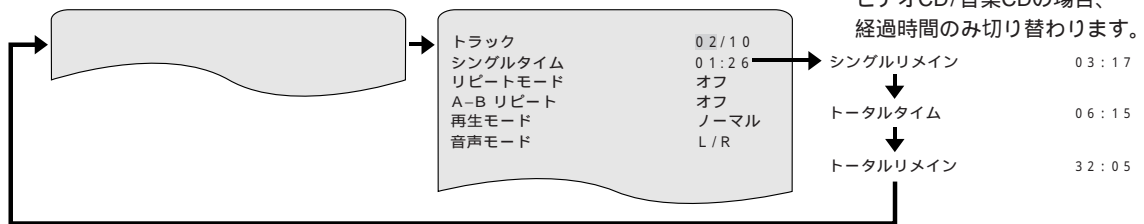
タイトル	01/05
チャプター	02/08
タイトルタイム	0:26:11
画質調整	標準

字幕	01/03 英語
	オン
音声	01/03 英語
	DOLBY D3/2/.1

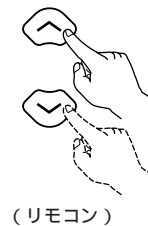
【例】ビデオCD/音楽CDの場合（通常の再生画面）

トラック	02/10
シングルタイム	01:26
リピートモード	オフ
A-B リピート	オフ
再生モード	ノーマル
音声モード	L/R

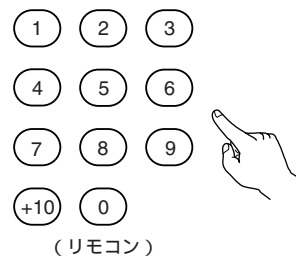
※ビデオCD/音楽CDの場合、経過時間のみ切り替わります。

シングルリメイン 03:17
↓
トータルタイム 06:15
↓
トータルリメイン 32:05

2 カーソルボタン（︿,﹀）で変更する項目を選びます。

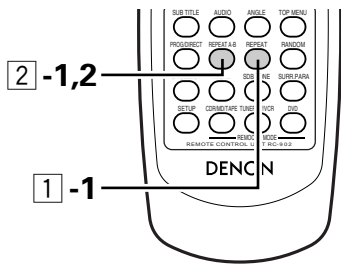
- 選ばれた項目は黄色の枠で表示されます。
- DVDの場合
  タイトル、チャプター、タイトルタイム（経過時間）を選ぶことができます。
- ビデオCD/音楽CDの場合
  トラックを選ぶことができます。

（リモコン）

3 番号ボタンで内容を変更します。

① 経過時間の変更
　番号ボタンで入力し、ENTERボタンを押します。
　【例】1分26秒の場合→『00126』

② タイトル、トラック、チャプターの変更
- DVDの場合
  番号ボタンで変更し、ENTERボタンを押します。
  （ディスクによっては、タイトル、チャプターなどの変更ができない場合があります。）
- ビデオCD/音楽CDの場合
  番号ボタンで入力すると、そのトラックから再生をはじめます。（ダイレクト選曲）

（リモコン）

(2）くり返し再生する

★ お気に入りの映像や音声をくり返して再生することができます。

リモコン操作をする前に!!
必ずリモコンモード切り替えボタンを押して、リモコンをDVDモードにします。

ご注意

- リピート再生が働かないDVDもあります。
- 再生中ディスプレイに再生経過時間が表示されないディスクは、リピート再生およびA-Bリピート再生ができないことがあります。
- A-Bリピート再生中は、A-B間の前後の字幕が表示されないことがあります。

1 くり返し再生する（リピート再生）

1 再生中にREPEATボタンを押します。

- 押すたびにテレビ画面の表示が切り替わり、それぞれのくり返し再生をはじめます。

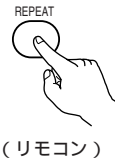
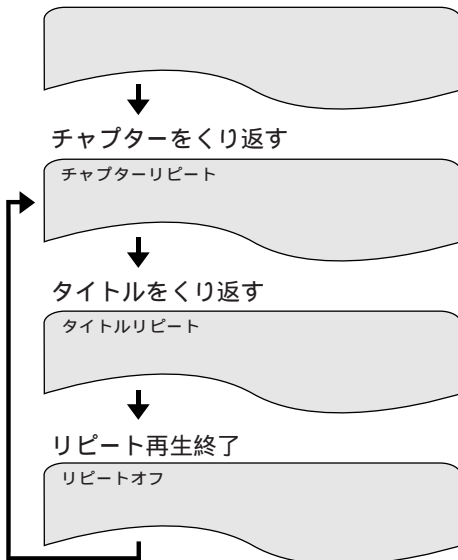
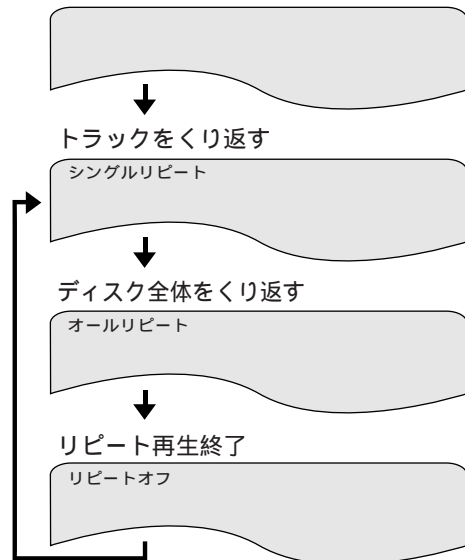
※ リピート再生時、本体ディスプレイに “ ⮌ ” が点灯します。オールリピート再生時は “ ALL ” が点灯します。

REPEAT（リモコン）

■ DVDの場合

- 通常の再生
- チャプターをくり返す
  チャプターリピート
- タイトルをくり返す
  タイトルリピート
- リピート再生終了
  リピートオフ

■ ビデオCDや音楽CDの場合

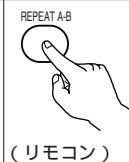
- 通常の再生
- トラックをくり返す
  シングルリピート
- ディスク全体をくり返す
  オールリピート
- リピート再生終了
  リピートオフ

※ 通常の再生に戻すときは
テレビ画面に “ リピートオフ ” が表示されるまでREPEATボタンを押すと、通常の再生に戻ります。
（本体ディスプレイの “ ⮌ ” と “ ALL ” は消灯します。）

2 指定した2点間をくり返し再生する（A-Bリピート）

1 再生中にREPEAT A-Bボタンを押します。

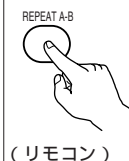
- 開始場所Aが指定されます。

※ 本体ディスプレイに “ ⮌ ” と “ A― ” が点灯します。

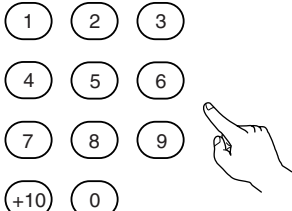
REPEAT A-B（リモコン）

リピート　A ―

2 もう一度REPEAT A-Bボタンを押します。

- 終了場所Bが指定され、A-B間のくり返し再生がはじまります。

※ 本体ディスプレイに “ ⮌ ” と “ A―B ” が点灯します。

REPEAT A-B（リモコン）

リピート　A―B

※ 通常の再生に戻すときは
テレビ画面から “ リピートオフ ” が表示されるまでREPEAT A-Bボタンを押します。
（本体ディスプレイの “ ⮌ ” と “ A-B ” は消灯します。）

（3）好きな順に再生する

★ ビデオCDや音楽CDはトラック番号を予約して好きな順に再生することができます。
★ DVDでは動作しません。

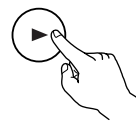
リモコン操作をする前に!!
必ずリモコンモード切り替えボタンを押して、リモコンをDVDモードにします。

1	**停止中にPROG/DIRECTボタンを1回押します。** ● プログラム選択画面が表示されます。 ※ 本体ディスプレイに " PROG " が点灯します。	PROG/DIRECT （リモコン） プログラム　P01:_ _　00:00
2	**番号ボタンで予約したい番号を選びます。** ● 30曲までプログラムできます。 **【例】トラック5と12をプログラムする場合** 番号ボタンの『5』を押します。　プログラム　P01:05　03:12 ↓ 番号ボタンの『+10』を押します。　プログラム　P02:1_　03:12 ↓ 番号ボタンの『2』を押します。　プログラム　P02:12　06:32 ※ 本体ディスプレイにトラック番号とプログラム番号が表示されます。	1 2 3 4 5 6 7 8 9 +10 0 （リモコン）
3	**再生ボタンを押します。** ● 予約した順に再生がはじまります。	 （本体）　（リモコン）

※ **通常の再生に戻すには**
停止(■)ボタンを押してプログラム再生を止め、PROG/DIRECTボタンを押します。（本体ディスプレイの " PROG " が消灯します。）その後、再生(▶)ボタンを押すとディスクの先頭から通常の再生がはじまります。

※ **予約を1つずつ取り消すには**
停止(■)ボタンを押してプログラム再生を止めます。その後、CLEARボタンを押すたびに最後に予約したものから順に取り消されます。

※ **予約をすべて取り消すときは**
電源を切るか、入力ファンクションを切り替える、あるいは本機からディスクを取り出すとすべて取り消されます。また停止(■)ボタンを押してプログラム再生を止め、PROG/DIRECTボタンを押すとすべて取り消されます。

※ **プログラムされた内容を確認するには**
CALLボタンを押すとプログラムされた内容がステップごとに表示されます。

（4）順不同に再生する

★ ビデオCDや音楽CDはトラック単位で順不同（ランダム）に再生することができます。
★ DVDでは動作しません。

リモコン操作をする前に!!
必ずリモコンモード切り替えボタンを押して、
リモコンをDVDモードにします。

DVD

1 **停止中にRANDOMボタンを押します。**
- ランダム再生画面が表示されます。

※ **ディスクによってはランダム再生できない場合があります。**
※ 本体ディスプレイに " RAND " が点灯します。

2 **再生ボタンを押します。**
- 順不同に再生がはじまります。

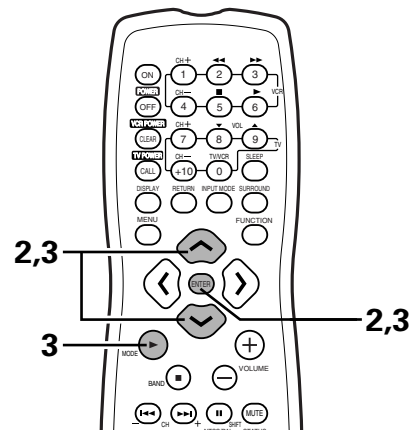
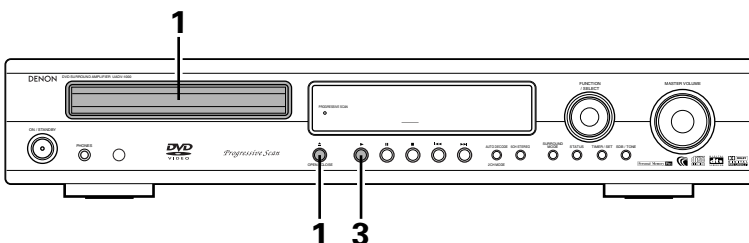
※ **通常の再生に戻すときは**
停止(■)ボタンを押してランダム再生を止め、RANDOMボタンを1回押します。
(本体ディスプレイの " RAND " が消灯します。)

いろいろなディスク再生のしかた（つづき）

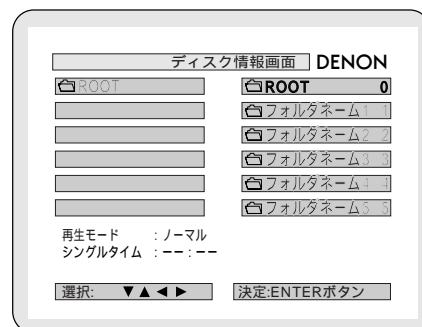
（5）MP3を再生する

★ インターネットのホームページ上には、MP3形式の音楽ファイルをダウンロードできる様々な音楽配信サイトがあります。そのサイトの指示に従って音楽をダウンロードし、CD-R/RWに書き込めば、本機で再生することができます。
市販の音楽CDに収録された音楽を、パソコン上でMP3エンコーダ（変換ソフト）によりMP3ファイルに変換すれば、12cmCD1枚が約10分の1のデータ量になります。これをCD-R/RWに書き込めば約10枚分の音楽CDがたった1枚のCD-R/RWにMP3ファイルとして書き込むことができます。約100曲以上*の音楽が1枚のCD-R/RWで楽しめます。

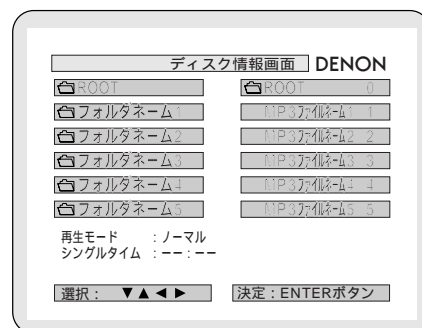
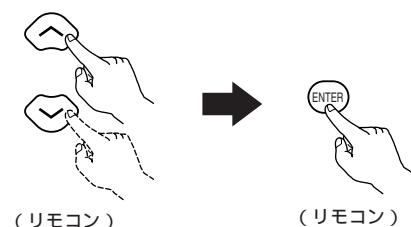
＊ 約5分の曲を標準的なビットレート128kbpsでMP3ファイルに変換し、容量650MBのCD-R/RWに書き込んだ場合のおよその値です。

リモコン操作をする前に!!
必ずリモコンモード切り替えボタンを押して、リモコンをDVDモードにします。

1 **MP3形式の音楽ファイルを書き込んだCD-R/RWを本機にセットします。**（35ページの『ディスクの入れかた』を参照してください。）

- 本体にディスクが装着されるとディスク情報画面が表示されます。
- 複数のフォルダがある場合は、操作*2*に進みます。
- ディスクに記録されているフォルダがない場合（MP3ファイルのみ）は、操作*3*に進みます。

※ ディスクに記録されているすべてのフォルダが表示されます。（フォルダの階層ごとには表示されません。）

2 **カーソルボタン（︿,﹀）で再生したいフォルダを選び、リモコンのENTERボタンを押します。**

※ **再生したいフォルダを替えたいときは**
リモコンのカーソルボタン（︿）で画面右上の“ ROOT ”表示を選び、リモコンのENTERボタンを押すとディスク情報画面が表示されますので、もう一度フォルダを選び直してください。

（リモコン）　（リモコン）

3 **カーソルボタン（ ︿ , ﹀ ）で再生したいMP3ファイルを選び、再生ボタンまたはENTERボタンを押します。**

- 再生をはじめます。

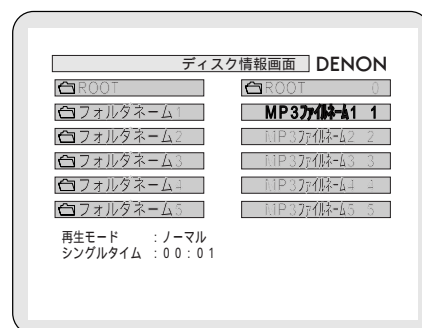
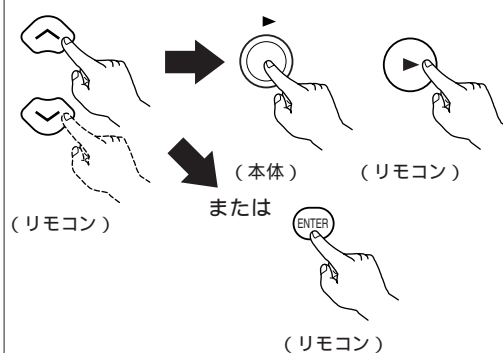
※ リモコンのDISPLAYボタンを押すと、1曲経過時間（シングルタイム）と1曲残り時間（シングルリメイン）を切り替え表示することができます。
※ **MP3のディスクではプログラム再生ができません。**

※ **再生したいMP3ファイルを替えたいときは**
停止ボタンを押してから、リモコンのカーソルボタン（ ︿ , ﹀ ）でもう一度選び直してください。

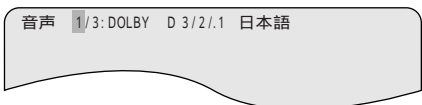
※ **ランダム再生するには**
停止中にリモコンのRANDOMボタンを押してから、再生ボタンまたはリモコンのENTERボタンを押します。

※ **リピート再生するには**
リモコンのREPEATボタンを押します。押すたびにリピートモードが変わります。

→ ノーマル → シングルリピート → フォルダリピート ─

※ **初期のディスク情報画面に戻すときは**
停止（■）ボタンを押して再生を止め、リモコンのカーソルボタン（ ︿ ）で画面右上の " ROOT " 表示を選び、リモコンのENTERボタンを押します。（操作***1***のディスク情報画面に戻ります。）

ご注意

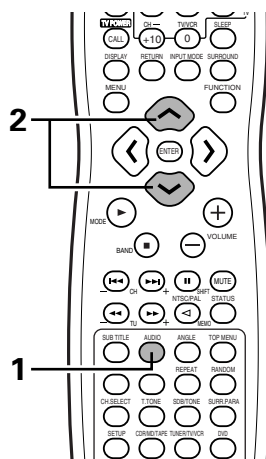
- 本機で対応している規格は『MPEG-1 Audio Layer-3』（サンプリング周波数fsは32、44.1、48kHz）です。それ以外の『MPEG-2 Audio Layer-3』、『MPEG-2.5 Audio Layer-3』およびMP1、MP2などには対応していません。
- ディスク特性、汚れ、傷などによってCD-R/RWが再生できない場合があります。
- MP3を再生したときのデジタル出力は、初期設定の音声設定が『ノーマル』『PCM変換』に関わらずMP3をPCMに変換して出力します。また、記録されている音楽ソースのサンプリング周波数で出力します。
- 一般にMP3ファイルはビットレートが高いほど音質が良くなります。本機では128kbps以上のビットレートで記録されたMP3のご使用をお勧めします。
- MP3ファイルの再生順序は、CD-R/RW書き込み時にライティングソフトがフォルダ位置、ファイル位置を並び替える可能性があるため任意の再生順序とは異なる場合があります。
- MP3のディスクではプログラム再生ができません。
- MP3ファイルをCD-R/RWに書き込む場合、ライティングソフトのフォーマットは『ISO9660レベル1またはレベル2』を選択してください。他のフォーマットで記録された場合、正常に再生できないことがあります。ライティングソフトによっては『ISO9660』フォーマットで記録できないものがあります。『ISO9660』フォーマットのライティングソフトをご使用ください。
- 本機はフォルダネームとファイルネームをタイトルのように表示することが可能です。半角の英数大文字と__（アンダースコア）を11文字まで表示できます。（12文字以上の文字は表示されません。）また、漢字・ひらがな・カタカナ・その他の記号で記録されたフォルダネームとファイルネームは表示されません。
- MP3ファイルには必ず拡張子『.MP3』を付けてください。『.MP3』以外の拡張子を付けた場合や拡張子を付けなかった場合はファイルを再生できません。（マッキントッシュのパソコンの場合、半角英数大文字8文字以内のファイルネームの最後に拡張子『.MP3』を付けてCD-R/RWに記録することにより、MP3ファイルの再生が可能です。）
- CD/CD-R/RWのレーベル面や記録面にシールやテープなどを貼らないでください。のりなどがディスク表面に付着すると、本機の内部にディスクが残り、取り出せなくなる恐れがあります。
- パケットライトソフトには対応していません。
- ID3-Tagには対応していません。
- プレイリストには対応していません。

いろいろなディスク再生のしかた（つづき）

（6）マルチ機能の使いかた

1 音声言語を切り替える（マルチ音声機能）

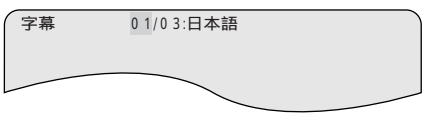
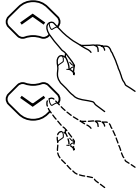
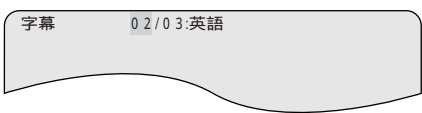
★ 複数の音声言語が記録されているDVDは、再生中に音声言語を切り替えることができます。

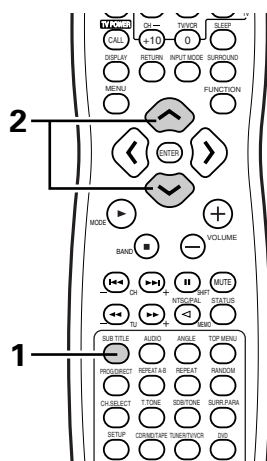
リモコン操作をする前に!!
必ずリモコンモード切り替えボタンを押して、リモコンをDVDモードにします。

DVD

1	**再生中にAUDIOボタンを押します。** ● 現在再生中の音声番号が表示されます。	AUDIO （リモコン） 音声　1/3: DOLBY　D 3/2/.1　日本語
2	**カーソルボタン（︿, ﹀）でお好みの言語にします。** ● AUDIOボタンを押すと表示が消えます。	（リモコン） 音声　2/3: DOLBY　D 3/2/.1　英語

ご注意

- ディスクによっては再生中に音声言語を切り替えられない場合があります。この場合にはDVDメニューで選んでください。（88ページ参照）
- カーソルボタン（︿, ﹀）を数回押しても希望の言語が表示されないときは、その言語がディスクに記録されていません。
- 電源投入時およびディスク交換時は、セットアップで設定されている言語になります。

いろいろなディスク再生のしかた（つづき）

2 字幕言語を切り替える（マルチ字幕機能）

★ 複数の字幕言語が記録されているDVDは、再生中に字幕言語を切り替えることができます。

リモコン操作をする前に!!
必ずリモコンモード切り替えボタンを押して、リモコンをDVDモードにします。

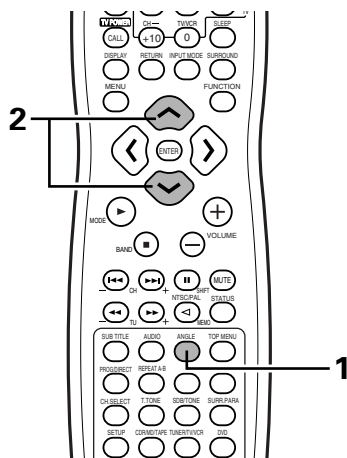
1	**再生中にSUBTITLEボタンを押します。**	SUB TITLE （リモコン） 字幕　01/03:日本語
2	**カーソルボタン（︿,﹀）でお好みの字幕言語にします。** ● SUBTITLEボタンを押すと表示が消えます。	（リモコン） 字幕　02/03:英語

ご注意

- カーソルボタン（︿,﹀）を数回押しても希望の字幕言語が表示されないときは、その言語がディスクに記録されていません。
- 電源投入時およびディスク交換時は、セットアップで設定されている字幕言語になります。
  なお、その言語がディスクにないときはディスクで決められている言語になります。
- 字幕言語を変更してからその言語が表示されるまでに多少時間がかかる場合があります。

いろいろなディスク再生のしかた（つづき）

3 アングル（角度）を切り替える（マルチアングル機能）

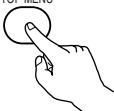
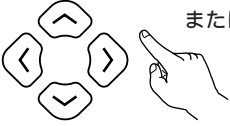
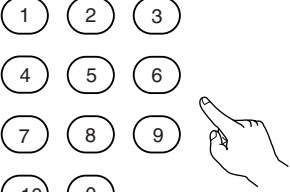
★ 複数のアングルが記録されているDVDは、再生中にアングルを切り替えることができます。
アングルが記録されているディスクを再生すると本体のディスプレイに“ ANGLE ”が点灯します。

リモコン操作をする前に!!
必ずリモコンモード
切り替えボタンを
押して、リモコン
をDVDモードにします。

1	**再生中にANGLEボタンを押します。** ● 現在再生中のアングル番号が表示されます。	ANGLE （リモコン） 3/5
2	**カーソルボタン（ ︿ , ﹀ ）でお好みのアングルにします。** ● ANGLEボタンを押すと表示が消えます。	（リモコン） 4/5

ご注意

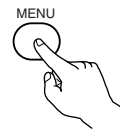
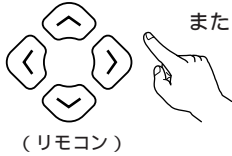
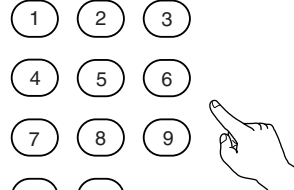
● マルチアングル機能は複数のアングルが記録されているディスクで操作できます。
● 複数のアングルが記録されている場面でアングルを切り替えることができます。

いろいろなディスク再生のしかた（つづき）

（7）メニューの使いかた

1 トップメニューを使う

★ 複数のタイトルが入っているDVDは、トップメニューからお好みのタイトルを選び再生することができます。

リモコン操作をする前に!!
必ずリモコンモード切り替えボタンを押して、リモコンをDVDモードにします。

	操作	図
1	**再生中にTOP MENUボタンを押します。** ● トップメニューが表示されます。	TOP MENU（リモコン） 【例】 TOP MENU りんご　バナナ みかん　りんご もも　パイナップル
2	**カーソルボタンまたは番号ボタンでお好みのタイトルを選びます。** ● 番号ボタンで選んだとき操作*3*は不要です。	（リモコン）または（リモコン） 【例】『みかん』を選んだ場合 TOP MENU りんご　バナナ みかん　イチゴ もも　パイナップル
3	**ENTERボタンを押します。** ● 再生がはじまります。 ● 再生ボタンを押しても、再生がはじまります。	ENTER（リモコン）

2 DVDメニューを使う

★ DVDによっては、DVDメニューと呼ばれる特別なメニューが用意されているものがあります。
例えば、複雑な内容で編集されたDVDではガイドメニューが用意されていたり、多言語で収録されたDVDでは音声や字幕の言語メニューが用意されていたりします。これらのメニューを『**DVDメニュー**』と呼びます。本書では、DVDメニューの一般的な操作方法を紹介します。

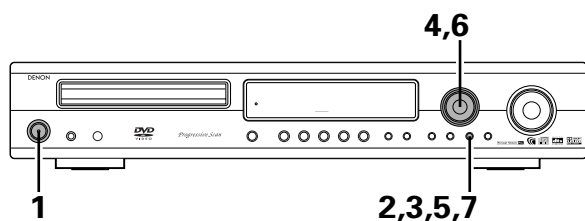
リモコン操作をする前に!!
必ずリモコンモード切り替えボタンを押して、リモコンをDVDモードにします。

DVD

1	**再生中にMENUボタンを押します。** ● DVDメニューが表示されます。	MENU （リモコン） 【例】 DVD MENU 1. 字幕 2. 音声 3. アングル
2	**カーソルボタンまたは番号ボタンで項目を選びます。** ● 番号ボタンで選んだとき操作***3***は不要です。	（リモコン） または 1 2 3 4 5 6 7 8 9 +10 0 （リモコン） 【例】『音声』を選んだ場合 DVD MENU 1. 字幕 2. 音声 3. アングル
3	**ENTERボタンを押します。** ● 選んだ項目が決定されます。 ● 次々とメニューを表示するときは、操作***2***,***3***をくり返します。	ENTER （リモコン）

26 タイマーの使いかた

（1）現在時刻の合わせかた（24時間表示）

【例】現在時刻を『19時30分（午後7時30分）』に合わせるとき

1 電源を入れます。

2 TIMER/SETボタンを2秒以上押します。

● “ SET TIME ” が表示されます。

※ すでに時刻設定がされている場合は“ DVD TIMER ” が表示されます。FUNCTION/SELECTつまみを回して “ SET TIME ” を表示させてから操作***3*** をおこないます。

3 TIMER/SETボタンを押します。

● “ Adj ” が表示され、時計表示の時の桁が点滅します。

4 FUNCTION/SELECTつまみを回して時の桁を『19』に設定します。

● 時の桁の “ 19 ” が点滅します。

5 TIMER/SETボタンを押します。

● 時の桁の “ 19 ” が点灯し、分の桁が点滅します。

6 FUNCTION/SELECTつまみを回して分の桁を『30』に設定します。

● 分の桁の “ 30 ” が点滅します。

7 時計などに合わせて、TIMER/SETボタンを押します。

● 時刻が設定され、時計カウントを開始します。

※ **通常表示から現在時刻を確認するとき**はTIMER/SETボタンを1回押してください。時刻は他の操作がおこなわれるまで継続して表示されます。
時刻表示中にもう一度押すと通常の表示に戻ります。

※ 電源スタンバイ時にもTIMER/SETボタンを押すと、時刻表示ができます。（省エネスタンバイ状態ではなくなります。）時刻表示中にもう一度押すと表示が消えて、省エネスタンバイ状態に戻ります。

※ 電源スタンバイ時でもTIMER/SETボタンを押し、時刻表示にしてから操作***2***～***7***をおこなうと現在時刻を合わせることができます。

※ 時計は電源周波数同期方式です。月におよそ2～3分程度のズレを生じることがあります。このようなときは時刻を合わせ直してください。

（2）DVDタイマーについて

■ タイマーの内容

- 毎日1回、同じ時刻にDVDファンクションで電源のON/STANDBY（OFF）ができます。
  （エブリデイタイマー）
- DVDやCDなどディスクのタイマー再生をおこなうことができます。

■ タイマー予約の前に

- 現在時刻を合わせてからおこなってください。時間を間違わないように注意してください。

■ タイマー予約の内容を確認するとき

- タイマー予約の動作と同じ方法で確認できます。

① TIMER/SETボタンを2秒以上押してタイマー設定モードにします。
② TIMER/SETボタンを押すたびに開始時刻、終了時刻の順に表示されます。
③ 終了時刻（分）の後、タイマースタンバイ設定表示になり、もう一度TIMER/SETボタンを押すとタイマー設定前の状態に戻ります。

■ タイマー予約の内容を変更するとき

- 変更したい内容でタイマー予約の操作をおこなってください。
- 以前に予約された内容が消えて、新しく予約された内容に変わります。

■ タイマー予約の内容を消去するとき

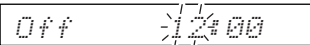
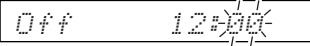
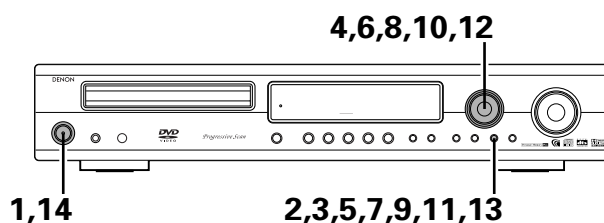
- タイマー予約の操作***3*** ～***10*** の表示になっているときにTIMER/SETボタンを2秒以上押してください。タイマー予約の内容をすべて消去します。

■ タイマー予約を止めるとき

- TIMER/SETボタン押して、“ T.Stdby ” 表示のときFUNCTION/SELECTつまみで “ OFF ” を選択します。（ディスプレイの ◷ マークが消灯します。）

■ 停電になったとき

- 停電になったときや電源コードをコンセントから抜いた後、再び電源が入ると時計表示は点滅状態となりますが、時計のカウントは再開され、タイマー予約されている場合はタイマー動作をします。このような場合は現在時刻を正しく合わせ直してください。

（3）DVDタイマーの予約のしかた

【例】CDを12時35分から12時56分まで聴くとき

- 現在時刻を合わせてから（89ページの操作***1***～***7***）操作してください。

1 **電源を入れます。**
- タイマー再生するCDを本機にセットします。

2 **TIMER/SETボタンを2秒以上押します。**
- 時刻設定されている場合は “ DVD TIMER ” が表示されます。

※ 時刻設定がされていない場合は “ SET TIME ” が表示されます。89ページの操作***3～7*** をおこなってから再度タイマー予約をおこなってください。

3 **TIMER/SETボタンを押します。**
- タイマー予約モードになり、タイマーの開始時刻設定状態になります。

4 **〈タイマーの開始時刻の設定〉**
時の桁を『12』に設定します。

5 **TIMER/SETボタンを押します。**
- 時の桁『12』がメモリーされます。

タイマーの使いかた（つづき）

6 **分の桁を『35』に設定します。**

7 **TIMER/SETボタンを押します。**

- 開始時刻がメモリーされ、タイマーの終了時刻設定状態になります。

8 **〈タイマーの終了時刻の設定〉**

時の桁を『12』に設定します。

9 **TIMER/SETボタンを押します。**

- 時の桁『12』がメモリーされます。

10 **分の桁を『56』に設定します。**

11 **TIMER/SETボタンを押します。**

- 終了時刻がメモリーされます。
- ディスプレイに“ T.Stdby ”が表示され、タイマー予約の状態になります。

12 **タイマースタンバイのON/OFFを設定します。**

- 選択された“ ON ”または“ OFF ”が点滅します。動作させる場合はONを選択します。（ON時はディスプレイの ◷ マークが点灯します。）

※ON/OFFを選択して約4秒間操作をおこなわないと自動的に設定され、通常の表示に戻ります。（操作*13* は不要です。）

13 **TIMER/SETボタンを押します。**

- タイマー予約が完了します。

14 **本機の電源を切ります。**

- 電源がスタンバイ状態になります。
- タイマースタンバイがONのとき電源LEDがオレンジ色に点灯します。
- タイマー開始時刻にディスクを再生します。

ON / STANDBY　オレンジ色　（本体）

※ディスプレイに ◷ マークが点灯しているか、電源スタンバイ時に電源LEDがオレンジ色に点灯していると毎日同じ時刻にタイマー動作します。（エブリデイタイマー）

※**タイマー予約をおこなわないとき**は、TIMER/SETボタンを押して“ T.Stdby ”表示でOFFに設定します。（ディスプレイの ◷ マークが消灯します。）

※**タイマー設定中に設定を間違えたとき**は、操作*7*～*10*まではTIMER/SETボタンを2秒以上押すと操作*3*まで戻りますので、再度操作をおこなってください。

■ タイマースタンバイON/OFFの設定変更

◎通常表示からの設定変更

① TIMER/SETボタンを1回押すと現在時刻の表示になります。

② タイマー予約の内容が設定されている場合は、時刻表示中にTIMER/SETボタンを押すと“ T.Stdby ”表示になりますので、操作*12*、*13*によってタイマースタンバイON/OFFを設定してください。

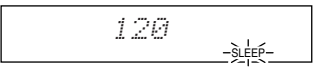
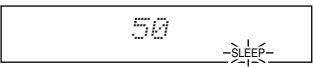
※タイマー予約の内容が設定されている場合は、本体のディスプレイに“ TIMER ”が点灯します。

※タイマー予約の内容が設定されていない場合は②の“ T.Stdby ”表示は出ずに通常の表示に戻ります。

ご注意

- 現在時刻が設定されていない場合は、タイマースタンバイ設定を『ON』にすることはできません。必ず、現在時刻を設定してからタイマー予約をおこなってください。
- 停電により時刻の設定がずれた場合でも、タイマー予約されている場合はタイマー動作します。正しくタイマーを動作させるためには、現在時刻を設定し直してください。（89ページ参照）
- 電源が入っているときにタイマーの開始時刻になった場合は、タイマーで設定された動作に切り替わります。（タイマーの設定内容を優先します。）
- タイマー動作をさせるときは、必ず電源をスタンバイ状態にしておいてください。

タイマーの使いかた（つづき）

(4) スリープタイマーの予約のしかた（リモコンのみ）

★ 付属のリモコンを使用して、電源をスタンバイ状態にする時間を最大120分まで予約できます。
（スリープタイマー）
★ 設定した時間（分）後に、自動的に電源をスタンバイ状態にすることができます。

【例】50分後に電源をスタンバイになるように設定するとき

1 **お好みのファンクションを選び、再生します。**

2 **SLEEPボタンを押します。**

● " 120 " が表示され、" SLEEP " 表示が点滅します。

（リモコン）

120 SLEEP

※ SLEEPボタンを押すたびに、下記のように表示が切り替わります。

120 → 90 → 60 → 50 → 40 → 30 → 20 → 10 → " SLEEP " 表示消灯 → 120

3 **" SLEEP " 表示が点滅している間に、さらにSLEEPボタンを押し、" 50 " を表示させます。**

● " 50 " が表示され、" SLEEP " 表示が点滅します。

（リモコン）

50 SLEEP

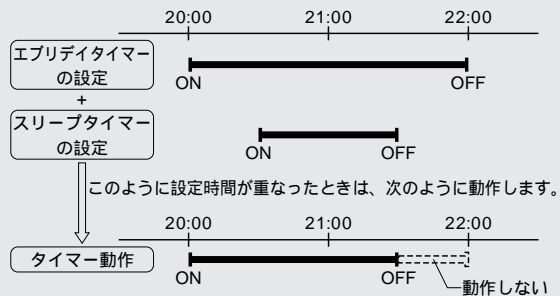
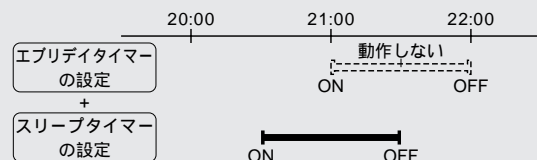
● 約4秒後、スリープタイマー設定前の状態に戻り、" SLEEP " 表示が点灯します。（これでスリープタイマーの設定が完了します。）

4 **50分後に電源がスタンバイ状態になります。**

※ **スリープタイマーを止めるとき**は、" SLEEP " 表示が消灯するまでSLEEPボタンをくり返し押してください。また、本機の電源ボタンまたはリモコンの電源ボタンを押して、システム全体の電源をスタンバイにしてもスリープタイマーを止めることができます。

ご注意

● スリープタイマー動作中にSLEEPボタンを押すと、設定時間が120に戻ります。もう一度設定してください。

● スリープタイマーとエブリデイタイマーの設定時刻範囲が重なったときは、スリープタイマーが優先されます。

● また、スリープタイマーの動作時間内にエブリデイタイマーの開始時刻を設定してもエブリデイタイマーは動作しません。

● スリープタイマーの残り時間はSTATUSボタンで確認できます。" SLEEP " が表示されるまで順に送ってください。

27 ラストファンクションメモリーについて

★ 本機には電源をOFFにする直前の各種ボタンの設定状態を記憶するラストファンクションメモリー機能を備えています。電源をONにすると、電源をOFFにする直前の入出力状態が呼び出されますので、再度設定し直す必要はありません。

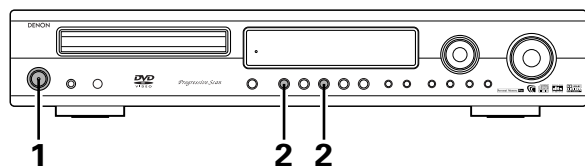
★ また、本機にはバックアップメモリー機能を備えています。これにより電源がOFFになったとき、および電源コードを抜いた場合でも各種の設定状態を保持することができます。

28 マイコンの初期化について

★ 本体のディスプレイ表示が正常でない、または本体やリモコンのボタンで操作できない場合は、下記の操作でマイコンの初期化をおこなってください。

1 **電源ボタンを押してスタンバイ状態にしてから、壁の電源コンセントから本機の電源コードを抜きます。**

2 **再生ボタンと停止ボタンを同時に押しながら本機の電源コードをコンセントに差し込みます。**

3 **ディスプレイ表示が約1秒間隔で点滅するのを確認後、2つのボタンから指を離します。**
- マイコンが初期化されます。

ご注意
- 操作***3***の状態にならない場合は、もう一度操作***1***からやり直してください。
- マイコンの初期化をおこなった場合は、各種ボタンやセットアップの設定内容がすべて工場出荷時の初期設定に戻ります。

29 故障かな？と思ったら

故障？と思っても、もう一度確かめてみましょう

- **■ 各接続は正しいですか**
- **■ 取扱説明書に従って正しく操作していますか**
- **■ スピーカーや接続した機器は正しく動作していますか**

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、電源を切り、電源プラグを電源コンセントから抜きとり、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、販売店でおわかりにならない場合は、当社のお客様相談窓口またはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

現　　象	原　　因	処　　置	関連ページ
電源を入れてもディスプレイが点灯せず、音も出ない。	●電源コードの差し込みが不完全である。	●電源コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。	24
ディスプレイは点灯するが、音が出ない。	●スピーカーコードの接続が不完全である。 ●入力切り替えつまみの位置が不適当である。 ●主音量調節つまみが絞ってある。 ●ミューティングがかかっている。 ●デジタル信号が入力されていない。	●しっかり接続してください。 ●正しい位置に切り替えてください。 ●適当な位置まで回してください。 ●ミューティングを解除してください。 ●デジタル信号の入力ソースを正しく選択してください。	22 60 61 69 61
モニターが映らない。	●本機の映像出力端子とモニターの入力端子の接続が不完全である。 ●モニターTVの入力設定が違う。 ●各機器の映像信号の接続が統一されていない。	●接続が正しいか確認してください。 ●TVの入力切り替えを映像入力を接続した端子に設定してください。 ●コンポジットかS端子のいずれかに統一してください。	24〜27 ー 24
DVDからVCRにダビングできない。	●ほとんどの映画ソフトにはコピー防止信号が入っています。	●コピーはできません。	ー
スーパーウーハーが鳴らない。	●セットアップでスーパーウーハーの設定が『なし』になっている。 ●スーパーウーハーの出力が接続されていない。	●セットアップで設定を『あり』にしてください。 ●正しく接続してください。	41 22
テストトーンが出ない。	●サラウンドモードがオートデコード以外のモードになっている。	●オートデコードにしてください。	33
リモコンを操作しても正常に動作しない。	●乾電池が消耗している。 ●リモコンの距離が離れ過ぎている。 ●本体とリモコンの間に障害物がある。 ●操作したいボタン以外のボタンを押している。 ●乾電池の⊕、⊖が正しくセットされていない。 ●リモコンのモード切り替えが正しく選択されていない。DVDモード、AVモード、オーディオモードが正しく選択されていない。	●新しい乾電池と交換してください。 ●近づいて操作してください。 ●障害物を取り除いてください。 ●操作したいボタンを押してください。 ●乾電池を正しくセットしてください。 ●操作したい項目に従って、リモコンモード切り替えボタンを押してください。本機を操作するときはDVDモードで使用してください。	17 17 17 16 17 16

故障かな？と思ったら（つづき）

現　象	原　因	処　置	関連ページ
再生ボタンを押しても、再生がはじまらない。 または、すぐに停止する。	● 結露している。 ● DVD、ビデオCD、音楽CD以外のディスクを再生している。 ● ディスクが汚れている。	● 1、2時間放置してください。 ● DVD、ビデオCD、音楽CD以外のディスクは再生できません。 ● ディスクをきれいに拭いてください。	6 13 14
ビデオCDのメニュー再生ができない。	● プレイバックコントロール付きビデオCD以外は、メニュー再生できません。		ー
早送り/早戻しをしたら画像が乱れる。	● 多少乱れが生じることがありますが、故障ではありません。		ー
各ディスクボタンの操作ができない。	● ディスクによってはその操作を禁止している場合があります。		38
DVDの字幕が出ない。	● 字幕の入っていないDVDは字幕が表示されません。 ● セットアップで字幕が『字幕なし』になってる場合は、字幕を設定してください。		ー 48、49
DVDの音声（または字幕）言語が切り替えられない。	● 複数の言語が入っていないディスクは切り替えられません。 ● 音声（または字幕）切り替え操作では切り替えられず、DVDメニュー画面などで切り替えられるディスクもあります。		84 85
DVDのアングルを変えて見ることができない。	● 複数のアングルが記録されていないDVDは、アングルを切り替えられません。 また、複数のアングルは特定の場面のみ記録されているものがあります。		86
DVDのタイトルを選んでも再生がはじまらない。	●『視聴制限レベル』の設定を確認してください。		55、56
視聴制限で設定した暗証番号を忘れた。 DVD設定のすべての項目を工場出荷時設定に戻す。	● 以下の操作でDVD設定の内容を工場出荷時に戻してください。 DVDファンクション停止状態で、本体の一時停止ボタン（II）とI◀◀ボタンを同時に2秒以上押してください。（本体ディスプレイに“ INITIALIZE ”が、テレビ画面に“ 初期化しました ”が表示されて消えたことを確認してください。） ※ セットアップのDVD設定内容はすべて工場出荷時の設定になります。必要に応じて、再度設定変更をおこなってください。 ※ この操作ではセットアップのクイックシステム設定、システム設定変更の内容は初期化されません。（すべての初期化をおこなうには、93ページのマイコンの初期化の操作をおこなってください。）		55、56
DVD設定で選んだ音声言語、字幕言語にならない。	● DVDにその言語の音声や字幕が入っていないときは選んでいる言語になりません。		84、85
4：3（16：9）の画像で映らない。	● お手持ちのテレビに合わせて、セットアップでDVD設定の『TV アスペクト』の項目を正しく設定してください。		51
希望の言語でDVDメニュー画面のメッセージが出ない。	● DVD設定の『ディスク言語設定』の『メニュー言語』を確認してください。		48、49

30 主な仕様

（1）DVDサラウンドアンプユニット

■オーディオ部	
●パワーアンプ部	
実用最大出力	フロント　　　　：55W＋55W　（負荷6Ω、1kHz）（EIAJ） センター　　　　：55W（負荷6Ω、1kHz）（EIAJ） サラウンド　　　：55W＋55W　（負荷6Ω、1kHz）（EIAJ） サブウーハー：55W（負荷6Ω、60Hz）（EIAJ）
出力端子	フロント/センター/サブウーハー/サラウンド：6〜16Ω
●アナログ部	
入力感度/入力インピーダンス	200mV/47kΩ
周波数特性	10Hz〜60kHz：＋1.5、ー3dB（ダイレクトモード時）
S/N比	94dB（ダイレクトモード時）
定格出力	1.2V（サブウーハープリアウト、20Hz）
●デジタル部	
デジタル入出力	フォーマット：デジタルオーディオインターフェース
■ビデオ部	
●標準映像端子	
入出力レベル/インピーダンス	1Vp-p/75Ω
●S映像端子	
入出力レベル/インピーダンス	Y（輝度）信号　：1Vp-p/75Ω C（色）信号　　：0.286Vp-p/75Ω
●色差（コンポーネント）映像端子	（D端子）
入出力レベル/インピーダンス	Y（輝度）信号：　　　1Vp-p/75Ω C_B/P_B（青色）信号：0.7Vp-p/75Ω C_R/P_R（赤色）信号：0.7Vp-p/75Ω TV/DBS：D1/D2/D3/D4入力対応 DVD　　：D1/D2出力
■DVD部	
●信号形式	NTSC/PAL
●対応ディスク	（1）DVDーVIDEOディスク 12cm片面1層、12cm片面2層、12cm両面2層（片面1層）、 8cm片面1層、8cm片面2層、8cm両面2層（片面1層） （2）コンパクトディスク（CDーDA、VIDEO CD） 12cmディスク、8cmディスク
●アナログ音声出力	出力レベル　：2Vrms（CDR/TAPE、VCR OUT）
■時計/タイマー部	
時計方式	電源周波数同期方式
タイマー	エブリデイタイマー（DVD）：1系統 スリープタイマー　　　　：最大120分
■総合	
電源	AC100V　50/60Hz
消費電力	98W（電気用品安全法による）　（スタンバイ時：約1W）
最大外形寸法	434（幅）× 80（高さ）× 368（奥行き）mm（フット、つまみ、端子を含む）
質量	6.0kg
■リモコンユニット	RC-902
リモコン方式	赤外線パルス式
電源	DC3V　単3形乾電池2本使用

※（EIAJ）：（社）電子情報技術産業協会（略称JEITA）が制定した規格です。

主な仕様（つづき）

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。
※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※本機は国内仕様です。
必ずAC100Vのコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC100V以外の電源には絶対に接続しないでください。

本製品は、著作権保護技術を採用しており、マクロビジョン社およびその他の著作権利者が保有する米国特許およびその他の知的財産権によって保護されています。この著作権保護技術の使用は、マクロビジョン社の許可が必要で、また、マクロビジョン社の特別な許可がない限り家庭用およびその他の一部の鑑賞用の使用に制限されています。分解したり、改造することも禁じられています。
This product incorporates copyright protection technology that is protected by method claims of certain U.S. patents and other intellectual property rights owned by Macrovision Corporation and other rights owners. Use of this copyright protection technology must be authorized by Macrovision Corporation, and is intended for home and other limited viewing uses only unless otherwise authorized by Macrovision Corporation. Reverse engineering or disassembly is prohibited.

（2）スピーカーユニット【DHT-1000DVのみ】

■USC-A1000

形式	2ウェイ、2スピーカー、密閉型、ブックシェルフ
再生周波数帯域	80Hz～80kHz
入力インピーダンス	6Ω
最大許容入力	40W（EIAJ）、100W（PEAK）
平均出力音圧レベル	89dB（1W・1m）
スピーカーユニット	ウーハー（8cmコーン形×1）、スーパーツィーター（2cmドーム形×1）
寸法	105（幅）× 170（高さ）× 126（奥行き）mm （サランネット、DENONマークを含む）
質量	1.1kg（1台当り）

■USC-C1000

形式	2ウェイ、3スピーカー、バスレフ型、センター
再生周波数帯域	80Hz～80kHz
入力インピーダンス	6Ω
最大許容入力	40W（EIAJ）、100W（PEAK）
平均出力音圧レベル	89dB（1W・1m）
スピーカーユニット	ウーハー（5.7cmコーン形×2）、スーパーツィーター（2cmドーム形×1）
寸法	231（幅）× 67（高さ）× 149（奥行き）mm （サランネット、DENONマークを含む）
質量	1.1kg（1台当り）

■USW-1000

形式	1ウェイ・1スピーカー、バスレフ型、防磁設計
再生周波数帯域	25Hz～240Hz
最大許容入力	80W（EIAJ）、120W（PEAK）
入力インピーダンス	6Ω
スピーカーユニット	16cmコーン型×1
寸法	270（幅）× 312（高さ）× 288（奥行き）mm（DENONマークを含む）
質量	5.9kg（1台当り）

※（EIAJ）：（社）電子情報技術産業協会（略称JEITA）が制定した規格です。

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。
※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※『防磁設計』とは、（社）電子情報技術産業協会（略称JEITA）の技術基準に適合したスピーカーシステムです。

株式会社デノン

本　社　〒113-0034　東京都文京区湯島3-16-11
TEL：（03）3837-5321（代表）

後日のために記入しておいてください。	
購 入 店 名：	電　話（　　-　　-　　）
ご購入年月日：	年　　月　　日

Printed in China　511 3878 108